

平成 25 年度共通教育実施機構会議 活動報告書

I	「共通教育実施機構会議」活動の総括	共通教育実施機構会議常任委員会委員長	1
II	カリキュラム等編成部会		
1	カリキュラム等編成部会のまとめ	カリキュラム等編成部会長	6
2	大学基礎論分科会	大学基礎論分科会長	7
3	課題探求実践セミナー分科会	課題探求実践セミナー分科会長	12
4	学問基礎論分科会	学問基礎論分科会長	-
5	人文分野分科会	人文分野分科会長	13
6	社会分野分科会	社会分野分科会長	15
7	生命・医療分科会	生命・医療分科会長	17
8	自然分野分科会	自然分野分科会長	18
9	外国語分科会	外国語分科会長	21
10	キャリア形成支援科目分科会	キャリア形成支援科目分科会長	-
11	スポーツ・健康分科会	スポーツ・健康分科会長	22
12	日本語・日本事情分科会	日本語・日本事情分科会長	24
III	自己点検・自己評価部会		
1	自己点検・評価活動の全体的状況	自己点検・自己評価部会長	25
2	大学基礎論分科会	大学基礎論分科会長	7
3	課題探求実践セミナー分科会	課題探求実践セミナー副分科会長	41
4	学問基礎論分科会	学問基礎論副分科会長	43
5	人文分野分科会	人文分野副分科会長	85
6	社会分野分科会	社会分野副分科会長	86
7	生命・医療分科会	生命・医療副分科会長	90
8	自然分野分科会	自然分野分科会長	-
9	外国語分科会	外国語分科会長	21
10	キャリア形成支援科目分科会	キャリア形成支援科目副分科会長	-
11	スポーツ・健康分科会	スポーツ・健康副分科会長	93
12	日本語・日本事情分科会	日本語・日本事情副分科会長	98
IV	FD部会		
1	FD部会の活動報告	FD部会長	99
2	大学基礎論分科会	大学基礎論分科会長	7
3	課題探求実践セミナー分科会	課題探求実践セミナー副分科会長	103
4	学問基礎論分科会	学問基礎論副分科会長	43
5	人文分野分科会	人文分野副分科会長	104
6	社会分野分科会	社会分野分科会長	-
7	生命・医療分科会	生命・医療副分科会長	105
8	自然分野分科会	自然分野分科会長	-
9	外国語分科会	外国語分科会長	21
10	キャリア形成支援科目分科会	キャリア形成支援科目副分科会長	-
11	スポーツ・健康分科会	スポーツ・健康副分科会長	106
12	日本語・日本事情分科会	日本語・日本事情副分科会長	107
V	広報部会		
	広報部会のまとめ	広報部会長	108
VI	カリキュラム等開発部会		
	カリキュラム等開発部会のまとめ	カリキュラム等開発部会長	110
VII	学生委員会		
	学生委員会のまとめ	共通教育学生委員会委員	111

I 平成 25 年度「共通教育実施機構会議」活動の総括

共通教育実施機構会議常任委員会
委員長 大石 達良（人文学部）

1. 共通教育実施機構会議及び常任委員会について

(1) 共通教育実施機構会議

共通教育実施機構会議は、計 6 回（5/14、7/26、10/29、12/19、1/30、3/19）開催された。

第 1 回会議において、昨年度総括および中期計画・年度計画を受けて作成した本年度活動方針を承認し、今年度の活動を本格的に始動した。本年度は、以下の 8 つを重点事項とした。

- ①「共通教育の担当責任体制」および「共通教育実施機構の専任教員体制」のあり方については、全学的な教育・組織の改革の議論を踏まえて、共通教育の体制・カリキュラムの全体的な検討の中で議論を行う
- ②次年度の担当体制原案作成（担当コマ数決定）を早期に行う（カリキュラム等編成部会）
- ③課題探求実践セミナーの教育効果の検証を行う（カリキュラム等開発部会）
- ④「協働実践力・表現力・コミュニケーション力・国際性の育成」に重点を置いた授業科目の学生能力育成効果の検証に取り組む（カリキュラム等開発部会、自己点検・自己評価部会）
- ⑤授業改善アクションプランを推進し、外部評価を実施する（自己点検・自己評価部会）
- ⑥授業改善アクションプランと連動した授業改善支援を行う（自己点検・自己評価部会）
- ⑦初年次科目の効果の分析と改善のための検討を行う（自己点検・自己評価部会）
- ⑧授業改善アクションプランに関連した FD を実施する（FD 部会）

各部会の努力および各分科会の協力により、上記の重点事項の多くに関して一定の成果を上げることができた。しかし十分な活動が出来ず課題を積み残した事項もあり、それらに関しては来年度に向けて取り組みを進めていく必要がある。

- ① 担当体制・専任教員体制に関しては議論ができていない。全学の教育組織改革の議論の大枠がまとまったことを踏まえ、各学部とも協力して早急に議論を進める必要がある。
- ②の担当体制は、ほぼ順調に作成作業が進んだ。③の課題探求実践セミナーでは、学生の自己評価方式による教育効果の検証が行われた。ただし客観的指標による教育効果の検証という点に関して課題を残している。④の 4 つの力の育成については、総合教育センター大学教育創造部門と協力し、1 年次の課題探求実践セミナーと 3 年次の専門演習で行った学生の自己能力評価の比較による教育効果の検証が試みられた。⑤の授業改善アクションプランは、昨年度から始めた新形式で実施された。外部評価は次年度 5 月に実施されることになっている。⑥の授業改善アクションプラン関連の授業改善支援は、スチューデントフィードバックの取り組みが実施された。⑦の初年次科目では、例年通り大学基礎論や課題探求実践セミナーで授業評価アンケートが実施されたが、分析に基づく改善の取り組みは十分にはなされておらず、来年度に取り組む必要がある。⑧の FD は、FD ニーズ調査結果に示された教員の関心を踏まえ、授業改善に役立つ手法に関する FD が実施された。

(2) 常任委員会

常任委員会は、計 11 回（4/12、5/7、6/12、6/27、7/23、8/7、10/24、12/17、12/24、1/28、3/12）開催された。共通教育実施機構会議の議題整理及び事前検討を中心に議論がなされ、また予算や専決事項の審議を行った。

2. 部会の取り組みについて

今年度も、「カリキュラム等編成部会」、「カリキュラム等開発部会」「自己点検評価部会」、「FD 部会」、「広報部会」の 5 つの部会を編成し、それぞれの領域における機構会議全体の取りまとめや分科会活動への支援を行った。以下、各部会の取り組みの要点をまとめておく。なお各部会の総括の具体的な内容は、各部会の総括を参照されたい。

(1) カリキュラム等編成部会

編成部会委員の方々の献身的な努力によって、平成 26 年度のカリキュラム編成作業を無事に終えることができた。

人文分野分科会より意見のあった物部キャンパス開講科目の開講については、カリキュラム等編成部会長・人文分野分科会長・農学部学務委員長の間で協議が行われ、次年度は 1 科目削減して開講することになった。

(2) カリキュラム等開発部会

カリキュラム等開発部会は、環境省「環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業」『環境人材育成のための社会協働教育プログラムの開発』（平成 20 年度採択）に基づく教育プログラムを引き続き実施した。

また、課題探求実践セミナー分科会と協力して、課題探求力や協働実践力に関する能力の検証を目的に 1 年生を対象にジェネリックスキルテストを実施した。

(3) 自己点検・自己評価部会

自己点検・自己評価部会は、第Ⅱ期教育力向上 3 カ年計画の期間（平成 23～25 年度）に、共通教育授業担当常勤教員の全員が、1 回以上授業改善アクションプランを実施することをめざし、新形式の授業改善アクションプランを実施した。その中で、総合教育センター大学教育創造部門の援助を得て、スチューデントフィードバックによる授業改善支援も行った。

(4) FD 部会

FD 部会は、FD ニーズ調査を行い、その結果分析に基づき、「グループワークの実践的な導入」と「地域（高知）を題材として授業に取り入れる」をテーマとした FD 研修会を開催した。前者は授業の学習効果を高める手法の一つに関するものであり、後者は地（知）の拠点整備事業（COC）に関連するものである。また、各分科会が独自に行う FD 活動に対して、それぞれ適時必要な支援が行われた。

(5) 広報部会

広報部会は、電子化された広報誌「パイプライン」を 2 回発行した（第 41 号の発行、第 42 号の編集・発行、第 43 号の編集）。また、広報誌の読まれ方調査を、HP へのアクセス数によって点検した。

3. 分科会の取り組みについて

(1) 自律的な分科会活動について

分科会活動は、「カリキュラム編成」「自己点検評価」「FD」という3つの任務を柱として自律的に取り組んでいくことになっている。この自律的な分科会活動を掲げた背景には、共通教育の各分野・領域に対して持続的・総合的に責任を負う組織として分科会を位置づけ、カリキュラム編成だけでなく自己点検評価とFDという任務を重視しそれに対する自覚と取組を高めていくこと、また分科会活動における計画の策定や実施・総括等に関わることで自体を教員のOJT型のFDとすることなどの意図があった。

各分科会は独自に年度活動計画を策定し、それに基づく取り組みを行っている。各分科会では、カリキュラム編成以外にも、分科会の目的意識に従って、授業アンケート・授業参観・FD企画などの独自の取り組みが行われている(下記(3)参照)。取り組み状況は分科会によって異なり、かなり積極的に実施している分科会も見られるが、全体として独自活動が活発に展開されているとは言い難い状況があることも事実である。

このような状況をもたらしている要因として、①平成20年度から分科会委員の任期が2年から1年になり経験的・継続的な取組が難しくなったこと、②委員の選出時期が遅く、分科会の立ち上がり時期が遅くなっていること、③自己点検評価やFDがより多様化しており、分科会独自での対応が難しくなってきたことなどの点があげられる。

このような分析を踏まえて、上記②については、選出時期を早めてもらうよう各学部にて改めて要請することで改善を図り、また、上記①③の解決については、「カリキュラム等編成部会」「自己点検評価部会」「FD部会」と分科会との連携(相互支援)や部会長のリーダーシップの発揮等の対応を模索してきた。また、分科会委員に共通教育の活動方針を理解してもらうことを目的として、分科会委員が選出された時期に、全分科会委員を対象に、今年度の全体基本方針と各部会方針を説明する機会を設けた(5月22日、電子会議システムで実施)。

なお各分科会の取り組みの具体的内容については、各分科会の報告を参照されたい。

(2) カリキュラム編成の取り組み

7月頃に担当体制(基本担当コマ数)の決定、10月～1月頃にカリキュラム編成作業および授業担当者の決定を行った。カリキュラム編成は、各分科会内の議論・調整により、全体として順調に進められた。

(3) 自己点検評価の取り組み

自己点検・自己評価部会全体として、授業改善アクションプランのための5週目アンケート・15週目アンケートが行われており、また分科会でこの取り組みに協力しているところもある。分科会独自の取り組みとしては、次のようなものが実施されている。

大学基礎論分科会…全体として、学生自己分析、授業評価アンケート
 授業担当者間での情報共有・問題点議論(人文学部社会経済学科)
 出席状況の共有(理学部)
 クラス間の授業参観(医学部)

課題探求実践セミナー分科会…セルフ・アセスメント・シート実施
 授業評価アンケートを実施
 ジェネリックスキルテストを実施

学問基礎論分科会…全授業で授業改善アクションプランの実施

人文分野分科会…授業参観の実施、授業改善アクションプランの実施

社会分野分科会…授業改善アクションプランを分科会として奨励し、教員に実施を依頼

生命・医療分科会…「健康」科目・岡豊「医学概論Ⅱ」で授業評価アンケート実施

自然分野分科会…各学部の基本担当コマ数と実施状況の確認
 地域志向授業の増加に向けて開講科目の内容を確認
 外国語分科会…授業改善アクションプランの実施
 キャリア形成支援分科会…
 スポーツ・健康分科会…授業改善アクションプランの実施（剣道）
 日本語・日本事情分科会…授業アンケートの実施

(4) FD 活動の取り組み

FD 部会全体として、共通教育全体の FD 研修が行われており、各分科会で、この取り組みの企画立案および参加者募集等に協力を行っている。それ以外に、分科会独自の取り組みとしては、次のようなものが実施されている。

大学基礎論分科会…授業担当者の FD（情報共有・取り組みの共有）（人文学部）
 成績評価の改善検討（理学部）
 来年度に向けての検討（教育学部）
 講義改善策の提案、改善意識の向上、クラス運営におけるオリター活動内容の検討、アンケートによる授業改善の意見聴取、教員の意識の共有、振り返りレポートの実施、反省会（農学部）
 学科間の学生の間で生ずる温度差等について検討（医学部）
 次年度のグループ分け方式などについて検討（土佐さきがけ）
 課題探求実践セミナー分科会…SPOD フォーラム・秋季 FD セミナー・全学 FD フォーラム・春期 FD フォーラムへの参加
 学問基礎論分科会…各学部で授業参観や意見交流会
 人文分野分科会…授業・試験における不正行為への対応とその課題に関する FD
 社会分野分科会…スチューデント・フィードバックを実施し、実施結果をもとにした評価を担当教員に対するインタビュー方式で行った
 生命・医療分科会…自己点検活動に基づく各教員の自主的研修の働きかけ
 岡豊「スポーツ科学講義」で授業改善アクションプラン実施
 自然分野分科会…共通教育 FD への参加
 外国語分科会…今後の FD 活動に関する検討
 キャリア形成支援分科会…
 スポーツ・健康分科会…授業参観の実施（ディクスゲーム）
 履修者に対する振り返りシートの作成（フィットネス）
 履修者に対する質問紙調査（スポーツ科学講義 A）
 日本語・日本事情分科会…ピア・レビューの実施

4. 共通教育学生委員会について

今年度の学生委員会活動として、広報誌「パイプライン」作成への協力、SPOD 研修フォーラムの学生プログラムへの参加があげられる。

学生委員会に関しては、設立後数年が経ち、その意義や目的が曖昧になっている部分がある。来年度に向け、学生委員会の役割について再検討し、共通教育の発展にとっても意味があり、学生にとってもやりがいのある委員会活動について検討する必要がある。

5. 地（知）の拠点整備事業（COC）について

今年度初頭に方針を確認した後に、COC が申請・採択され、共通教育として対応を行った。

共通教育では、来年度に新たに 10 科目（課題探求実践セミナー4 科目、学問基礎論 1 科目、教養科目 5 科目）を地域志向授業として開講（授業内容転換 7 科目、新設 3 科目）することになった。また、教養科目の地域志向授業の履修方法に関する検討を行った。

COC については、平成 29 年度までの 5 年間の地域志向授業拡大計画が定まっている。共通教育として、最低限、この計画を実施することが求められるが、教養科目の履修方法として選択必修化を行う場合、この計画を上回る数の地域志向授業を創る必要がある。今後、計画的に地域志向授業数を増加させ、地域志向教育が効果的に行われることが保障される体制を整備していく必要がある。

6. その他

- (1) 『平成 25 年度共通教育実施機構活動報告書』は 4 月中に発刊し、WEB 上で公開する。
- (2) 委員の交代や担当業務の変更に伴う引き継ぎについて、4 月以降も新委員から問い合わせがあった際には協力をお願いしたい。

Ⅱ カリキュラム等編成部会

1 カリキュラム等編成部会のまとめ

カリキュラム等編成部会長 高橋 俊（人文学部）

1. カリキュラム等編成の経過

2013.6.13 第1回カリキュラム等編成部会

「平成 26 年度共通教育担当体制に係る基本方針について（案）」を確認した後、本年度のカリキュラム編成スケジュールを確認した。

2013.7.23 第2回カリキュラム等編成部会（メール会議）

各分科会ごとの担当コマ数を確認した。

2013.9.26 第3回カリキュラム等編成部会

各分科会ごとの担当コマ数を了承した後、今後のカリキュラム編成のスケジュールを確認した。

2014.1.23 第4回カリキュラム等編成部会

「平成 26 年度共通教育科目授業題目（案）」が了承された。また、非常勤講師資格審査を行った。

2. 平成 26 年度カリキュラムの変更・改善点

・人文分野の物部開講コマ数については、26 年度は 1 減（ただし朝倉開講分を農学部優先とする）となった。今後については、連絡バスの運行や遠隔授業などを検討しつつ、議論を続けていくことになった。

3. 平成 26 年度への課題・申し送り事項等

・27 年度は大規模な改組が行われる予定であり、共通教育のカリキュラムの変動も予想される。26 年度は部会内部でこれまで以上に緊密に連絡を取り合い、27 年度カリキュラムの円滑な策定に努めたい。

2 大学基礎論分科会

大学基礎論分科会長 藤山 亮治（理学部）

1. 平成 25 年度カリキュラム編成

「大学基礎論」では大きく〈大学で学ぶとは〉〈社会はどのような力を求めているか〉〈地域社会における高知大学の役割と意義〉を大学初年次の早いうちに認識し、更にコミュニケーション能力、プレゼンテーションスキル等も習得してもらうことを教育目標とした、演習主体の授業という大枠は決まっているものの、具体的内容は各学部任されている。25 年度に実施された各学部の内容は以下のようなものである。

人文学部：

3 学科間で内容は異なるが、自発的な学びへの転換、大学で求められる 4 技能（読む、各、話す、聞く）情報収集方法、レポート・レジュメ作成方法、などを主として習得するためのカリキュラム編成が行われた。

理学部：

「大学で学ぶとは」(学部長)、学外講師 3 名の講演（「社会はどんな力を求めているか」「企業から高知大学生に望むもの」「教育界と高知大学」）、「4 年間で有意義に過ごすために」(副学部長、学科長の 4 名)の講義を実施し、7 クラスでの少人数グループワークを通して、学びの姿勢の転換、コミュニケーション能力の獲得、社会の中の大学の位置づけ等の認識を促すカリキュラムを編成した。

講義 2 回目にアドバイザー教員との面談を実施し、欠席数が多い学生については、アドバイザー教員による面談を行った。

教育学部：

【学校教員養成課程】本年度から、これまで課題探求実践セミナー（フレンドシップ事業）の枠内でおこなわれてきた基礎講座を、課題探求実践セミナー（フレンドシップ事業）から独立させ、実習系授業全体の基礎講座と位置づけながら、その内容を拡充したものを、大学基礎論の授業とした。大学基礎論が課題探求実践セミナー（フレンドシップ事業）と並行しておこなわれたことは、大学基礎論への取り組みのモチベーションを高めただけでなく、課題探求実践セミナー（フレンドシップ事業）への取り組みの密度も高める効果があったと思われる。

【生涯教育課程】例年通り、芸文、スポーツ科学、生活環境コース別に専門の授業を用意するとともに全体で、学部長による「大学（教育学部）で学ぶとは」、保健管理センターによる「大学生活とメンタルヘルス」、就職室による「進路について」、図書館による「図書館ツアー」等の講義とそれを受けてのグループワークでカリキュラムを編成した。

農学部：

「大学で学ぶとは」、「地域社会における高知大学の役割と意義」、「国際社会における高知大学の役割と意義」（学内講師 3 名）の基調講演の後、3 クラスに分かれて計 3 クールのグループワークとプレゼンを行った。担当者による初回 FD(4 月 1 日)において、プレゼン時の質疑応答時間の少なさから、論点の取り違えや、提起した問題と結論とのねじれが解消されないことや、プレゼン技法の指導が十分に行えないといった問題点が挙げられた。そこで本年度は第 2、第 3 クールでプレゼンを 2 日間に分けて行うことにより、質疑応答時間の拡充(2 分→5 分)を図った。また、基調講演資料を KULAS に掲載し、学生と担当者がいつでも閲覧できるようにした。これらの実施により、最終プレゼンでは上記の問題が解消されるとともに、昨年度と比較して顕著なプレゼン技術の向上が見られた。

医学部：

専門職教育の色合いが濃い医学部では、よき医療人を養成する目的に沿ったテーマに改編するとともに、医学科・看護学科が併設されているメリットを活かし、合同授業として実施している。テーマは「患者さんの視点から見た医療」、「望ましい医療サービス」、「プロフェッショナリズム（プロフェッショナルとは）」である。授業形態は、各テーマについて〈講義→グループ討論→発表〉を繰り返した。グループ討論ではクラスを 20 グループに分けてチューターが指導に当たった。グループ発表は 5 グループずつ 4 教室に分かれて実施し、それぞれ 1 人の教員が担当して授業の運営と評価を行った。最終日には本学を卒業した若手医療従事者 2 名と学生との対話を行った後、期末試験として最終レポートをまとめさせた。

土佐さきがけ：

グリーンサイエンス人材育成コース、国際人材育成コース、生命・環境人材育成コースの 3 コースの学生に対し、各担当理事、運営委員長、コース長などからの講義と共に、大学での学びに関するグループワーク及びプレゼンテーションを行った。また、中間アンケートを実施し、後半は次の点を留意した。(1)文理のバランスを考える (2)グループワークでは適切な一言を心がける (3)内容を深めるための新たな視点や気づきを与える (4)自分の経験を話す。

2. 自己点検評価活動について人文学部：

3 学科間で内容が異なるが、3 学科ともに担当者間での自己点検評価活動が行われている。社会経済学科では、少人数ゼミと複数担当制を組み合わせた授業を導入しており、1 クール終了ごとに担当者が集まり、学生の出席状況や欠席が続いている学生への対応、ローテーション授業の問題点、学生の反応、学問基礎論への接続などを議論し、担当者間での情報共有をはかった。また、授業の充実度を調べるために学生に対するアンケート調査を実施した（社会経済学科）。

理学部：

学生との動向を把握するために、アドバイザー教員との面談を講義 2 回目に実施し、昨年同様に出席状況を KULAS に入力し、出席状況を共有することにより欠席者への指導を丹念に行った。第 1 週目および第 15 週目に授業評価アンケートを行った。

教育学部：

学生へのアンケートによる授業内容の意見聴取を実施した。

農学部：

担当するクラス間での授業参観や 2 回にわたり授業評価アンケートを実施した（5 月 25 日、6 月 28 日）。

医学部：

担当教員が異動になったため、グループ討論の教室を設営することが困難となった。既存教室に分散して実施したが、特に混乱なく運営することができた。

土佐さきがけ：

グループワークでは理系の先生からも積極的に参画いただき、満足度の向上が図れた。最終アンケートでは、概ね学習到達度は高く、教員の改善点に対してプラスの評価を得た。また環境、地域、食、ビジネスに分けて進めたが、グループワークで第一希望にならなかった学生が混ざることによる議論へのマイナスの影響が指摘された。

3. FD 活動等について

人文学部：

担当者 FD を期間中 3 度開催し、担当者間の情報共有と具体的な取り組みを共有することでよりよい授業内容に改善すべく制度的に取り組んでいる。また、学問基礎論の担当者にも FD に参加してもらい大学基礎論での状況や学生の特徴を共有することで、スムーズな教育の接続をはかっている（社会経済学科）。

大学基礎論の教育効果については、本を読ませるということに対しては成功しているが、研究の入門につなげるという点までは到達できていないという点が指摘された。このため、大学基礎論、学問基礎論の連携で学生の興味関心を広げ、学生の成長を促す仕組みをつくっていくことが今後の課題である（社会経済学科）。

理学部：

ほとんどの学生にとって一定の教育効果は見受けられるが、アンケートの分析結果では一部の学生にとって逆効果になっており、授業の目的が理解されていない点がある。

クラスにより成績評価のバラツキが見られ、成績評価についての検討と担当者間の情報交換が必要と感じる。

教育学部：

【学校教員養成課程】 昨年の内容が盛りだくさんであり、あわただしくスケジュールをこなしているだけという印象が否めない授業となったという問題が、今年度の大学基礎論ではクリアできていたと思われる。そのことを確認のうえ、来年度の大学基礎論へむけた改善点の検討を行ったが、大学基礎論の大枠については変更の必要性は指摘されず、個々の基礎講座やグループワーク等にかかわる微修正についての意見が出されるにとどまった。

【生涯教育課程】 芸術文化コースでは「芸術の楽しさを伝えるということ」をテーマに、プレゼンテーションなどが行われる、一方スポーツ科学コースでは一泊二日の合宿研修の中での学生交流やグループ発表が行われるなど、授業の進め方については各コースに任せられている状況である。このことは同じ授業として内容の整合性が図られているかどうかという点において考慮すべきことのように思われる。

ペアモデレーション実施の検討

各課程でペアモデレーションの実施導入について以下のような検討がなされた。

【学校教員養成課程】 評価について、評価方法や基準を共有する必要性がFDでも指摘されました。検討の結果、「レポート60パーセント、平常点40パーセントの割合で点数をつける。遅刻は授業開始から20分までとし、それ以降は欠席の扱いとする。遅刻および欠席は、その理由を勘案しながら、減点の対象とする」ということが合意された。

【生涯教育課程】 評価については基本的には各コースの担当者が判断すべきことと思われるが、欠席や遅刻、レポートの提出状況などをどの程度の割合で評価の中に反映させるかは当然統一させるべきものとする。シラバスの作成段階に加えて学期の始め及び後半の時期に授業担当者間での評価についての検討や情報交換の場を設ける必要性を感じている。

農学部：

次のように実施した。

4月1日：講義内容を充実させるため、講義改善策の提案、改善意識の向上を図った。

4月24日：クラス運営におけるオリター活動内容の検討を行った。

5月25日：アンケートによる授業改善の意見聴取、教員の意識の共有を行った。

6月28日：同上

7月26日：振り返りレポートの実施、反省会。

その他

プレゼンにおける質疑応答時間の拡充は論点の取り違えや、議論のねじれの校正に効果的であった。一方、学習意欲の乏しいグループおよび個人に対しての適切な指導方法に関しては議論する必要がある。また、本講義は主にインターネットから得た情報を集約し発表することを否定しないが、そこに自らの考察を加える指導を徹底する必要がある。

医学部：

プロフェッショナリズムについて考えさせるテーマで使用するトリガービデオの内容が、「医学科 6 年のある学生がドクターコールに応えられるか思い悩む」というものであり、医学科の学生と看護学科の学生で温度差が生じやすい。コメンテーターの教員からも指摘を受けているため、改善の余地がある。

土佐さきがけ：

環境、地域、食、ビジネスに分けて進めたが、グループワークで第一希望にならなかった学生が混ざることによる議論へのマイナスの影響が指摘されたため、次年度はランダムに分けたグループが自らテーマを議論し、決定する方式に変更する予定である。

3 課題探求実践セミナー分科会

課題探求実践セミナー分科会長
俣野 秀典（総合教育センター）

1. 平成 25 年度カリキュラム編成の経過

学部開講課題探求実践セミナーについては各学部に依頼し、それ以外のセミナーについては各担当者に授業実施を依頼した。

平成 25 年度開講授業題目

人文学部開講セミナー	3 題目
教育学部開講セミナー	2 題目
理学部開講セミナー	3 題目
医学部開講セミナー	2 題目
農学部開講セミナー	1 題目
自律協働入門	1 題目
地域協働入門	4 題目
自由探求学習	2 題目
学びを創る	1 題目
学びを考える	1 題目
国際協力入門	1 題目

（※定員は授業ごとで異なる）

2. 平成 26 年度への課題

担当教員が実施しやすく、かつ学生にとっても履修しやすいようなカリキュラム編成となるよう努力したい。

5 人文分野分科会

人文分野分科会長 大櫛 敦弘（人文学部）

1. 平成25年度の次年度カリキュラム編成の経過

(1) 平成25年6月の第1回カリキュラム等編成部会（以下、「カリ部会」）において承認された平成26年度の共通教育にかかる担当基本人数（案）が、その後の第2回共通教育実施機構会議ならびに各学部での審議・承認をへて確定した。

(2) 平成24年9月の第3回カリ部会において、平成25年度共通教育科目の学域・科目の開講コマ数について提示され、10月の第3回共通教育実施機構会議においてそれが正式に決定したのをうけて、同年度カリキュラム編成にとりかかることになった。

(3) 次項2で詳述する物部キャンパス開講授業の問題についての対応と並行して、カリキュラム編成をおこない、平成26年度開講授業題目表をとりまとめて作成し、平成26年1月の第4回カリ部会、第5回共通教育実施機構会議においてそれぞれ承認された。

2. 物部キャンパス開講授業にかかる検討と課題について

(1) 物部キャンパス開講にかかる平成26年度カリキュラムの編成作業

この問題については平成23年度から24年度にかけてカリ部会長の下に設置されたWGにおいて検討作業が行われており、それについては昨年度の報告に詳しい。

今年度は、カリ部会を通じて農学部と折衝に当たる形がとられることとなった。それに先だって、従来の経緯をふまえ、かつ分科会構成員にはかった上で、おおよそ

1. 物部キャンパスでの開講については趣旨を理解し、できるだけ協力する所存ではあるが、一方で現在の担当体制は限界に来ている。
2. 年3コマで開始した当初に比べて、異分野履修のしぼりは緩くなっているなど、状況は変化している。
3. 受講生数も多くはなく、また心理学などもともと数少ない開講機会（4コマ）を物部出講に当てることによって、朝倉キャンパスでの学生（農学部の一年生も含む）の受講機会がさらに失われるなど、学生の履修上の利益にも関わってくる。
4. 以上より「毎年3コマを担当するのは困難」であり、その場合は2コマ開講とせざるをえないこと、その代替案として、朝倉開講の授業1コマを農学部優先とする。

などの、この問題にのぞむ上での分科会の基本的なスタンスが確認された。

8月には農学部からの平成26年度分の開講依頼をうけて、カリ部会長、共通教育係長との協議が行われ、分科会長は以上のような分科会の立場を説明した。以後、カリ部会を通じた文書によるやりとりを経て、さらに11月には物部キャンパスにおいて高橋カリ部会長、尾形農学部教務委員長、松島分科会委員および分科会長による協議（共通教育・農学部の事務職員も同席）が行われ、それをふまえたカリ部会長の

1. 「人文分野の物部開講コマ数」については、農学部の要望である「3コマ開講」に沿えるよう、できるかぎり配慮する。人文分科会との話し合いが必要な際には、カリキュラム等編成部会を話し合いの場とする。

なお、平成27年度については、「3コマ開講」となる予定である。

2. 「遠隔授業システムや連絡バスの運行」については、カリキュラム等編成部会から積極的に働きかける。とくに遠隔授業については、キャンパス間の教員・学生の移動の問題を解決できるため、全学的に整備を呼びかけていく。

という確認がなされた上で、平成26年度における物部キャンパス開講授業は2コマということに決着し、それに基づいてカリキュラムの編成が行われた。

(2) 平成27年度カリキュラム編成に向けた課題

以上のような経緯によって、平成26年度の物部キャンパス開講授業は確定を見た。ここに至るまでの過程で協力いただいた関係者各位には、深く感謝申し上げます。平成27年度については、まずは農学部からの開講依頼をまっとうして対応を協議するべきものではあるが、心理学のローテーションの関係などから、平成26年度に比べれば比較的余裕をもったのぞめるのではないかと考えられる。

とはいえ、これが構造的な問題であることは間違いないのであり、抜本的な対応が必要とされることはいままでもない。もとよりカリキュラムの大規模な改革が行われれば、その一環としてこの問題についても何らかの方向性が見えてくることが期待される。また昨年度の当欄での報告にもあるように、本来この問題は「共通教育主管あるいはより上位の責任者の下で、すみやかに「真っ当な議論」をおこない、よりよい開講体制を整備する」べきものではある。しかし事態がどのように動くのかはまだ明らかになっていない状況のもとでは、現状を前提としてよりよい対応を模索することは必要であろう。(1)で報告したカリ部会長、農学部側との協議でも、遠隔授業システムや連絡バスの運行、あるいは非常勤講師による開講などの可能性について議論されたが、このように農学部学生も含めた全学部生にとってのよりよい共通教育実施体制を構築し、関係各部署も納得できるような具体的な方途が求められているのである。

6 社会分野分科会

社会分野分科会長 緒方 賢一（人文学部）

1. カリキュラム編成の経過

社会分野分科会では、平成 23 年度から社会分野の基本担当コマ数が 40 から 43 へ増加した。共通教育実施機構のカリキュラム編成方針にもとづき、25 年度の担当体制を踏襲した形で、26 年度のカリキュラム編成作業を行った。

<平成 25 年 10 月～平成 25 年 12 月 カリキュラム編成作業>

社会分野を担当してもらっている人文学部（国際社会コミュニケーション学科、社会経済学科）、教育学部、総合教育センターに次年度担当体制について依頼をし、担当者・時間割を調整し決定した。

<平成 26 年 2 月 カリキュラム編成作業終了>

社会分野が担うべき基本開講数 43 コマ（人文 35、教育 5、総合教育センター1、非常勤 2）の他に、多様な科目を関係する学部等の協力を得て開講するカリキュラムを編成できた。

教養科目では基本開講の 35 題目（旧主題別 18 題目、旧分野別 17 題目）に加えて、19 題目を開講する。3 題目を新たに追加した。共通専門科目基礎科目では基本開講題目数（8 題目）に加えて 4 題目を人文学部の協力を得て学部開講科目として編成することができた。

2. 平成 26 年度カリキュラム編成のポイント

- (1) 同一教員が担当する題目については基本的に物部キャンパス開講とし、同一キャンパス内での重複開講を避けると同時に、キャンパス間での開講科目の均一化を図ることができた。
- (2) 新規開講科目のうち、「お金と経済」は「経済を考える」に代わる題目であり、同一題目の開講数を減らすことができた。
- (3) 新規に「お金と経済」、「女性とライフコース」、「子どもの発達と生活」を開講した。「社会分野」としてよりチャレンジングな題目構成になった。
- (3) 「土佐の海の環境学Ⅰ」は農学部ノルマとして自然分野でカウントした。

3. 課題

- (1) 課題探求実践セミナーが 26 年度（人文学部のみ 27 年度）から全学的に必修化することが決まり、その分他分野の開講科目数を減らすのかどうか、検討すべき課題となった。社会分野では、「ノルマ外」の開講科目が多数あるが、上記の検討課題とあわせて、今後どうしていくべきか、検討する必要がある。課題探求実践セミナー担当者の一部は社会分野科目担当者もなるはずなので、「ノルマ外」の題目を開講し続けることが可能か、担当者ごとに問い合わせる必要がある。
- (2) 26 年度新規開講題目のうち、「子どもの発達と生活」は、「社会分野」としてはなじみがない題目であり、新味があって意欲的な題目であるが、「社会分野」の分野特性あるいは分野の守備範囲等について再検討をすべきかもしれない。教養科目の既存の枠組みについても再検討が必要かもしれない。

7 生命・医療分科会

生命・医療分科会会長
野田 智洋（医学部）

1. 平成25年度カリキュラム編成の経過

各学部担当教員とメールによる連絡調整を行い、カリキュラム編成の基本方針を確認した上で、下記の通り編成作業を行った。

- ・ 1月16日(水)：学部、センター代表者あてに責任者の選任と、開設学期ならびに曜日時間の決定通知を行い、平成24年度授業計画策定の依頼を行った。
- ・ 1月30日(水)：すべての部局から授業計画が提出された。川島先生の転出により、看護学科の担当者が野村先生に変更になった。
- ・ 2月8日(金)：代表者に授業計画一覧表を送り、シラバス登録を依頼した。
- ・ 3月11日(月)：時間割の関係上、実際の授業担当ができないため、看護学科代表者が野村先生から青木先生に変更になった。
- ・ 4月11日(木)授業を開始した。

開講曜日及び時間の決定に当たっては、時間割の移動を極力おさえ、混乱のないよう配慮した。従って、これまでの木曜日開講をベースとした時間割とした。さらにオムニバス形式にするか部局等が独自で開講するかについて検討したが、偏ることなく広い視野にたって授業を提供するという観点から、部局等のオムニバス形式とすることとした。

2. 平成25年度カリキュラムの変更・改善点

「健康」AとBに平成24年度から教育学部の矢野先生が加わっており、授業内容のバランスが良くなっている。25年度より理学部の島内先生による「アルコール学概論」が開講されたため、この分野の選択肢が増えた。

3. 平成26年度への課題

「健康」の各クラス間の受講者数に偏りが生じている。受講者数が多いクラスほど、学生満足度が低い傾向が伺える。受講人数の制限について、共通教育全体で考える必要があるだろう。授業内容については、担当部局の学問特性を生かしつつ、内容が偏ることなく編成したい。

8 自然分野分科会

自然分野分科会長 岡本 達哉（理学部）

1. 自然分野分科会運営体制

自然分野分科会では、「自然科学に関する基礎的な知識と考え方の習得」という目標を実現するため、昨年度と同様に「カリキュラム等編成に関する課題を点検し、カリキュラム編成や実施環境を改善する方針」のもとに分科会活動を行った。

自然分野分科会は、理学部、教育学部、農学部および医学部から選出される 13 名の委員で構成されるため、日程調整等を考慮すると全員が一同に会しての会議は実施が困難である。このため、分科会はメール会議とし、カリキュラム等編成に関する作業や審議依頼に対応した。

副分科会長の選任は、従来からのローテーション（教→理→農→医→教・・・）に従って自己点検担当を農学部、FD 担当を医学部から専任することとなっていた。しかし、両学部の委員に副分科会長の選出・就任を固持されたため、副分科会長を置くことはできなかった。

【自然分野分科会委員】

分科会長：岡本 達哉（理学部，生命）

委員

◆理学部：（数理）小野寺 栄治，（物質）仲野 英司，（物質）金野 大助，（地球）中川 昌治，（情報）三好 康夫

◆教育学部：加納 理成，原田 哲夫

◆農学部：濱田 和俊，中村 洋平，上野 大勢，原 忠

◆医学部：麻生 悌二郎

2. 平成 25 年度カリキュラム

単位互換科目に関する単位認定

徳島大学が提供する以下の単位互換科目の開講についてメール会議で審議を行い、了承した（7月25日）。

第 2 学期開講 自然分野「地震・火山災害を防ぐ」

3. 平成 26 年度カリキュラム

カリキュラム編成作業

第 2 回共通教育実施機構会議（7 月 26 日開催）において共通教育の教育担当体制（基本担当コマ数）が了承されたことを受け、10 月 7 日付けカリキュラム等編成部会長の依頼に基づき平成 26 年度カリキュラム編成作業を開始した。各学部・分野担当科目について分科会委員が分担し、担当者・科目名・開講学期・時間等の変更・修正作業にあたった。

教員の急逝による一部科目の担当者変更などはあったものの、担当者・開講学期・曜日・時限等の確定はほぼ順調に進められた。主要な変更点は以下の通りである。

【科目新設】

「高知の自然と地質資源」（地域志向科目）

【題目変更】

「動物の進化」→「花粉を科学する」

「植物・菌類の生き残り戦略」→「生物科学」

4. 第 61 回中国・四国地区大学教育研究会参加報告

日程：2013 年 6 月 8 日-9 日 開催場所：愛媛大学

参加者：自然分野分科会からは、分科会長が共通教育主管、他分科会等からの参加者とともに出席した（6 月 9 日開催の自然科学分科会のみ）。

自然科学分科会では、『自然科学系科目における学修効果向上のための工夫』をテーマとし、以下の 2 件の発表が行われた。

○「基礎化学教育でのアクティブ・ラーニングの実践」

高原 周一（岡山理科大学理学部化学科 准教授）

○「学士基礎力の育成を目的とした、教養科目における、実験とアクティブ・ラーニングを組み入れた自然科学系授業の実践」

古賀 理和（愛媛大学教育・学生支援機構共通教育センター 講師）

これらの発表では、「クリッカー」を利用することで学生の授業内容に関する興味を高め、積極的に授業に参加するようになった事例などが紹介され、講演後は出席者の間で活発な議論が行われた。

5. 総括

今年度は共通教育に関して大きな変更がなかったため、分科会の活動は次年度のカリキュラム確定作業を中心とする例年とほぼ同様の作業であった。来年度以降は、地域志向科目の増加や、現在検討が行われている理学部、農学部の改組などにより、共通教育の担当体制に関するさらなる議論が必要になるものと予想される。

昨年度の報告書でも検討事項として挙げられた「医学部教養教育との統合」および「共通教育と専門教育の連携」に関しては、今年度も具体的な議論は行われなかった。

自然分野分科会委員は、朝倉、物部、岡豊の 3 キャンパスに分散している。今年度の活動を振り返ると理学部委員の負担が大きく、今後の改善が望まれる。

9 外国語分科会

外国語分科会長 吉門 牧雄（人文学部）

1. カリキュラム編成の経過

- 2013年4月 「英会話」・「大学英語入門」 プレースメントテスト
- 2013年10月 「英会話」・「大学英語入門」 プレースメントテスト
- 2013年2学期 次年度のカリキュラム作成を行う。
- 2014年3月 「英会話」・「大学英語入門」 集中講義実施

2. カリキュラムの変更・改善点

今年度は、前年度の方針を基本的に踏襲してカリキュラム編成を行った。

3. 2014年度への課題

共通教育全体の見直しに伴って、外国語分科会が担当する授業の見直しを行う必要がある。

特に、担当教員の人数が年々減少している現状で、適切な授業負担を実現するためにノルマの見直しが喫緊の課題である。

4. 自己点検・自己評価部会に関する報告

2学期に5週目アンケートを行い、各教員の責任で授業改善を進めた。

5. FD 部会に関する報告

本年度、外国語分科会では、残念ながらFDを行うことはできなかった。

次年度は、英語やドイツ語、フランス語の教員とも議論しながら、FDを実施していくことにしたい。

1 1 スポーツ・健康分科会

スポーツ・健康分科会長 駒井 説夫（教育学部）

1.カリキュラム編成の経過

- 6月18日 カリキュラム編成にあたっての改善点について検討した。
- 10月8日 共通教育の負担(ノルマ)について検討し、次年度も従来通りのコマ数開講を確認した。
- 10月15日 平成25年度スポーツ・健康分野時間割について原案に基づき検討した。
- 11月14日 平成25年度スポーツ・健康分野時間割修正案について検討した。
- 11月30日 平成25年度時間割・担当者について提出した。
- 2月12日 平成25年度健康の授業担当者について追加分を提出した。
- 3月13日 スポーツ・健康分野の24年度総括をおこなった。
- 3月21日 平成25年度に向けての改善点について検討した。

2.カリキュラム編成の確認・変更点及び改善点

(1) 平成24年度を振り返って

スポーツ科学実技に関して、平成23年度は1学期の木曜2時限の受講者が少なく、その対応策として、平成24年度は時間割を変更した。1学期木曜2時限開講科目のうちバドミントンと卓球の時間割を移動することとした。(バドミントンは2時限から4時限へ、卓球は木曜2時限から3時限へ。)これらの変更によりバドミントンは18名から38名へ増加 卓球についても16名から20名(定員を20名と設定した)へ増加した。

平成24年度北体育館改修に伴い2学期北体育館を使用する授業科目について屋外種目への種目変更と南体育館の利用、時間割の変更により対応することとした。その変更による大きなトラブルはなく概ね良好であった。

今年度も健康及びスポーツ科学講義において200名(健康A:229名 D:241名 スポーツ科学講義A:222名 D:260名)を超える受講者があった。一方、スキー・スノーボードは4名、ゴルフ集中は2名と極めて少ないクラスも見られた。

(2) 平成25年度に向けて

開講コマ数は従来通りとした。従来開講してきたバレーボールは非常勤講師変更により次年度は開講しないこととし、硬式テニスを開講することとした。受講者数の観点からフィットネスの時間割を2学期木曜3時限から1学期木曜3時限に変更した。エアロビクスも1・2学期水曜の2時限とすることとした。1学期木曜の4時限バドミントンは実施場所を北体育館から南体育館に変更した。

3. 課題等

スポーツ科学講義の受講者数が極端に多いクラス(260人)があり、授業効率が非常に悪いことなどが指摘された。評価の更なる厳格化を含めてさらに検討することが確認された。

スキー・スノーボード及びゴルフ（アドバンスコース）は平成 24 年度受講生が極端に少なくその対応が今後必要となる。平成 25 年度は、学生への早めの周知、さらにはスキー・スノーボードの場合プロモーションビデオを作成し広報に当たる予定である。

スポーツ科学実技の場合、現在の履修登録システムでは、クラスによっては 4 年生がほとんどを占める場合がある。履修登録はしたものの、1 度も授業を受けない学生、気ままに休む学生がいずれのクラスも多くおり、授業に支障をきたす場合も見られた。そこで、平成 25 年度はオリエンテーションを実施し、履修意思を確認し、定員オーバーの場合厳正な抽選を実施し、適切な履修ができるよう対応したい。

1 2 日本語・日本事情分科会

日本語・日本事情分科会長

神崎 道太郎（国際・地域連携センター）

1 . カリキュラム等の編成経過

9 月～ 翌 2 月カリキュラム等、分科会で話し合う内容についての提案の依頼と

分科会日程調整(メール会議、電話、個別)

- 1 . 2014 年度コマ数と担当配分について
- 2 . 開講科目名と担当教員の決定
- 3 . 2014 年度コマ数と担当配分、ならびに開講科目名と担当教員
(曜日等を含む)最終確認

2 . 問題点と今後の課題

カリキュラム編成の流れについては、基本的に前年度をベースに踏襲した。ただ、今年度も同じく留学生の種別、能力の差、単位取得の必要性の有無等が、複雑に絡み合っている。その複雑な様相をどう解決していくかが、問題点として浮かび上がってきており、同様の問題を抱えたままになっている。能力別に編成するか、また、一定の能力以上の学生のみ受講可能とするか、あるいは留学生の種別の特別編成にするか等、考えられるところではある。さらに、学部の日本語関連科目とうまく噛み合わせる問題もある。何種類かある日本語関連科目との整合性のある関係性を持たせたものになれば学生への効果もさらに期待できると思われる。

今年度も引き続き、人文学部から提案のあったセンター、人文学部教員の担当部分について、センターは日本語科目を、人文学部は日本事情科目を、予定通りそれぞれ統一して分担した。科目構成も、日本語科目 I ～ IV、日本事情科目 I ～ VI への変更を実施した。

実施の結果は、学生からの問題もなく順調に実施されていると思われる。ただ、以前行われていた集中講義等についてどう引き継がれているか等のインフォメーションを学生側へ流すことが若干不足していたようである。今後の反省点としたい。

また、交換留学生と正規留学生との比率において、どんどん交換留学生の比率が増大してきている状況は変わらずである。ある授業では、正規の単位を修得している必要に迫られている学生と単位取得とは関係なく出ている学生が非常にアンバランスな状態のままになっている。通常の共通教育の想定する学生構成とはかけ離れた状況と言わざるを得ない。

どういったカリキュラム等の中にそれぞれ位置づけていかなければならないのか、全学的な視点からも検討していただくことを切に願うものである。

Ⅲ 自己点検・自己評価部会

1 自己点検・評価活動の全体的状況

自己点検・自己評価部会長 松井 透（理学部）

はじめに

自己点検・自己評価部会では本年度も昨年度と同様に「授業改善アクションプラン」の実施を中心に活動を行った。本年度の実施件数は

1. 各教員が独自に実施した意見聴取：17 件
2. 「5 週目・15 週目アンケート」：46 件（5 週目実施：56 件、15 週目実施：48 件）
3. 「スチューデント・フィードバック」：0 件

合計 63 件となっている。授業改善アクションプラン本格実施初年度である平成 24 年度は合計 74 件（独自実施意見聴取：15 件、5 週目・15 週目アンケート：54 件、スチューデント・フィードバック：5 件）となっており、本年度は大幅に減少していた。

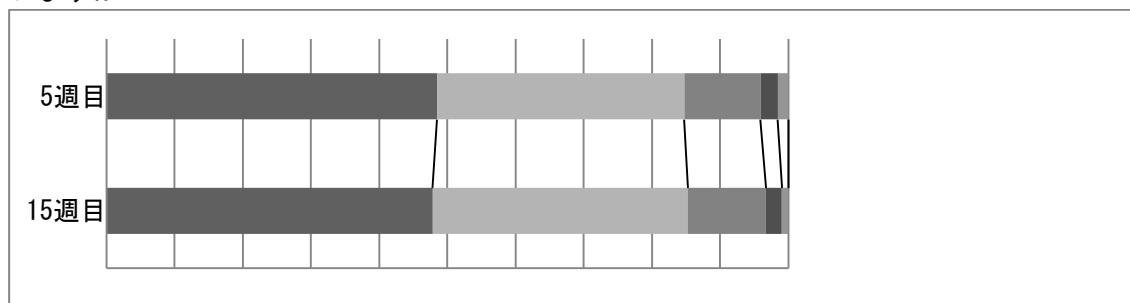
今回は「5 週目・15 週目アンケート」の分析について報告する。

方法

実施したアンケートを付録 1（回答理由選択式）、付録 2（回答理由記述式）に示す。アンケートデータは 1 学期分と 2 学期分を統合し、全授業で実施された「はい」～「いいえ」で回答する選択式アンケート項目と自由記述欄のデータを抽出した。このデータをもとに 5 週目と 15 週目との比較を行った。また 15 週目でのみ実施された項目についてはその割合を円グラフで示した。自由記述欄の分析には MeCab Ver.0.994（工藤 2012）と KH Coder Ver.2 beta 30f（樋口 2004、2014）を用いた。

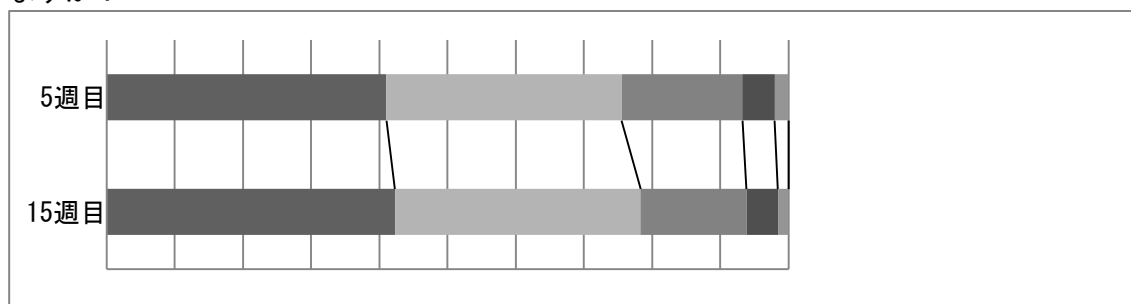
結果

1. この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか？



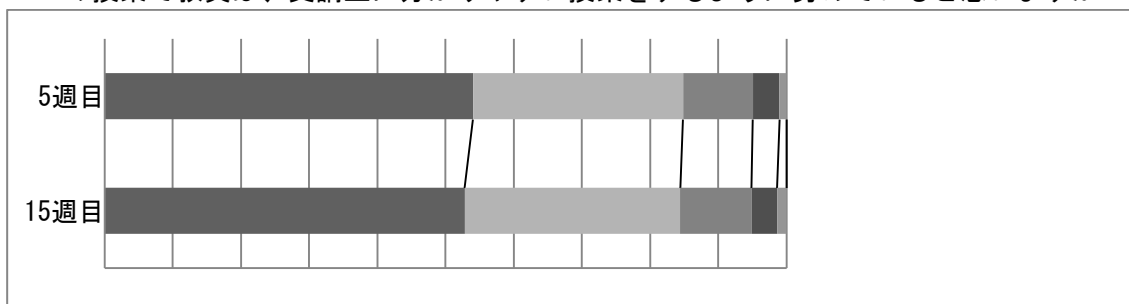
5 週目、15 週目ともに「はい」「どちらかといえばはい」の割合が 80%を越えていた。このことから各教員は受講生の学問的関心や知的好奇心を高める様々な工夫を行っていたことが分かる。ただし、15 週目では「はい」の割合が微減している。これは授業回数が進み、様々な工夫に学生が慣れてきたことが考えられる。

2. この授業で教員は、受講生の知識・能力や興味・関心を確認しながら授業を行っていると思いますか？



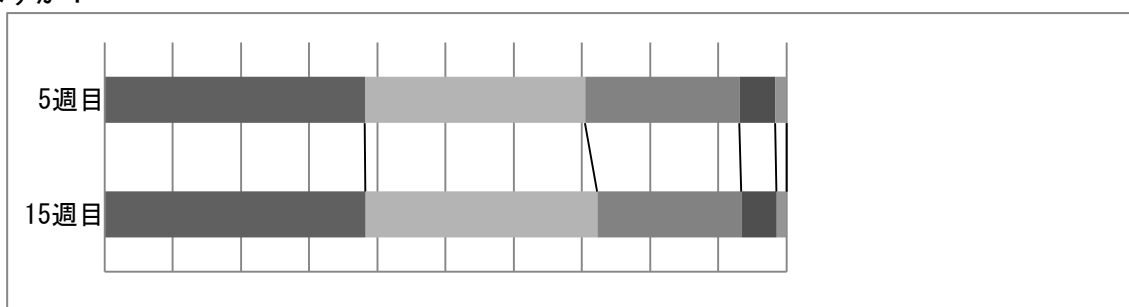
5 週目と比較し、15 週目では「はい」「どちらかというとはい」の割合が増加し、「どちらともいえない」の割合が減少していた。各教員は様々な方法で受講生の知識・能力や興味・関心を確認しながら授業を行っていることが分かる。

3. この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか？



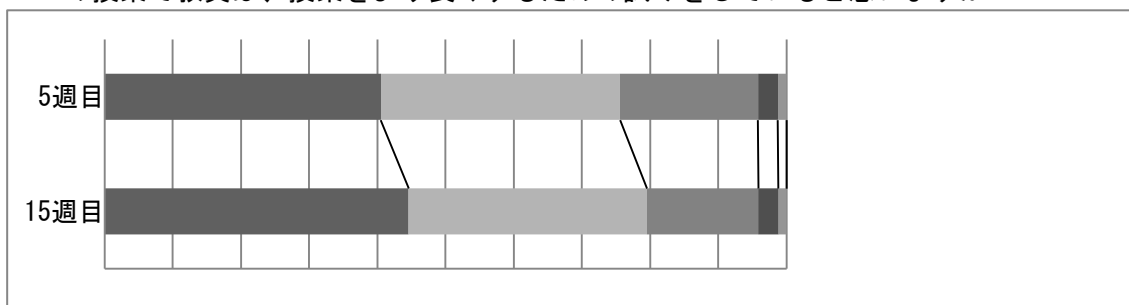
5 週目、15 週目ともに「はい」「どちらかといえははい」の割合が 80%を越えており、各教員は受講生に分かりやすい授業を実施していたことが分かる。5 週目と比較し 15 週目では「どちらかというとはい」の割合が微増し、「はい」の割合が微減していたが、授業回数が進み内容も高度化・専門化していくことを考えると、大きな違いはないものと思われる。

4. この授業で教員は、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていますか？



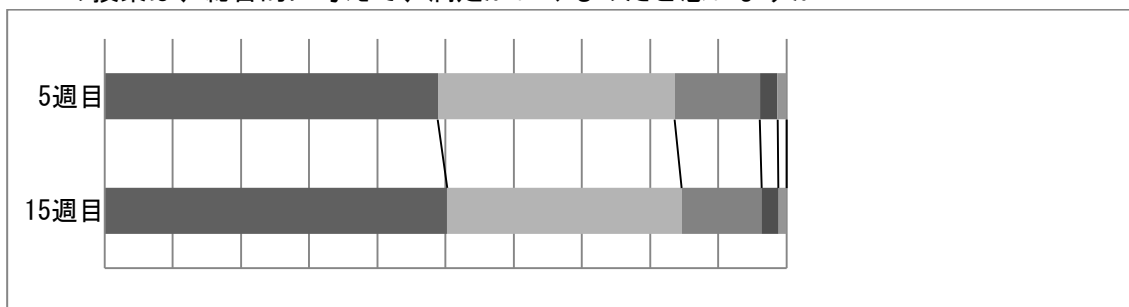
5 週目と比較し、15 週目では「どちらかというとはい」の割合が増加し、「どちらともいえない」の割合が減少していた。一方、「はい」と回答した学生の割合は 5 週目と 15 週目での変化は見られなかった。他項目では「はい」「どちらかといえははい」で 80%前後となっているが、本項目のみ 72%とやや低い割合となっていた。これは各教員が当初から意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていたものの、5 週目以降に大幅な変更が行われなかったものと思われる。

5. この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていますか？



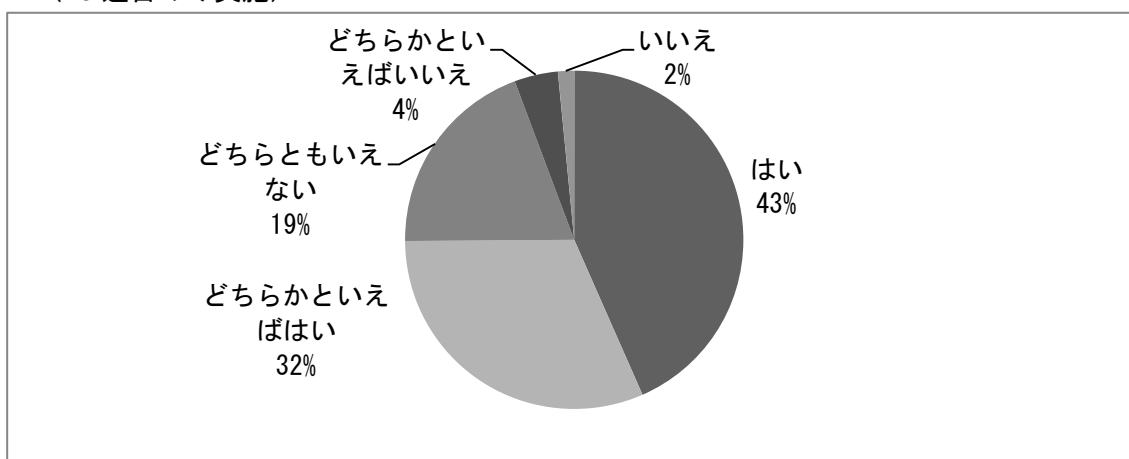
5 週目と比較し、15 週目では「はい」の割合が増加し、「どちらともいえない」の割合が減少していた。これは授業改善アクションプランの成果のひとつであると考えられる。

6. この授業は、総合的に考えて、満足がいくものだと思いますか？



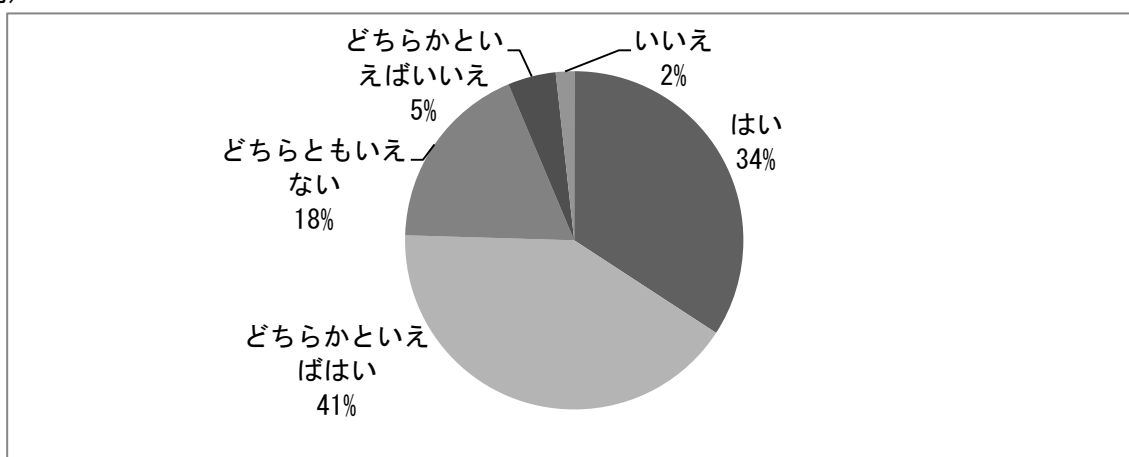
5 週目、15 週目ともに「はい」「どちらかといえばはい」の割合が 80%を越えており、受講生は授業当初から十分満足していたものと思われる。5 週目と比較し、15 週目では「はい」の割合が増加し、「どちらともいえない」の割合が減少しているが、全体的に大きな違いはないものと思われる。

7. 授業改善アクションプラン「〇〇」は、授業をより良いものにするための効果はありましたか？（15 週目のみ実施）



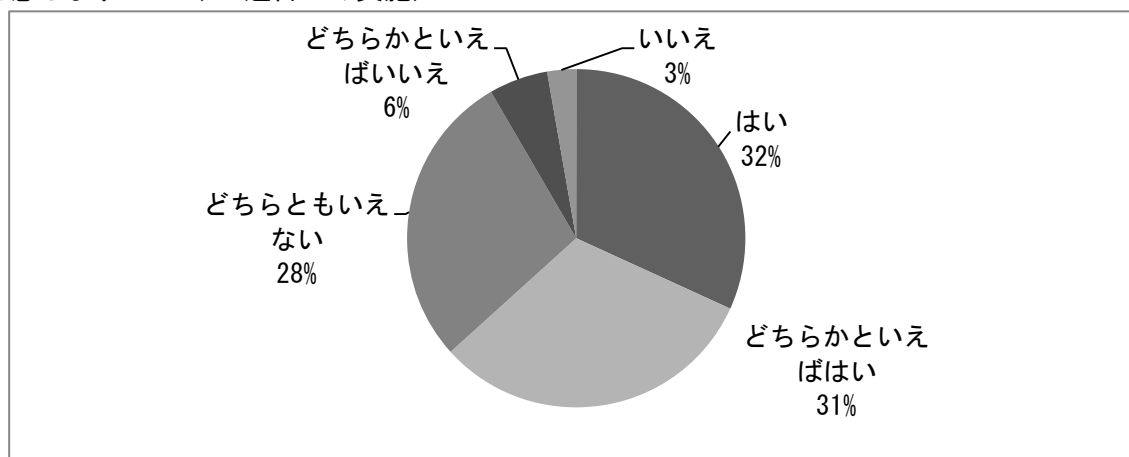
全体の 75%が授業改善アクションプランによって教員から示された改善項目の効果があつたと回答していた。これに対し、否定的な意見は 6%と極めて低かった。これらの結果から、各教員が実施したアクションプランにより授業改善の効果があつた事が分かる。

8. あなたは教員が設定した授業到達目標「〇〇」を達成できたと思いますか？（15 週目のみ実施）



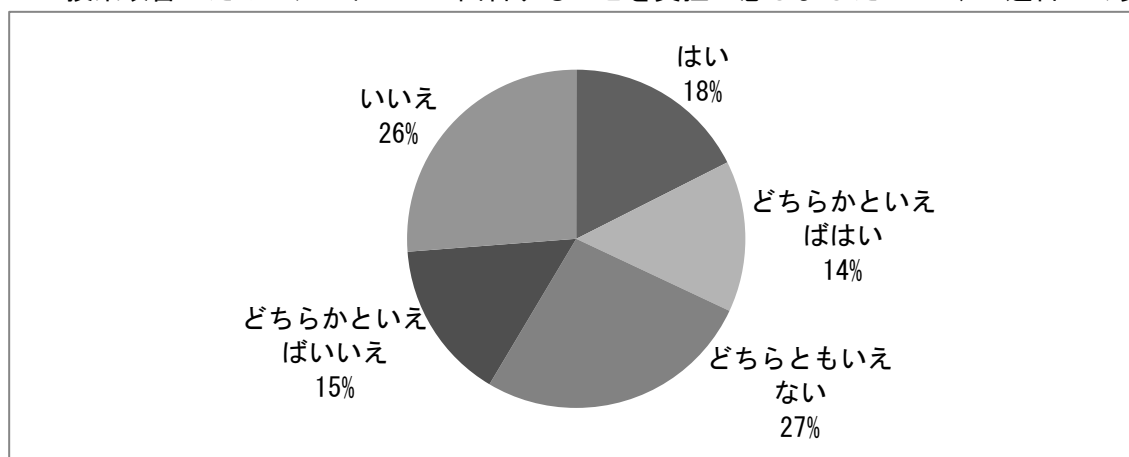
75%の学生が、各教員が設定した授業到達目標を達成できた、あるいはどちらかといえば達成できたと回答していた。否定的な意見は 10%に満たない。ただし、各受講生の成績との関連性は見ることができなかつたため、各教員が望む目標到達であったかどうかは今回のアンケートからは分からない。

9. 授業改善のためのアンケートに回答することにより、受講生の声によって授業が改善されたと感じますか？（15 週目のみ実施）



「はい」「どちらかといえばはい」が全体の 60%に達していた。これに対して否定的な意見は 10%未満となっていた。これらのことから、授業改善アンケートの実施やこの結果を踏まえて各教員が提示したアクションプランが一定の成果をあげているものと考えられる。しかし、「どちらともいえない」と回答した学生が 28%にのぼる事から、アクションプランを作成する際、各教員がアンケートをしっかりと分析する必要がある。

10. 授業改善のためのアンケートに回答することを負担に感じましたか？（15 週目のみ実施）



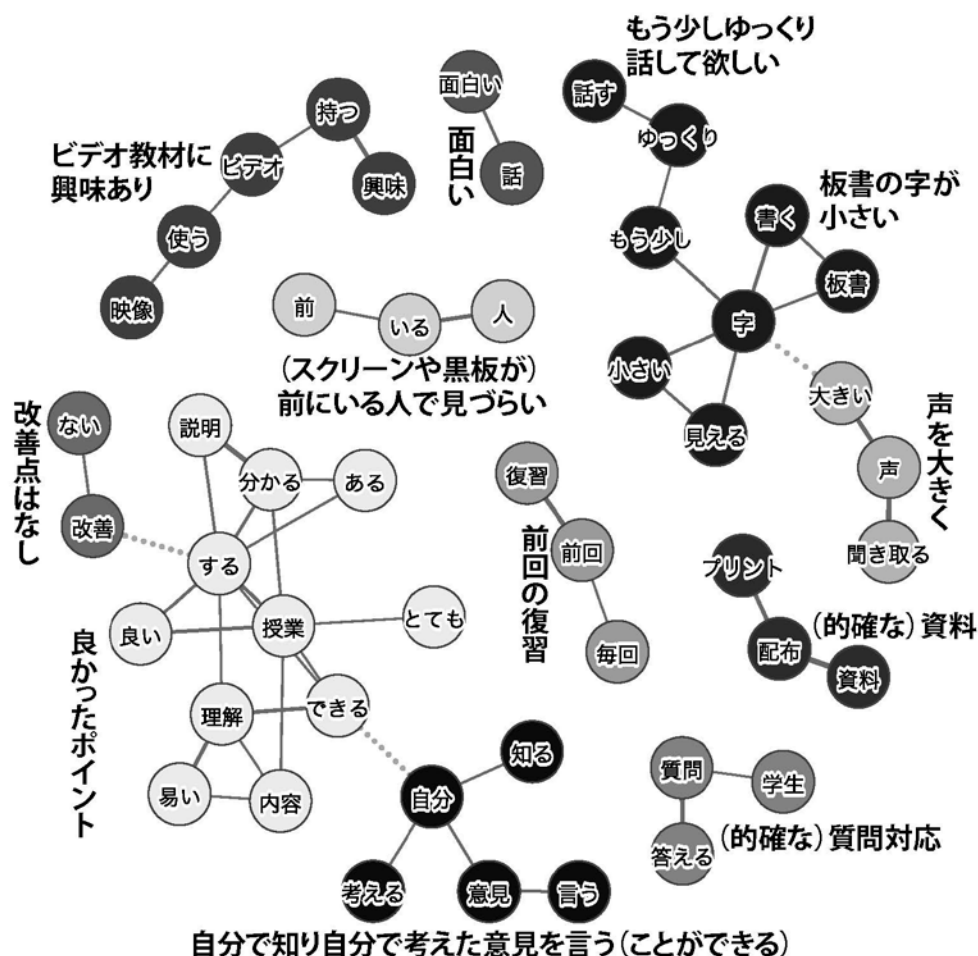
「はい」「どちらかといえばはい」が 30%に達しておりアンケートの負担に感じている学生が一定数いることが分かった。

11. 自由記述欄

自由記述欄には、学生が感じた様々な事項やアンケート項目にない意見、時に辛辣な意見も多く記載されているため、5 週目と 15 週目でどのような違いがあるかの分析を試みた。記載された内容には個人的な事項、授業や教科固有の事項が含まれていたため、まずこれらを除外した。次に自由記述欄に記載された文章を MeCab により形態素（意味の最小単位）に分割し、その出現回数や文章内での出現パターンの類似性（共起）を KH Coder により分析した。

5 週目の自由記述欄

自由記述欄の頻出語の上位 50 を表 1 に示す。「分かる」や「良い」など評価する語とともに、「もう少し」など改善要求と考えられる語も出現していた。次に各抽出語の文章内での関連性を調べるため、共起ネットワークを作成した。今回は抽出語のうち 15 回以上出現したものを選び、その抽出語と共起関係の強い語の上位 50 を抽出した。抽出語間の接続線が太いほど共起関係が強いことを表し、破線はわずかな共起関係を表す。

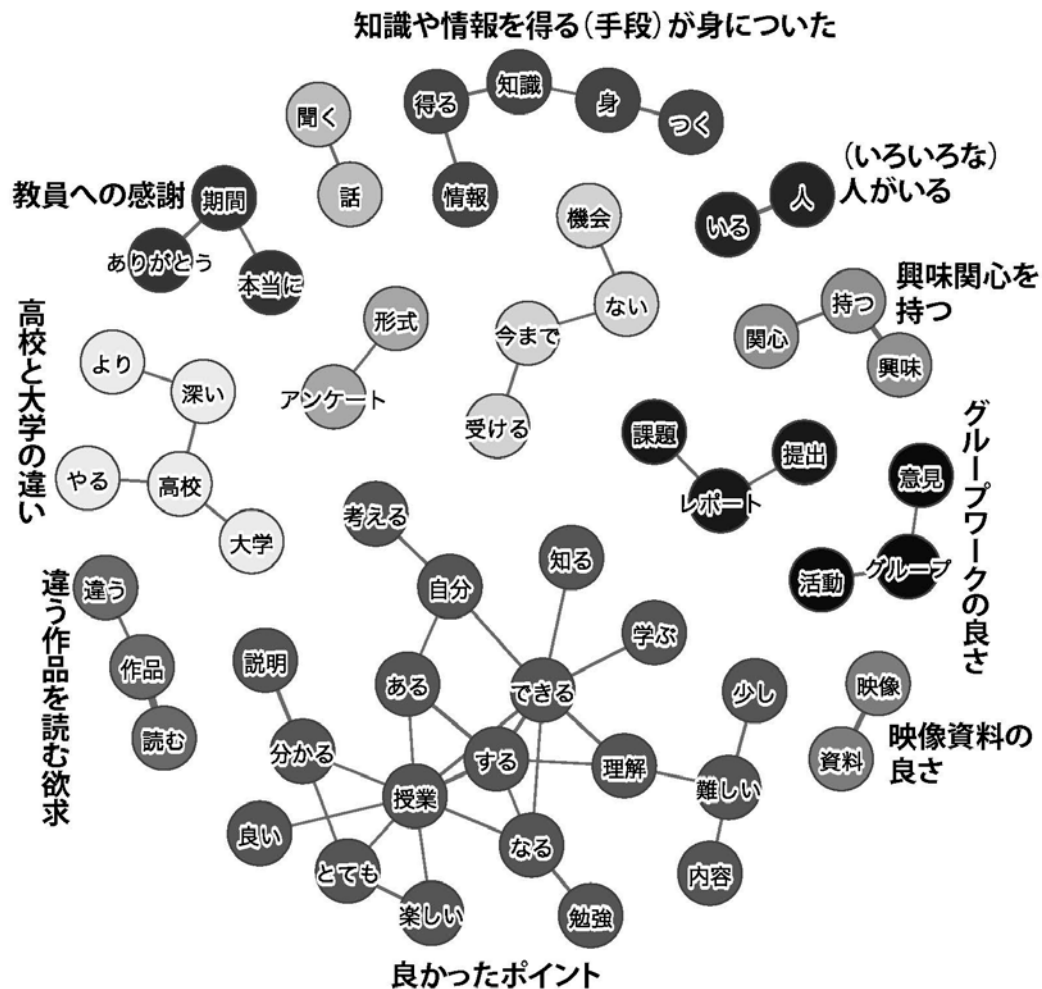


この結果、8つのクラスターに大別された。最も大きなクラスターは「授業」「分かる」「良い」「理解」「とても」などの語からなり、学生が感じた授業がどのように良かったのかを表している。また、このクラスターには「改善」「なし」からなる「改善点はなし」とするサブクラスター、「自分」「考える」「言う」などからなる「自分で知り自分で考えた意見を言う(ことができる)」点を評価したサブクラスターが含まれる。このほか、「ビデオ教材に興味あり」「(的確な)質問対応」「(的確な)資料」「前の復習」「面白」など授業を評価する事項がクラスターを形成していた。

学生が感じている問題点としては「もう少しゆっくり話して欲しい」「板書の字が小さい」「声を大きく」がクラスターを形成していた。また、「(スクリーンや黒板が)前にいる人で見づらい」にも注目したい。共通教育棟には階段教室は少なく、奥行きのある大教室が多い。このため、スクリーンや黒板が見づらいと感じている学生が多いことが分かる。教室の構造は変更できないが、スライド上部に情報を掲載する、黒板は可能な限り上部を利用するなどの対策は可能である。

15 週目の自由記述欄

自由記述欄の頻出語の上位 50 を表 2 に示す。「分かる」や「良い」など評価する語が多く抽出されており、否定的な語はほとんど見られなかった。次に 5 週目分析と同様の方法により共起ネットワークを作成した。



この結果、13 のクラスターに大別された。最も大きなクラスターは、5 週目と同様に「授業」「分かる」「良い」「理解」「とても」などの語からなり、学生が感じた授業がどのように良かったのかを表している。また「少し」「難しい」「内容」も「理解」「できた」と答えた学生も多かった。この他、や「高校と大学の違い」「映像資料の良さ」など受講した授業の良さを示すクラスター、「課題」「レポート」「提出」の効果を実感したとするクラスター、「今まで」に「ない」「機会」を得たとするクラスターなど、一定の教育効果を意味するクラスターも見られた。一方、「人」「いる」からなるクラスターは、いろいろなレベルや受講態度の学生がいる事を意味し、受講生は授業についていけない学生への対処、授業中の態度が悪い学生などへの注意喚起を望んでいるものと思われる。また、「アンケート」「形式」からなるクラスターには本アンケートの形式変更を望むもの、回答の負担を訴えるもの、アンケート結果を参考にしていないのではないか？などの疑問点が含まれていた。

まとめ

本年度の「授業改善アクションプラン」は、昨年度と比較し実施数は減少していたものの、アンケート分析から一定の教育効果をあげていることが明らかとなった。しかし、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫や受講生の声による授業改善についてはさらなる工夫が必要であろう。

また、アンケートに回答することを負担に感じている学生は全体の 30%にも達しており、自由記述欄からもアンケートの形式変更を望む声が少なからず見られた。アンケートの形式や回答内容については次年度の本部会で議論したい。

表 1. 5 週目アンケートの自由記述欄 頻出語 50

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
授業	374	毎回	39
分かる	253	難しい	37
良い	240	易い	36
説明	128	声	36
内容	102	聞く	36
もう少し	86	プリント	35
楽しい	81	考える	34
改善	73	復習	34
板書	71	丁寧	33
理解	71	映像	32
書く	68	資料	32
学生	62	スライド	31
先生	62	意見	31
字	59	見える	30
面白い	58	人	30
自分	56	教える	29
興味	54	大きい	29
時間	51	解説	28
感じる	49	今	28
質問	49	配布	28
多い	47	言う	27
少し	46	受ける	27
見る	45	学ぶ	26
問題	41	講義	26
話	40	レジュメ	25

表 2. 15 週目アンケート自由記述欄 頻出語 50

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
授業	403	受ける	39
分かる	139	受講	38
良い	123	問題	38
楽しい	121	知識	37
自分	109	聞く	35
感じる	88	今まで	32
先生	88	大変	32
学ぶ	78	テスト	30
理解	74	使う	30
内容	71	学べる	29
考える	68	課題	28
多い	66	持つ	27
難しい	63	読む	27
知る	59	文化	27
面白い	57	毎回	26
興味	53	機会	25
説明	51	社会	25
講義	49	身	25
学生	48	もう少し	24
人	48	アンケート	23
少し	47	改善	23
勉強	43	好き	23
話	41	レポート	22
見る	40	興味深い	22
時間	40	高校	22

付録 1. 5 週目・15 週目アンケート（回答理由選択枝式）

共通教育「5週目アンケート」(回答理由選択枝式)

このアンケートは、授業期間内にこの授業を改善するために受講生の意見を聴くものです。
 教員を評価するものではなく、また皆さんの成績に関係するものでもありません。
 その点をよく理解した上で、この授業を良くするという観点から、適切な回答をお願いします。

【全授業共通質問】

★下記の質問に、(はい)①~いいえ⑤の5段階評価で回答して下さい。
 また、そのように回答した理由を答えて下さい(理由は複数回答可)。(いずれも回答番号を塗りつぶして下さい)

はい
 ①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 いいえ

1. この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか	① ② ③ ④ ⑤
① 授業で学問の最先端に触れる話をしている ② 授業内容が学問や社会の現代的課題に応えている ③ 授業内容が受講生の関心・興味に合っている ④ その他→()	① 授業で学問の最先端に触れる話をしていない ② 授業内容が学問や社会の現代的課題に応えていない ③ 授業内容が受講生の関心・興味に合っていない ④ その他→()
2. この授業で教員は、受講生の知識・能力や興味・関心を確認しながら授業を行っていると思いますか	① ② ③ ④ ⑤
① シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示している ② 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査(アンケートや小テストなど)をしている ③ 受講生の反応を見ながら授業を行っている ④ 学生の理解度を確かめるような問い掛けをしている ⑤ その他→()	① シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示していない ② 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査(アンケートや小テストなど)をしていない ③ 受講生の反応を見ながら授業を行っていない ④ 学生の理解度を確かめるような問い掛けをしていない ⑤ その他→()
3. この授業で教員は、受講主に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	① ② ③ ④ ⑤
① 授業の目的・目標を明確にしている ② 声の大きさや話し方が適切である ③ 説明の仕方が適切である ④ 授業を進める速度が適切である ⑤ 配布資料・視聴覚資料・教材などが適切である ⑥ 板書が適切である ⑦ その他→()	① 授業の目的・目標を明確にしていない ② 声の大きさや話し方が適切でない ③ 説明の仕方が適切でない ④ 授業を進める速度が適切でない ⑤ 配布資料・視聴覚資料・教材などが適切でない ⑥ 板書が適切でない ⑦ その他→()
4. この授業で教員は、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていると思いますか	① ② ③ ④ ⑤
① 授業の予習・復習を促している ② 学生が時間外学習を行うための課題を提示している ③ 学生の自主的学習に対する助言や支援をしている ④ 質問に対して丁寧に答えている ⑤ 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしている ⑥ 授業に参加型学習を取り入れている ⑦ その他→()	① 授業の予習・復習を促していない ② 学生が時間外学習を行うための課題を提示していない ③ 学生の自主的学習に対する助言や支援をしていない ④ 質問に対して丁寧に答えていない ⑤ 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしていない ⑥ 授業に参加型学習を取り入っていない ⑦ その他→()
5. この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	① ② ③ ④ ⑤
① 授業を良くするための工夫や熱意が感じられる ② アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させている ③ 学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしている ④ その他→()	① 授業を良くするための工夫や熱意が感じられない ② アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させていない ③ 学生に対して授業を良くするための努力を求める要求をしていない ④ その他→()
6. この授業は、総合的に考えて、満足がいくものだと思いますか	① ② ③ ④ ⑤
【回答の理由】	左に理由を記述して下さい

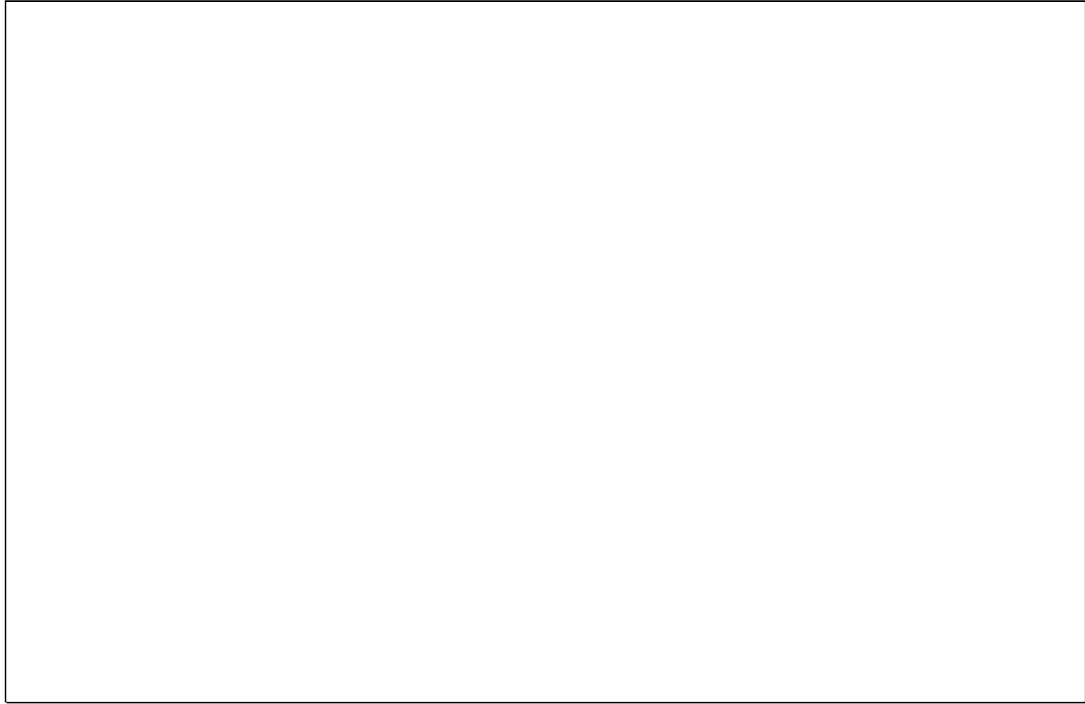
【授業別の質問】(授業担当教員から指示がある場合、その指示にしたがって回答して下さい)

1	① ② ③ ④ ⑤
2	① ② ③ ④ ⑤
3	① ② ③ ④ ⑤
質問1の回答理由	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
質問2の回答理由	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
質問3の回答理由	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

裏に続きます⇒⇒⇒

【自由記述】

あなたが、この授業に関して感じていることを、自由に記述して下さい
とくに、この授業の「良い点」および「改善して欲しい点」について、強く感じていることを記述して下さい



ご協力ありがとうございました

共通教育「15週目アンケート」(回答理由選択肢式)

このアンケートは、教員が第4週目アンケートをもとに実施した「授業改善アクションプラン」について、その効果を検証するものです。教員と学生が一緒になって授業を良くしていくという趣旨をよく理解して、アンケートに回答して下さい。

【全授業共通質問】

★下記の質問に、(はい)①～いいえ)⑤の5段階評価で回答して下さい。
また、そのように回答した理由を答えて下さい(理由は複数回答可)。(いずれも回答番号を塗りつぶして下さい)

はい
①
②
③
④
⑤
いいえ

1. この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか	① ② ③ ④ ⑤
① 授業で学問の最先端に触れる話をしている ② 授業内容が学問や社会の現代的課題に込んでいる ③ 授業内容が受講生の関心・興味に合っている ④ その他→()	⑥ 授業で学問の最先端に触れる話をしていない ⑦ 授業内容が学問や社会の現代的課題に込んでいる ⑧ 授業内容が受講生の関心・興味に合っていない ⑨ その他→()
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ (⑩にチェックした方は左の())に理由を記して下さい)	
2. この授業で教員は、受講生の知識・能力や興味・関心を確認しながら授業を行っていると思いますか	① ② ③ ④ ⑤
① シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示している ② 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査(アンケートや小テストなど)をしている ③ 受講生の反応を見ながら授業を行っている ④ 学生の理解度を確かめるような問い掛けをしている ⑤ その他→()	⑥ シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示していない ⑦ 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査(アンケートや小テストなど)をしていない ⑧ 受講生の反応を見ながら授業を行っていない ⑨ 学生の理解度を確かめるような問い掛けをしていない ⑩ その他→()
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ (⑩にチェックした方は左の())に理由を記して下さい)	
3. この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	① ② ③ ④ ⑤
① 授業の目的・目標を明確にしている ② 声の大きさや話し方が適切である ③ 説明の仕方が適切である ④ 授業を進める速度が適切である ⑤ 配布資料・視聴覚資料・教材などが適切である ⑥ 板書が適切である ⑦ その他→()	⑧ 授業の目的・目標を明確にしていない ⑨ 声の大きさや話し方が適切でない ⑩ 説明の仕方が適切でない ⑪ 授業を進める速度が適切でない ⑫ 配布資料・視聴覚資料・教材などが適切でない ⑬ 板書が適切でない ⑭ その他→()
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ (⑩にチェックした方は左の())に理由を記して下さい)	
4. この授業で教員は、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていると思いますか	① ② ③ ④ ⑤
① 授業の予習・復習を促している ② 学生が時間外学習を行うための課題を提示している ③ 学生の自主的学習に対する助言や支援をしている ④ 質問に対して丁寧に答えている ⑤ 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしている ⑥ 授業に参加型学習を取り入れている ⑦ その他→()	⑧ 授業の予習・復習を促していない ⑨ 学生が時間外学習を行うための課題を提示していない ⑩ 学生の自主的学習に対する助言や支援をしていない ⑪ 質問に対して丁寧に答えていない ⑫ 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしていない ⑬ 授業に参加型学習を取り入れている ⑭ その他→()
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ (⑩にチェックした方は左の())に理由を記して下さい)	
5. この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	① ② ③ ④ ⑤
① 授業を良くするための工夫や熱意が感じられる ② アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させている ③ 学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～～して欲しい」といった努力を求める要求をしている ④ その他→()	⑤ 授業を良くするための工夫や熱意が感じられない ⑥ アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させていない ⑦ 学生に対して授業を良くするための努力を求める要求をしていない ⑧ その他→()
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ (⑩にチェックした方は左の())に理由を記して下さい)	
6. この授業は、総合的に考えて、満足がいくものだと思いますか	① ② ③ ④ ⑤
【回答の理由】	左に理由を記述して下さい

【授業別の質問】(授業担当教員から指示がある場合、その指示にしたがって回答して下さい)

1	① ② ③ ④ ⑤
2	① ② ③ ④ ⑤
3	① ② ③ ④ ⑤
質問1の回答理由	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
質問2の回答理由	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
質問3の回答理由	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

裏に続きます⇒⇒⇒

【授業改善アクションプランの効果】

- | |
|---|
| 1. 授業改善アクションプラン「〇〇〇〇〇」は、授業をより良いものにするために効果がありましたか |
| 2. 授業改善アクションプラン「☆☆☆☆☆☆」は、授業をより良いものにするために効果がありましたか |
| 3. 授業改善アクションプラン「△△△△△」は、授業をより良いものにするために効果がありましたか |

※「〇〇〇〇〇」等の部分は、当該授業担当教員が作成した「授業改善アクションプラン」

【学生の諸能力の獲得(授業到達目標の達成)】

- | |
|----------------------------|
| 1. あなたは「●●●●●」を達成できたと思いますか |
| 2. あなたは「★★★★★」を達成できたと思いますか |
| 3. あなたは「▲▲▲▲▲」を達成できたと思いますか |

※「●●●●●」等の部分は、当該授業のシラバスに記されている授業到達目標

【授業改善アンケートの効果と負担】

- | |
|--|
| 1. 授業改善のためのアンケートに回答することにより、受講生の声によって授業が改善されたと感じますか |
| 2. 授業改善のためのアンケートに回答することを負担に感じましたか |

【自由記述】

あなたが、この授業に関して感じたり考えたりしたこと、2学期間受講しての感想等を自由に記述して下さい

ご協力ありがとうございました

付録 2. 5 週目・15 週目アンケート（回答理由記述肢式）

共通教育「5週目アンケート」(回答理由記述式)

このアンケートは、授業期間内にこの授業を改善するために受講生の意見を聴くものです。
 教員を評価するものではなく、また皆さんの成績に関係するものでもありません。
 その点をよく理解した上で、この授業を良くするという観点から、適切な回答をお願いします。

はい	どちらかというとはいい	どちらともいえません	どちらかというといいえ	いいえ
----	-------------	------------	-------------	-----

【全授業共通質問】

★下記の質問に、はい①～いいえ⑤の5段階評価で回答して下さい。〔回答番号を塗りつぶして下さい〕
 また回答の理由について記述して下さい。

1. この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか 【回答の理由】	①	②	③	④	⑤
2. この授業で教員は、受講生の知識・能力や興味・関心を確認しながら授業を行っていると思いますか 【回答の理由】	①	②	③	④	⑤
3. この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか 【回答の理由】	①	②	③	④	⑤
4. この授業で教員は、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていると思いますか 【回答の理由】	①	②	③	④	⑤
5. この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか 【回答の理由】	①	②	③	④	⑤
6. この授業は、総合的に考えて、満足がいくものだと思いますか 【回答の理由】	①	②	③	④	⑤

【授業別の質問】(授業担当教員から指示がある場合、その指示にしたがって回答して下さい)

はい	いいえ
----	-----

1 【回答の理由】	①	②	③	④	⑤
2 【回答の理由】	①	②	③	④	⑤
3 【回答の理由】	①	②	③	④	⑤

裏に続きます⇒⇒⇒

【自由記述】

あなたが、この授業に関して感じていることを、自由に記述して下さい
とくに、この授業の「良い点」および「改善して欲しい点」について、強く感じていることを記述して下さい



ご協力ありがとうございました

共通教育「15週目アンケート」(回答理由記述式)

このアンケートは、教員が第5週目アンケートをもとに実施した「授業改善アクションプラン」について、その効果を検証するものです。教員と学生が一層になって授業を良くしていくという趣旨をよく理解して、アンケートに回答して下さい。

【全授業共通質問】

★下記の質問に、(はい①～いいえ⑤)の5段階評価で回答して下さい。〔回答番号を塗りつぶして下さい〕
また回答の理由について記述して下さい。

いいえ
どちらかというといいえ
どちらともいえない
どちらかというといはい
はい

1. この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか 【回答の理由】	① ② ③ ④ ⑤
2. この授業で教員は、受講生の知識・能力や興味・関心を確認しながら授業を行っていると思いますか 【回答の理由】	① ② ③ ④ ⑤
3. この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか 【回答の理由】	① ② ③ ④ ⑤
4. この授業で教員は、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていると思いますか 【回答の理由】	① ② ③ ④ ⑤
5. この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか 【回答の理由】	① ② ③ ④ ⑤
6. この授業は、総合的に考えて、満足がいくものだと思いますか 【回答の理由】	① ② ③ ④ ⑤

【授業別の質問】(授業担当教員から指示がある場合、その指示にしたがって回答して下さい)

いいえ
はい

1 【回答の理由】	① ② ③ ④ ⑤
2 【回答の理由】	① ② ③ ④ ⑤
3 【回答の理由】	① ② ③ ④ ⑤

裏に続きます⇒⇒⇒

【授業改善アクションプランの効果】

1. 授業改善アクションプラン「〇〇〇〇〇」は、授業をより良いものにするために効果がありましたか
2. 授業改善アクションプラン「☆☆☆☆☆☆」は、授業をより良いものにするために効果がありましたか
3. 授業改善アクションプラン「△△△△△」は、授業をより良いものにするために効果がありましたか

※「〇〇〇〇〇」等の部分は、当該授業担当教員が作成した「授業改善アクションプラン」

【学生の諸能力の獲得(授業到達目標の達成)】

1. あなたは「●●●●●」を達成できたと思いますか
2. あなたは「★★★★★」を達成できたと思いますか
3. あなたは「▲▲▲▲▲」を達成できたと思いますか

※「●●●●●」等の部分は、当該授業のシラバスに記されている授業到達目標

【授業改善アンケートの効果と負担】

1. 授業改善のためのアンケートに回答することにより、受講生の声によって授業が改善されたと感じますか
2. 授業改善のためのアンケートに回答することを負担に感じましたか

【自由記述】

あなたが、この授業に関して感じていることを、自由に記述して下さい
 とくに、この授業の「良かった点」および「改善して欲しい点」について、強く感じていることを記述して下さい

ご協力ありがとうございました

3 課題探求実践セミナー分科会

課題探求実践セミナー副分科会長 中城 満（教育学部）

教育学部の課題探求セミナーでは、本授業の教育効果を検討すること目的として、教師に必要な力量に関する受講生の自己評価が本セミナーを通してどのように変化したのかを質問紙法によるアンケート調査を毎年実施している。今回は教育学部のケースに特化して分析（点検・評価）する。

質問紙はフレンドシップ事業運営委員会によって作成されたもので、本セミナーにおいて継続的に用いられているものである。質問は、教育や子どもへの関わりや実践的活動に対する意識などに関する 20 項目から構成されている。回答は 5 つの選択肢から選択するもので、選択肢は中立的評価（何とも言えない）を中心に、肯定的評価（そう思う・非常にそう思う）、否定的評価（そう思わない・全くそう思わない）からなる（ただし質問項目③、⑤、⑥は逆転項目）。

対象は本セミナーの全受講生であり、平成 25 年度は教育学部学校教育教員養成課程 1 年生 103 名であった。

調査は本セミナーの開始時（事前調査：第 1 回オリエンテーション終了後）および終了時（事後調査：シンポジウム終了後）の 2 回実施された。

分析は事前調査と事後調査の両方に回答がある者で回答に欠損がない者を対象とした。まず回答の 5 選択肢について、「全くそう思わない = 1」、「そう思わない = 2」、「何とも言えない = 3」、「そう思う = 4」、「非常にそう思う = 5」とコードした。各質問項目に対する事前・事後における回答パターンを比較し、受講生の意識の変化について検討した。

1. 調査の結果

全受講生のうち回答が得られたのは、事前調査で 100 名、事後調査で 101 名であり、両調査で回答が揃った 99 名を分析対象とした。これらの回答は、子どもの接し方に関する項目（①～⑧）、教師としての仕事の行動・実践力に関する項目（⑨～⑭）、他者との協調性に関する項目（⑮～⑰）、教職・教育に対する意識に関する項目（⑱～⑳）に大別される。大別されたグループごとに事前・事後での回答パターンを比較した。

子どもの接し方に関する項目（①～⑧）：「①健全な教育観や児童感を持っている」、「④子どもの喜ばせ方を心得ている」の項目は、受講生全体のそれぞれ約 15%、約 11%が中立・否定的評価から肯定的評価へ変化した。一方、「⑥子供の考え方がわからない（逆転項目）」は、受講生全体の約 12%が肯定的評価から中立・否定的評価へ変化した。それ以外の項目から、顕著な変化は認められなかった。

教師としての仕事の行動・実践力に関する項目（⑨～⑭）：「⑨危険防止のためにすることがわかる」、「⑩与えられた仕事を迅速かつ確に処理できる」、「⑪率先して行動できる」、「⑫子供に対する言葉遣いに注意している」、「⑬自分の役割を自覚して行動できる」、「⑭集団行動や遊びを企画できる」は、受講生全体のそれぞれ約 11%、約 14%、約 17%、約

23%、約 12%、約 16%が中立・否定的評価から肯定的評価へ変化した。それ以外の項目から、顕著に変化した項目は認められなかった。

他者との協調性に関する項目（⑮～⑰）：「⑯諸機関や団体と接触し十分に交渉できる」は、受講生全体の約 13%が中立・否定的評価から肯定的評価へ変化した。それ以外の項目から、顕著に変化した項目は認められなかった。

教職・教育に対する意識に関する項目（⑩～⑳）：他のグループと比較して大きく異なる点は、事前調査での肯定的評価が「⑩教育とても関心がある」（受講生全体の約 92%）、「⑱教職に就きたい」（受講生全体の約 88%）、「⑳実践的指導力を身につける授業に取り組みたい」（受講生全体の約 95%）と突出して高かったことである。教員になりたいという強い気持ち反映されている。いずれの項目も肯定的評価から中立・否定的評価への変化は認められなかった。

2. 考察

本セミナーは、教員としての実践的指導力を育成することを意図して、教育委員会や小学校、青少年育成協議会のご協力を得ながら、実際に子ども達と活動を行うものである。セミナーの中で受講生は、環境ボランティア活動および地域・学校ボランティア活動において、主体的に活動内容を企画し、交渉を行い、実践した。これら活動を経験することで、子供の接し方、教師としての行動・実践力における自信が総じて高まったと考えられる。特に、教師としての仕事の行動・実践力に関するすべての項目で、肯定的な評価へ顕著な変化が認められた。しかし、否定的な変化がみられた「⑥子どもの考え方がわからない」は、子ども達と活動を共にすることで初めて気づくことである。受講生は、実際に子ども達と接する経験を持ったことで自信を深めたと同時に難しさも感じたものと考えられる。また、教職・教育に対する意識に関する項目では否定的な変化は見られなかったが、「⑱教職に就きたい」では「非常にそう思う」と回答していた受講生が 62 名から 51 名へと大きく減少した。当初持っていた教員という仕事のイメージとは違ったものを感じている受講生の複雑な心境が窺える。

教育学部では、4 年間のカリキュラムを積み上げることで、教員として必要な知識や実践力などの資質を獲得していく。この間、自分自身の課題を見つけ解決する過程を繰り返すことが求められる。教員という仕事の困難さを認識しつつ、その中からやりがいを見出し、強い気持ちを持って目標に向かって精進することを期待したい。

調査結果から、本セミナーを通して受講生は種々の活動の企画運営し、実際に子ども達と接することで、教員に求められる資質に関する事柄を学び取り自信を深めていることがわかった。同時に教員の仕事の困難さを学び、不安や戸惑いを感じながら自らの課題を見出していることが示唆された。以上のことから、本セミナーは受講生の教員としての実践的な力量を育成するという目標に対し、高い教育的効果をもたらしていると判断された。

4 学問基礎論分科会

学問基礎論分科会 副分科会長 F D 部会
土井原 崇浩 (教育学部)
学問基礎論分科会 副分科会長 自己点検・自己評価部会
高田 淳 (医学部)

1. はじめに
2. 分析方法
3. アンケート分析結果
 3. 1 学校教育教員課程 [土井原]
 3. 2 生涯教育課程 (芸術文化、スポーツ科学、生活環境) [土井原]
 3. 3 社会経済学科 [土井原]
 3. 4 人間文化学科 [土井原]
 3. 5 国際社会コミュニケーション学科 [高田]
 3. 6 理学部 [高田]
 3. 7 農学部 [高田]
 3. 8 医学部 [高田]
 3. 9 土佐さきがけプログラム [高田]

* []内は担当者名

4. まとめと提言

1. はじめに

平成 23 年度初年次科目「大学基礎論」(2 単位)の自己点検・自己評価と F D 調査を行うため、全学部〔土佐さきがけ・ I E P コース & L E コース、国際社会コミュニケーション学科、学校教育教員養成課程、社会経済学科、人間文化学科、生涯教育課程 (芸術文化・スポーツ科学・生活環境)、農学部、理学部・土佐さきがけ G S コース、医学部〕の「学問基礎論」授業担当者へ「授業評価アンケート」の実施要領をメール配信し、アンケートは授業開講時 (2 学期) の 5 週目・15 週目に実施された。

アンケートは全授業共通質問項目と授業別質問項目を設け、回答理由選択肢式を採用した。各々の授業で独自の質問を設定したい場合は、新たな質問項目を配布文書や板書で学生に明示した。

また、アンケートの回収は学生代表が行い、封筒に入れ、学務課共通教係へ直接持って行くよう指示した。

5 週目アンケートは 10 月 31 日 (水) ~ 11 月 7 日 (水) に実施されたが、この期間に行えなかった場合は 6 週目の 11 月 31 日 (水) ~ 11 月 7 日 (水) をめどに実施された。また、

15 週目（最終）アンケートは 25 日（金）～1 月 31 日（木）に実施された。

この調査アンケート実施にあたり、「学問基礎論」授業に携わっておられる教職員の皆様の多大なるご協力に深く感謝申し上げます。

2. 分析方法

アンケート集計結果の分析方法として、高知大学総合教育センター大学教育創造部門発行の『FD Handbook 2010』（授業をもっと良くできる！ 授業改善アンケート ピアレビュー 授業参観の進め方 2013 年 3 月発行）を参照し、p28【観察ポイントの例】に当て嵌めて検証した。下記の I から IV は、FD のピア・レビュー（同僚による評価）用に書かれた物であるが、内容は FD 全般の要素を網羅していると考え、骨子として取り入れることとした。

【観察ポイントの例】

I 授業技術に関して

- ・ 学生の興味・関心・知識や経験に配慮した導入
- ・ 新しい知識となる理論や専門用語の分かりやすい説明
- ・ 授業担当者の適切な音声情報（声の大きさ、速さ、発音の明瞭さ、間の取り方など）
- ・ 授業担当者の適切な視覚情報（アイコンタクト、顔の表情、ジェスチャー、姿勢など）
- ・ 授業担当者の効果的なメディア利用（黒板・白板の利用、配布資料、OHP・ビデオ・PPTの利用など）
- ・ 飽き（眠気）のこない刺激（CUE）を適所に入れた授業

II 授業運営・授業構成に関して

- ・ 授業担当者と学生との適切なコミュニケーション（質問・指示の仕方、学生との対応、机間巡視など）
- ・ 授業の適切な雰囲気作り（不測の事態への対応、怒り方、誉め方）
- ・ やる気のない学生、居眠りをする学生、携帯電話をする学生などへの対応
- ・ 導入・展開・まとめの組み立ての工夫
- ・ 適切な進度の工夫
- ・ 例示・演示の工夫
- ・ 学生が考える（話し合う）グループワークや課題の工夫

III 授業の目標、達成度、理解度、満足度、内容に関して

- ・ 質・量ともに適切な学習目標の設定と指示
- ・ 学習目標の達成度を向上させる取り組み
- ・ 授業に対する満足度を向上させる取り組み

- ・ 課題への興味・関心を向上させる取り組み
- ・ 授業に対する理解度を向上させる取り組み

IV 学習活動、学生の授業参加度に関して

- ・ 自学自習の取り組みと工夫
- ・ 学生の発表への取り組みと工夫
- ・ 意見や質問を出させる取り組みと工夫
- ・ グループ活動の取り組みと工夫
- ・ 私語をさせない取り組みと工夫
- ・ 遅刻や早退をさせない取り組みと工夫
- ・ 集中雰囲気を持続させる取り組みと工夫
- ・ グループ内の相談、議論を活発にさせる取り組みと工夫
- ・ リーダー中心のグループ活動を促進するための取り組みと工夫
- ・ 全員参加のグループ活動を促進するための取り組みと工夫
- ・ 宿題や課題に積極的に取り組むための工夫

アンケート集計結果（円グラフ）の数値を分かり易く把握するため、6種の回答「はい」、「どちらかといえばはい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえばいいえ」、「いいえ」、「未回答」のうち、「どちらともいえない」、「未回答」を省き、「はい」、「どちらかといえばはい」の2つは「はい」に統合。「どちらかといえばいいえ」、「いいえ」の2つを「いいえ」に統合。よって回答は、「はい」と「いいえ」の2種になるよう大別した。

また、アンケート集計結果の満足度を表す2色（赤・青）の棒グラフ（「はい」、「どちらかといえばはい」）のそれぞれの項目（①から⑦）について平均値（四捨五入）を求めた。そして、その項目ごとに5週目・15週目を比較し増減を調べた。

（アンケート集計結果は別紙参照のこと）

3. アンケート分析結果

3. 1 学校教育教員養成課程

5週目・15週目アンケートの数値（％）とその平均値と増減（％）

設問1とどのように回答した理由（①～⑦）	5週目	15週目	平均値と増減
設問1.この授業では、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めているとおもいますか	はい 81 いいえ 3	はい 73 いいえ 9	はい 77 (-8) いいえ 6(+6)
① 授業で学問の最先端に触れる話をしている	37	38	38(+1)
② 授業で学問の最先端に触れる話をしていない	3	7	5(+3)

③ 授業内容が学問や社会の現代的課題に込えている	25	36	31(+11)
④ 授業内容が学問や社会の現代的課題に込えていない	0	0	0(±0)
⑤ 授業内容が受講生の関心・興味に合っている	33	26	30(-7)
⑥ 授業内容が受講生の関心・興味に合っていない	9	10	10(+1)
⑦ その他	1	1	1(±0)
肯定的平均値 (①+③+⑤) ÷ 3	32	33	33(+1)
否定的平均値 (②+④+⑥) ÷ 3	4	6	5(+1)

・設問 1 の平均値は「はい」77%、「いいえ」6%である。設問 1 のそのように回答した理由 (①～⑦) の内訳は、【観察ポイントの例】より I 授業技術に関してになっている。授業技術に関して良好な高い水準にある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問 2 とそのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問 2. この授業で教員は受講生の知識・能力や興味・感心を確認しながら授業を行っていると思いますか	はい 65 いいえ 9	はい 68 いいえ 9	はい 67(+3) いいえ 0(±0)
① シラバスに受講に当たって求められる能力など明示している	17	21	19(+4)
② シラバスに受講に当たって求められる能力など明示していない	5	4	5(-1)
③ 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査 (アンケートや小テストなど) をしている	8	14	11(+6)
④ 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査 (アンケートや小テストなど) をしていない	10	6	8(-4)
⑤ 受講生の反応を見ながら授業を行っている	39	38	39(-1)
⑥ 受講生の反応を見ながら授業を行っていない	6	5	6(-1)
⑦ 学生の理解度を確かめるような問いかけをしている	23	24	24(+1)
⑧ 学生の理解度を確かめるような問いかけをしていない	3	4	4(+1)
⑨ その他	1	1	1(±0)
肯定的平均値 (①+③+⑤+⑦) ÷ 4	22	24	23(+2)
否定的平均値 (②+④+⑥+⑧) ÷ 4	6	5	6(-1)

・設問 2 の平均値は「はい」67%、「いいえ」0%である。設問 2 のそのように回答した理由については、【観察ポイントの例】より I 授業技術に関してと II 授業運営・授業構成に関してと III 授業の目標、達成度、理解度、満足度、内容に関してになっている。授業技術、授業運営・授業構成、授業の目標、達成度、理解度、満足度、内容に関して良好

な高い水準にある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問3 とそのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問3.この授業で教員は、受講生にわかりやすい授業をするように努めていると思いますか	はい 73 いいえ 3	はい 67 いいえ 5	はい 70(-6) いいえ 4(+2)
① 授業の目的・目標を明確にしている	36	42	39(+6)
② 授業の目的・目標を明確にしていない	5	8	7(+3)
③ 声の大きさや話し方が適切である	34	34	34(±0)
④ 声の大きさや話し方が適切でない	1	1	1(±0)
⑤ 説明の仕方が適切である	26	20	23(-6)
⑥ 説明の仕方が適切でない	4	3	4(-1)
⑦ 授業を進める速度が適切である	18	19	19(+1)
⑧ 授業を進める速度が適切でない	1	2	2(+1)
⑨ 配付資料・視聴覚資料・教材などが適切である	6	6	6(±0)
⑩ 配付資料・視聴覚資料・教材などが適切でない	0	0	0(±0)
⑪ 板書が適切である	3	6	5(+3)
⑫ 板書が適切でない	2	3	3(+1)
⑬ その他	0	1	1(+1)
肯定的平均値 (①+③+⑤+⑦+⑨+⑪) ÷ 6	21	21	21(±0)
否定的平均値 (②+④+⑥+⑧+⑩+⑫) ÷ 6	2	3	3(+1)

・設問3の平均値は「はい」70%、「いいえ」4%である。設問③のそのように回答した理由については、【観察ポイントの例】よりⅠ授業技術に関してとⅡ授業運営・授業構成に関してとⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度に関してになっている。授業技術、授業運営・授業構成、授業の目標、達成度、理解度、満足度は良好な高い水準にある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問4 とそのように回答した理由 (①～④)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問4.この授業で教員は、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていると思いますか	はい 70 いいえ 3	はい 72 いいえ 3	71(+2) 3(±0)
① 授業の予習・復習を促している	9	17	13(+8)
② 授業の予習・復習を促していない	11	6	9(-5)
③ 学生が時間外学習を行うための課題を提示している	17	30	21(-13)
④ 学生が時間外学習を行うための課題を提示していない	3	1	2(-3)

⑤ 学生の自主的学習に対する助言や支援をしている	29	32	31(+3)
⑥ 学生の自主的学習に対する助言や支援をしていない	3	2	3(-1)
⑦ 質問に対して丁寧に答えている	11	23	17(+12)
⑧ 質問に対して丁寧に答えていない	0	0	0(±0)
⑨ 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしている	5	11	8(+6)
⑩ 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしていない	1	0	1(-1)
⑪ 授業に参加型学習を取り入れている	31	19	25(-12)
⑫ 授業に参加型学習を取り入れていない	4	1	3(-3)
⑬ その他	1	1	1(±0)
肯定的平均値 (①+③+⑤+⑦+⑨+⑪+) ÷ 6	17	22	20(+5)
否定的平均値 (②+④+⑥+⑧+⑩+⑫) ÷ 6	4	2	3(-1)

- ・設問4の平均値は「はい」71%、「いいえ」3%である。設問4のそのように回答した理由(①～⑦)については、【観察ポイントの例】よりⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度に関してとⅣ学習活動、学生の授業参加度に関連した内容である。大きな増加として、①、⑦があり、大きな減少として③、⑪があるが、授業の目標、達成度、理解度、満足度、学習活動、学生の授業参加度は、良好な高い水準にある。

5週目・15週目アンケートの数値(%)とその平均値と増減(%)

設問5とそのように回答した理由(①～⑦)	5週目	15週目	平均値と増減
設問5.この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	はい 77 いいえ 1	はい 67 いいえ 3	72(-10) 2(+2)
① 授業を良くするための工夫や熱意が感じられる	44	51	48(+7)
② 授業を良くするための工夫や熱意が感じられない	6	7	7(+1)
③ アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させている	8	13	11(+5)
④ アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させていない	1	2	2(+1)
⑤ 学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしている	40	34	37(-6)
⑥ 学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしていない	4	1	3(-2)

⑦ その他	0	1	1(+1)
肯定的平均値 (①+③+⑤) ÷ 3	30	33	32(+3)
否定的平均値 (②+④+⑥) ÷ 3	4	3	4(-1)

・設問5の平均値は「はい」72%、「いいえ」2%である。また、設問⑤のように回答した理由については、【観察ポイントの例】よりⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度に関してとⅣ学習活動、学生の授業参加度に関する内容である。授業の目標、達成度、理解度、満足度、学習活動、学生の授業参加度は良好な高い水準にある。

・設問1～5選択肢については、「自分の力で考えさせてくれる」、「考える時間をたっぷりくれる」等から、高い満足度を示している。

5週目・15週目アンケートの数値(%)とその平均値と増減(%)

設問6とどのように回答した理由(①～⑦)	5週目	15週目	平均値と増減
設問6.この授業は、総合的に考えて、満足のものだと思いますか	はい76 いいえ3	はい74 いいえ5	75(-2) 4(+2)

設問6平均値は「はい」75%、「いいえ」4%から高い満足度を表している。

■5週目アンケート

代表的な個々の回答は

- ・自分の関心のある物事を「学問」として、追求し、考えてゆく姿勢を学べると思う。
- ・研究のやり方など、今後の学生生活につながる授業内容であったから。
- ・満足いく。自分の将来のことを考えることができる授業だから
- ・教育について考えさせられるよい授業。
- ・自分が論文を書く上で必要な知識が得られると思うから。
- ・先生の熱意が伝わり、満足いくものだったから。
- ・教師になる前に必要な知識を自分たちでまとめることで理解が深まるから。
- ・興味深い話を多く聞けるから」、「楽しいし、グループで考えたりすることは必要なスキルだと思うから。等

満足度は高い数値を示している。

自由記述欄

良い点(代表的な回答)

- ・自分たちの学びたいことが学べるところ。
- ・グループワークで授業を進めることで、自分とはまったく異なる意見・考えに出会うこ

とができ、また、自分と共感する考えの人に出会うことができる点が良いと思った。

- ・グループワークは他の人の意見が聞ける。等

改善点（代表的な回答）

- ・自分の担当教員を自分たちで希望したかった。
- ・勝手に学籍番号で割り振りされて、最初は自分の興味のある分野を4つの中から選びたいと思っていたけど・・・(略)。等

自由記述欄から、全体として概ね高い水準の満足度になっている。しかし、学籍番号による振り分け授業形式により、学生の興味や希望する授業を受けられない実態もあるようだ。

教員はカリキュラムの中で目標を明確にし、理解度を高めるときに生じる学生の疑問に対して、意見と対話をしている。また、時間外学習の奨励を行い、問題意識と改善意欲を授業内で示している。学生との信頼関係を築きながら、学生の意欲を触発する内容の濃い授業になっている。FDの全般的な要素をこなしている。しかしながら、少数の学生から希望授業の要望が出ていることを留めておきたい。

■ 15週目アンケート

設問1～5選択肢については、「良い点、悪い点、改善点、方法を明示してくださっていると思います」、「先生が巡回してくれて、質問しやすく、進捗確認も細かくしてくれた」等、高い満足度を示している。

設問6の回答については、「はい」74%、「いいえ」5%）を示し、5週目と同じ高い水準を示している。

代表的な個々の回答は

- ・自分の力で課題を見つける機会があったから。
 - ・現代における教育現場の問題や子どもの心理について自主的そして主知的に研究することができた。
 - ・集団の大切さや、必要と思う知識が得られたから。
 - ・採用試験にも役立つし、知識の幅が広がるから。
 - ・どのように研究し、発表をすればよいかという基本的なことが学べ、これからの学習に生かせるものでした。
 - ・卒業論文を書くときのよい練習になった。
 - ・学生に何をさせ何を理解させるかがはっきりしていた。
 - ・教師に必要なスキルを身に付けられるから。等
- 高い満足度を示している。

また一方では

- ・授業の進め方や研究の方法についてはよく分かったが、自分の興味に応じていなかった。
- ・研究のやり方などは分かったが、勝手に美術に配属されたので、完全には気持ちが入りきらなかった。
- ・難しい。等
一部の学生が希望の授業に配属されないことで、興味や関心の薄れが生じているようである。

自由記述（代表的な回答）

- ・今後、研究をすすめるうえでの指針を見つけることができました。もっとどんどん本を読んで、自分から能動的に学習することが必要だということが分かりました。
- ・学問基礎論でインターネットの情報をうのみにするのはダメだと分かりました。
- ・教員という仕事やそれを取り巻く環境について改めて考えることができた。
- ・とても有意義な時間になりました
- ・学問基礎論の授業では、私にとって、とても成長できたものとなりました。大変だったけれど、意味のあるものだったと思います。等
全体としては概ね高い水準の満足度になっている。

3. 2生涯教育課程（芸術文化、スポーツ科学、生活環境）

5週目・15週目アンケートの数値（％）とその平均値と増減（％）

設問1とどのように回答した理由（①～⑦）	5週目	15週目	平均値と増減
設問1.この授業では、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めているとおもいますか	はい 84 いいえ 6	はい 86 いいえ 0	はい 85(+2) いいえ 3(-6)
⑧ 授業で学問の最先端に触れる話をしている	30	27	29(-3)
⑨ 授業で学問の最先端に触れる話をしていない	4	6	5(+2)
⑩ 授業内容が学問や社会の現代的課題に込えている	41	30	36(-11)
⑪ 授業内容が学問や社会の現代的課題に込えていない	0	0	0(±0)
⑫ 授業内容が受講生の関心・興味に合っている	33	46	40(+13)
⑬ 授業内容が受講生の関心・興味に合っていない	3	3	3(±0)
⑭ その他	3	2	3(-1)
肯定的平均値（①+③+⑤）÷3	35	34	35(-1)
否定的平均値（②+④+⑥）÷3	2	2	2(±0)

- ・設問1の平均値は「はい」85%、「いいえ」3%である。設問1のそのように回答した理由（①～⑥）の内訳は、【観察ポイントの例】よりI授業技術に関する。平均値の

大きな増加③、減少⑤がある。授業技術は良好な高い水準にある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問 2 とそのように回答した理由 (①~⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問 2. この授業で教員は受講生の知識・能力や興味・感心を確認しながら授業を行っていると思いますか	はい 85 いいえ 3	はい 86 いいえ 0	はい 86(+1) いいえ 2(-3)
⑩ シラバスに受講に当たって求められる能力など明示している	21	26	24(+5)
⑪ シラバスに受講に当たって求められる能力など明示していない	1	2	2(+1)
⑫ 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査 (アンケートや小テストなど) をしている	8	18	13(+10)
⑬ 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査 (アンケートや小テストなど) をしていない	0	2	1(+2)
⑭ 受講生の反応を見ながら授業を行っている	52	43	48(+9)
⑮ 受講生の反応を見ながら授業を行っていない	0	3	2(+3)
⑯ 学生の理解度確かめるような問いかけをしている	38	25	33(+13)
⑰ 学生の理解度確かめるような問いかけをしていない	3	0	2(-3)
⑱ その他	0	2	1(+1)
肯定的平均値 (①+③+⑤+⑦) ÷ 4	40	28	34(+12)
否定的平均値 (②+④+⑥+⑧) ÷ 4	1	2	2(+1)

・設問 2 の平均値は「はい」86%、「いいえ」2%である。設問 2 のそのように回答した理由 (①~⑧) の内訳は、【観察ポイントの例】よりⅠ授業技術に関してとⅡ授業運営・授業構成に関してとⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度、内容に関する。平均値の大きな増加として③、⑤、⑦がある。授業技術、授業運営・授業構成、授業の目標、達成度、理解度、満足度、内容に関しては良好な高い水準にある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問 2 とそのように回答した理由 (①~⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問 2. この授業で教員は受講生の知識・能力や興味・感心を確認しながら授業を行っていると思いますか	はい 85 いいえ 3	はい 86 いいえ 0	はい 86(+1) いいえ 2(-3)
① シラバスに受講に当たって求められる能力など明示している	21	26	24(+5)
② シラバスに受講に当たって求められる能力など明示していない	1	2	2(+1)

③ 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査（アンケートや小テストなど）をしている	8	18	13(+10)
④ 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査（アンケートや小テストなど）をしていない	0	2	1(+2)
⑤ 受講生の反応を見ながら授業を行っている	52	43	48(+9)
⑥ 受講生の反応を見ながら授業を行っていない	0	3	2(+3)
⑦ 学生の理解度を確かめるような問いかけをしている	38	25	33(+13)
⑧ 学生の理解度を確かめるような問いかけをしていない	3	0	2(-3)
⑨ その他	0	2	1(+1)
肯定的平均値（①+③+⑤+⑦）÷ 4	40	28	34(+12)
否定的平均値（②+④+⑥+⑧）÷ 4	1	2	2(+1)

- ・設問3の平均値は「はい」86%、「いいえ」2%である。そのように回答した理由（①～⑧）の内訳は、【観察ポイントの例】よりⅠ授業技術とⅡ授業運営・授業構成に関してとⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度に関連している。平均値の大きな増加として③、⑤、⑦がある。授業技術、授業運営・授業構成、授業の目標、達成度、理解度、満足度は良好な高い水準にある。

5週目・15週目アンケートの数値（%）とその平均値と増減（%）

設問4とそのように回答した理由（①～⑦）	5週目	15週目	平均値と増減
設問4.この授業で教員は、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていますか	はい 84 いいえ 0	はい 85 いいえ 1	85(+1) 1(+1)
⑭ 授業の予習・復習を促している	12	15	14(+3)
⑮ 授業の予習・復習を促していない	8	4	6(-4)
⑯ 学生が時間外学習を行うための課題を提示している	25	34	30(+9)
⑰ 学生が時間外学習を行うための課題を提示していない	1	3	2(+2)
⑱ 学生の自主的学習に対する助言や支援をしている	21	24	23(+3)
⑲ 学生の自主的学習に対する助言や支援をしていない	1	0	1(-1)
⑳ 質問に対して丁寧に答えている	34	22	28(-12)
21 質問に対して丁寧に答えていない	0	0	0(±0)
22 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしている	10	12	11(+2)
23 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしていない	1	0	1(-1)
24 授業に参加型学習を取り入れている	27	22	25(-5)

25 授業に参加型学習を取り入れていない	0	0	0(±0)
26 その他	0	0	0(±0)
肯定的平均値 (①+③+⑤+⑦+⑨+⑪+) ÷ 6	22	22	22(±0)
否定的平均値 (②+④+⑥+⑧+⑩+⑫) ÷ 6	2	1	2(-1)

- ・設問4の平均値は「はい」85%、「いいえ」1%である。また、設問4のそのように回答した理由(①~⑫)の内訳は、【観察ポイントの例】よりⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度に関してとⅣ学習活動、学生の授業参加度に関連した内容である。平均値の大きな増加として③。減少として⑦がある。授業の目標、達成度、理解度、満足度、学習活動、学生の授業参加度は良好な高い水準にある。

5週目・15週目アンケートの数値(%)とその平均値と増減(%)

設問5とそのように回答した理由(①~⑦)	5週目	15週目	平均値と増減
設問5.この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	はい 87 いいえ 0	はい 88 いいえ 0	88(+1) 0(±0)
⑧ 授業を良くするための工夫や熱意が感じられる	56	64	60(+4)
⑨ 授業を良くするための工夫や熱意が感じられない	0	3	2(+3)
⑩ アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させている	9	11	10(+2)
⑪ アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させていない	1	2	2(+1)
⑫ 学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしている	44	33	39(-11)
⑬ 学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしていない	1	0	1(-1)
⑭ その他	1	0	1(-1)
肯定的平均値 (①+③+⑤) ÷ 3	36	36	36(±0)
否定的平均値 (②+④+⑥) ÷ 3	1	2	2(+1)

- ・設問5の平均値は「はい」88%、「いいえ」0%である。また、設問5のそのように回答した理由(①~⑥)の内訳は、【観察ポイントの例】よりⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度に関してとⅣ学習活動、学生の授業参加度に関してになっている。授業の目標、達成度、理解度、満足度、学習活動、学生の授業参加度は良好な高い水準にある。

- ・設問1～5選択肢「その他」コメントまとめ

5週目については、「社会人になった時に必要なため」、「ていねいなことばづかい」から、

高い満足度を示している。

15週目については「社会に出て必要なことを学べた」、「自分で調べるテーマを決めさせている」等があり、満足度は高い。

5週目・15週目アンケートの数値（％）とその平均値の増減（％）

設問6とどのように回答した理由（①～⑦）	5週目	15週目	平均値と増減
設問6.この授業は、総合的に考えて、満足のものだと思いますか	はい 89 いいえ 1	はい 97 いいえ 0	93(+8) 1(-1)

・設問6平均値は「はい」93％、「いいえ」1％から非常に高い満足度を表している。

15週目アンケート【授業改善アンケートの効果と負担】の数値（％）

15週目アンケート【授業改善アンケートの効果と負担】	
1. 授業改善のためのアンケートに回答することにより、受講生の声によって授業が改善されたと感じますか	はい 65 いいえ 2
2. 授業改善のためのアンケートに回答することを負担に感じましたか	はい 25 いいえ 60
肯定的平均値（1+2）÷2	45
否定的平均値（1+②）÷2	31

■ 5週目アンケート

設問6の代表的な回答

- ・口答の学びだけでなく実際に行うこともしたりして分かりやすい。
 - ・音源や資料が豊富で、楽しくいろいろな音楽を学ぶことができるから
 - ・ダヴィンチについてたくさん知れるから。
 - ・一人一人の進捗を確認しながら進行してくれる。
 - ・自主性を重視していて良いと思います。
 - ・一冊の本から、自分の興味ある課題について学びを深めていくという授業スタイルが好きです
 - ・スキルアップできる授業だと思うから。
 - ・今後社会に出ても役立つものが多い。
 - ・今後の大学生活に必要な能力を引き出すから。
 - ・現代的な課題の取り組みは学生の興味・感心に合っているから
 - ・論文を書く時の練習をする授業なので、後から自分に役立つものだと思う。等がある。
- 満足度は高い内容を示している。

自由記述欄

良い点（代表的な回答）

- ・知識を蓄えるいい機会になった。
 - ・まさに大学！！という授業だなおもいました。1回の授業で1歩ずつ成長している自分がある気がして、とても良い授業だと思いました。
 - ・ディスカッションの機会が多いのでいわゆる一方通行型の講義になっていないところが良い。
- 等がある。

改善点（代表的な回答）

- ・話し合うときのメンバーがクジで決められるのでいろんな人と話せるが、気をつかう。
- 等がある。

自由記述欄からは、全体として概ね高い水準の満足度になっている。

教員はカリキュラムの中で目標を明確にし、理解度を高めるときに生じる学生の疑問に対して、意見と対話をしている。また、時間外学習の奨励を行い、問題意識と改善意欲を授業内で示している。学生との信頼関係を築きながら、学生の意欲を触発する内容の濃い授業になっている。FDの全般的な要素をこしている。

■ 15 週目アンケート

設問6の代表的な回答

- ・分かりやすく受講生の興味関心に見合っている。
 - ・自分の調べたいものを更にくわしく調べたいと思えた。
 - ・プレゼンの仕方などを学べ、今後役に立つと思いました。
 - ・社会に出た時に必要な事をたくさん学ぶことが出来た。
 - ・普段は教えてもらえない大学生の学び方の基本を教えてもらったから
 - ・卒論や、今後の学習について目標やスキルが少し身につけることができたかなと思うから
 - ・「生活環境について」これから学んでいく意欲がわきました。
 - ・レポート、パワーポイント、プレゼンの方法を学ぶことができた。
 - ・学問を学ぼうとする上での方法を知ることができた。等
- 高い満足度を示している。

自由記述（代表的な回答）

- ・自分で調べるということを重点において良かったです。

- ・これから大学生として生きていく上で大切なことをしっかり学ぶことができたと思う。
- ・今までレポートの書き方もわからず、情報の集め方もパワーポイントもわからず、様々な課題に取り組んできましたが、この授業で注意すべき点など一から学ぶことができたので、今後、自身を持って課題に取り組めそうです。
- ・他人の発表を聴く中で、「こんな切り口もあるのか」と知ることができ新鮮だった。
- ・友達と関わるが多くて、刺激が多かった。
- ・学問をこれから学んでいく上で、信頼できる情報の取得方法や、他人との話し合いから自らの意見、考えを高めることができる事を知るなど、有意義な授業だった。等がある。学生は向学心を持ち、高い満足度が記述されている。

3. 3 社会経済学科

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問 1 とそのように回答した理由 (①~⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問 1. この授業では、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めているとおもいますか	はい 80 いいえ 2	はい 88 いいえ 5	はい 84(+8) いいえ 4(+3)
⑮ 授業で学問の最先端に触れる話をしている	29	29	29(±0)
⑯ 授業で学問の最先端に触れる話をしていない	5	8	7(+3)
⑰ 授業内容が学問や社会の現代的課題に答えている	47	51	49(+4)
⑱ 授業内容が学問や社会の現代的課題に答えていない	0	1	1(+1)
⑲ 授業内容が受講生の関心・興味に合っている	26	34	30(+8)
⑳ 授業内容が受講生の関心・興味に合っていない	5	0	3(-5)
21 その他	0	0	0(±0)
肯定的平均値 (①+③+⑤) ÷ 3	34	38	36(+4)
否定的平均値 (②+④+⑥) ÷ 3	3	3	3(±0)

- ・設問 1 の平均値は「はい」84%、「いいえ」4%である。設問 1 のそのように回答した理由 (①~⑥) の内訳は、【観察ポイントの例】より I 授業技術に関してになっている。授業技術は良好な高い水準にある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問 2 とそのように回答した理由 (①~⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問 2. この授業で教員は受講生の知識・能力や興味・感心を確認しながら授業を行っていると思いますか	はい 78 いいえ 4	はい 80 いいえ 6	79(+2) 5(+2)
⑲ シラバスに受講に当たって求められる能力など明示している	31	30	31(-1)

⑳ シラバスに受講に当たって求められる能力など明示していない	0	0	0(±0)
21 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査（アンケートや小テストなど）をしている	7	10	9(+3)
22 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査（アンケートや小テストなど）をしていない	3	4	4(+1)
23 受講生の反応を見ながら授業を行っている	44	40	42(-4)
24 受講生の反応を見ながら授業を行っていない	4	5	5(+1)
25 学生の理解度を確かめるような問いかけをしている	22	28	25(+6)
26 学生の理解度を確かめるような問いかけをしていない	0	6	3(+6)
27 その他	0	0	0(±0)
肯定的平均値 (①+③+⑤+⑦) ÷ 4	26	27	27(+1)
否定的平均値 (②+④+⑥+⑧) ÷ 4	2	4	3(+2)

- ・設問2の平均値は「はい」79%、「いいえ」5%である。設問2のそのように回答した理由(①～⑧)の内訳は、【観察ポイントの例】よりⅠ授業技術に関してとⅡ授業運営・授業構成に関してとⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度、内容に関してになっている。授業技術、授業運営・授業構成、授業の目標、達成度、理解度、満足度、内容に関しては良好な高い水準にある。

5週目・15週目アンケートの数値(%)とその平均値と増減(%)

設問3とそのように回答した理由(①～⑦)	5週目	15週目	平均値と増減
設問3.この授業で教員は、受講生にわかりやすい授業をするように努めていると思いますか	はい 80 いいえ 2	はい 78 いいえ 4	はい 79(-2) いいえ 3(+2)
⑭ 授業の目的・目標を明確にしている	40	43	42(+3)
⑮ 授業の目的・目標を明確にしていない	4	0	2(-4)
⑯ 声の大きさや話し方が適切である	24	31	28(+7)
⑰ 声の大きさや話し方が適切でない	0	0	0(±0)
⑱ 説明の仕方が適切である	26	31	29(+5)
⑲ 説明の仕方が適切でない	3	8	6(+5)
⑳ 授業を進める速度が適切である	18	20	19(+2)
21 授業を進める速度が適切でない	0	4	2(+4)
22 配付資料・視聴覚資料・教材などが適切である	7	6	7(-1)
23 配付資料・視聴覚資料・教材などが適切でない	0	1	1(+1)
24 板書が適切である	2	8	5(+6)

25 板書が適切でない	0	0	0(±0)
26 その他	2	1	2(-1)
肯定的平均値 (①+③+⑤+⑦+⑨+⑪) ÷ 6	20	23	22(+3)
否定的平均値 (②+④+⑥+⑧+⑩+⑫) ÷ 6	1	2	2(+1)

- ・設問3の平均値は「はい」79%、「いいえ」3%である。設問2のそのように回答した理由(①~⑫)の内訳は、【観察ポイントの例】よりⅠ授業技術とⅡ授業運営・授業構成に関してとⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度に関連した内容である。授業技術、授業運営・授業構成、授業の目標、達成度、理解度、満足度は良好な高い水準にある。

5週目・15週目アンケートの数値(%)とその平均値と増減(%)

設問4とそのように回答した理由(①~⑦)	5週目	15週目	平均値と増減
設問4.この授業で教員は、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていると思いますか	はい 81 いいえ 2	はい 77 いいえ 4	はい 79(-4) いいえ 3(+2)
27 授業の予習・復習を促している	21	20	21(-1)
28 授業の予習・復習を促していない	6	4	5(-2)
29 学生が時間外学習を行うための課題を提示している	30	24	27(-6)
30 学生が時間外学習を行うための課題を提示していない	2	4	3(+2)
31 学生の自主的学習に対する助言や支援をしている	19	23	21(+4)
32 学生の自主的学習に対する助言や支援をしていない	0	4	2(+4)
33 質問に対して丁寧に答えている	21	29	25(+8)
34 質問に対して丁寧に答えていない	0	0	0(±0)
35 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしている	9	11	10(+2)
36 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしていない	0	3	2(+3)
37 授業に参加型学習を取り入れている	21	21	21(±0)
38 授業に参加型学習を取り入れていない	0	0	0(±0)
39 その他	2	0	1(-2)
肯定的平均値 (①+③+⑤+⑦+⑨+⑪+) ÷ 6	20	21	21(+1)
否定的平均値 (②+④+⑥+⑧+⑩+⑫) ÷ 6	1	3	2(+2)

- ・設問4の平均値は「はい」79%、「いいえ」3%である。設問4のそのように回答した理由(①~⑫)の内訳は、【観察ポイントの例】よりⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度に関してとⅣ学習活動、学生の授業参加度に関してである。授業の目標、達成度、理解度、満足度、学習活動、学生の授業参加度は良好な高い水準にある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問5とどのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問5.この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	はい 73 いいえ 2	はい 79 いいえ 7	はい 76(+6) いいえ 5(+5)
⑮ 授業を良くするための工夫や熱意が感じられる	44	48	46(+4)
⑯ 授業を良くするための工夫や熱意が感じられない	4	7	6(+3)
⑰ アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させている	9	9	9(±0)
⑱ アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させていない	1	3	2(+2)
⑲ 学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしている	36	34	35(-2)
⑳ 学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしていない	1	4	3(+3)
21 その他	2	3	3(+1)
肯定的平均値 (①+③+⑤) ÷ 3	30	30	30(±0)
否定的平均値 (②+④+⑥) ÷ 3	2	5	4(+3)

・設問5の平均値は「はい」76%、「いいえ」5%である。設問5のそのように回答した理由(①～⑥)の内訳は、【観察ポイントの例】より授業の目標、達成度、理解度、満足度に関してと学習活動、学生の授業参加度に関する。授業の目標、達成度、理解度、満足度、学習活動、学生の授業参加度は良好な高い水準にある。

・設問1～5選択肢について

5週目から「議論のヒントをくれる」、「学生が自分たちの力で学べるような授業のしくみになっている」から、高い満足度を示している。

その反面、「あいまいなところがある」、「工夫が見られない」がある。

15週目から「その日何をするのかが明確ではない」がある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問6とどのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問6.この授業は、総合的に考えて、満足度のいくものだと思いますか	はい 80 いいえ 1	はい 83 いいえ 4	はい 82(+3) いいえ 3(+3)

・設問6平均値は「はい」82%、「いいえ」3%から高い満足度を表している。

15 週目アンケート【授業改善アンケートの効果と負担】の数値 (%)

15 週目アンケート【授業改善アンケートの効果と負担】	数値
1. 授業改善のためのアンケートに回答することにより、受講生の声によって授業が改善されたと感じますか	はい 46 いいえ 12
2. 授業改善のためのアンケートに回答することを負担に感じましたか	はい 23 いいえ 46
肯定的平均値 (1+2) ÷ 2	35
否定的平均値 (1+②) ÷ 2	29

■ 5 週目アンケート

設問 6 の代表的な回答 (肯定的)

- ・ (グループでの取り組み) 話し合いの場を設けてくれ、とてもゼミらしいと思う。
- ・ 内容はとても難しいですが、普段自分が考えつかないことなどを深く考えることができる。
- ・ 議論する時間が長くて良い。
- ・ 授業内容も授業外の活動もどれも自分の興味・感心に合っている。せんせいの説明や補足などもとても勉強になっているのでとても満足です。
- ・ ボランティアなどの活動に参加できるのがすごく良いです。
- ・ レジューメ作成は時間がかかるが、自分の成長に期待できるものであるから。
- ・ 興味がひかれる内容が多いから。等がある。

代表的な回答 (改善点)

- ・ 内容は面白く積極的に取り組めるがもう少しグループワーク的なものも取り入れてほしい。
- ・ 楽しいですが、やはり学生のこと、学生が言ったこと等を覚えていてほしいです。等がある。

自由記述欄

代表的な回答 (肯定的)

- ・ 良い点は先生は学生が何を学びたいのかを聞いてそれを支援すること。
- ・ 話し合いの場とその後解説があるという構成がいい。
- ・ フィールドを使った実践的な取り組みもするし、本を使ったこともするので、総合的に学べるのが良いと思う
- ・ この授業の良い点としては、学生の興味や関心に合わせた授業をしてくれるところだと思います
- ・ 全員が意見を言い合うのは、考える機会が増えていいと思います。

- ・雰囲気が良い。
 - ・自分の考えをアウトプットして、みんなと論議できる。
 - ・本の内容が理解を超えるレベルに難しいけれど、授業内容としてはおもしろい。マッピングの方法をもっと詳しく教えてほしい。等がある。
- 肯定的な多数の意見がある。

代表的な回答（改善的）

- ・個人での発表も大切だと思いますが、疑問点について話し合ったりグループワークも少しはあっても良いかなとおもいます。
- ・先生からも助言がほしいです。自分たちだけで話し合っても分からないところもあるので。等がある。

自由記述欄からは、全体としては高い水準の満足度になっている。
但し、グループワークにおいて、教員からのアドバイスを求める声がある。

教員はカリキュラムの中で目標を明確にし、理解度を高めるときに生じる学生の疑問に対して、意見と対話をしている。また、時間外学習の奨励を行い、問題意識と改善意欲を授業内で示している。学生との信頼関係を築きながら、学生の意欲を触発する内容の濃い授業になっている。FDの全般的な要素をこしている。

■ 15 週目アンケート

- ・設問6の代表的な回答（肯定的）
- ・自主的な学びを引き出されるため。
- ・適格に授業を進められるから。
- ・わからない所を丁寧に教えてくれたのが、とてもよかったです。
- ・私たちの反応をいつも気に合いながら進めてくださった。
- ・課題本を読みレジュメを作成することで考えが深まり、意見の共有もできた。
- ・問題のポイントがどこにあるのかを察する能力が養えたと思います。
- ・時間学習と、報告の両方の機会が適度にあった。
- ・改善点を明確にしてくれていたから。
- ・パワーポイントの使い方などよく分かった。
- ・グループワークだったので、お互いの意見を聞きながら、より深くまで学ぶことができた。自分が今まで取り扱ったことの無い分野を学べてとても楽しかった。
- ・すごくアットホームなゼミでとても楽しく学ぶことができた。知識も深まった。
- ・文献購読だけでなく傍聴や施設見学などの課外活動があり、とても勉強になるから。等がある。

高い満足度を示している。

代表的な回答（改善的）

- ・グループ学習は協調性がない人がいて大変でした。等がある。

グループワークについての意見が他にも認められる。グループワークの纏まりにやや不満が生じている授業がある。

自由記述

代表的な回答（肯定的）

- ・前期に比べて、より専門的な分野を勉強できた。
- ・始めは知らなかった人同士でも、回を重ねるごとに活発に議論をすることができるようになってきたと思いました。かおれを始めから何の憚りもなく話し合えるようになっていけばいいのかなと思う。
- ・かなり楽しかったです。好き放題発言できて良かった。もう一度受講してもいいかなあって思えるような授業でした。
- ・ゼミ内の雰囲気もよく、先生のアドバイスが的確で話し合いがしやすかった。
- ・自分の意見を発信するだけでなく質問する力、答える力の訓練になったと思う。もっと論理的に相手に伝わるような話し方を身に付けたい。
- ・計画を立てることは大切だと分かりました。中途半端にするということは周りの人を残念にさせるので、一生懸命することが必要だと思いました。
- ・熱心に指導していただき大変ありがとうございました。この授業で学んだ知識を自身のキャリアとして有効に利用していきたいと思います。

等がある。

代表的な回答（改善点）

- ・前期もそうだが、後期のゼミもグループ学習の班でもう少し積極的に話せたらよかった。等がある。学生自身が自らを振り返る回答が幾つもある。これは他学部よりも多く、特徴的である。全体としては高い水準の満足度になっている。

3. 4 人間文化学科

5週目・15週目アンケートの数値（％）とその平均値と増減（％）

設問1とそのように回答した理由（①～⑦）	5週目	15週目	平均値と増減
設問1.この授業では、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めているとおもいますか	はい 83 いいえ 0	はい 74 いいえ 2	はい 79(-9) いいえ 1(+2)

22 授業で学問の最先端に触れる話をしている	10	16	13(+6)
23 授業で学問の最先端に触れる話をしていない	3	2	3(-1)
24 授業内容が学問や社会の現代的課題に込えている	28	16	22(-12)
25 授業内容が学問や社会の現代的課題に込えていない	3	2	3(-1)
26 授業内容が受講生の関心・興味に合っている	57	65	61(+8)
27 授業内容が受講生の関心・興味に合っていない	0	5	3(+5)
28 その他	2	0	1(-2)
肯定的平均値 (①+③+⑤) ÷ 3	32	32	32(±0)
否定的平均値 (②+④+⑥) ÷ 3	2	3	3(+1)

- ・設問 1 の平均値は「はい」79%、「いいえ」1%である。設問 1 のそのように回答した理由 (①～⑥) の内訳は、【観察ポイントの例】より I 授業技術に関してである、授業技術は良好な高い水準にある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問 2 とそのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問 2. この授業で教員は受講生の知識・能力や興味・感心を確認しながら授業を行っていると思いますか	はい 75 いいえ 3	はい 64 いいえ 8	はい 70(-11) いいえ 6(+5)
28 シラバスに受講に当たって求められる能力など明示している	16	22	19(+6)
29 シラバスに受講に当たって求められる能力など明示していない	3	3	3(±0)
30 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査 (アンケートや小テストなど) をしている	7	8	8(+1)
31 授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査 (アンケートや小テストなど) をしていない	2	8	5(+6)
32 受講生の反応を見ながら授業を行っている	49	37	43(-12)
33 受講生の反応を見ながら授業を行っていない	3	11	7(+8)
34 学生の理解度を確かめるような問いかけをしている	38	31	35(-7)
35 学生の理解度を確かめるような問いかけをしていない	5	3	4(-2)
36 その他	0	0	0(±0)
肯定的平均値 (①+③+⑤+⑦) ÷ 4	28	24	30(+12)

否定的平均値 (②+④+⑥+⑧) ÷ 4	3	6	5(+3)
----------------------	---	---	-------

- ・設問 2 の平均値は「はい」70%、「いいえ」6%である。設問②のそのように回答した理由 (①～⑧) の内訳は、【観察ポイントの例】よりⅠ授業技術に関してとⅡ授業運営・授業構成に関してとⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度、内容に関する。授業技術、授業運営・授業構成、授業の目標、達成度、理解度、満足度、内容に関しては良好な高い水準にある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問 3 とそのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問 3. この授業で教員は、受講生にわかりやすい授業をするように努めていると思いますか	はい 80 いいえ 0	はい 72 いいえ 4	76(-8) 2(+4)
27 授業の目的・目標を明確にしている	31	28	30(-3)
28 授業の目的・目標を明確にしていない	4	4	4(±0)
29 声の大きさや話し方が適切である	25	35	30(+10)
30 声の大きさや話し方が適切でない	2	7	5(+5)
31 説明の仕方が適切である	25	25	25(±0)
32 説明の仕方が適切でない	3	4	4(+1)
33 授業を進める速度が適切である	23	22	23(-1)
34 授業を進める速度が適切でない	6	0	3(-6)
35 配付資料・視聴覚資料・教材などが適切である	26	25	26(-1)
36 配付資料・視聴覚資料・教材などが適切でない	0	3	2(+3)
37 板書が適切である	3	4	4(+1)
38 板書が適切でない	0	2	1(+2)
39 その他	0	2	1(+1)
肯定的平均値 (①+③+⑤+⑦+⑨+⑪) ÷ 6	22	23	23(+1)
否定的平均値 (②+④+⑥+⑧+⑩+⑫) ÷ 6	3	3	3(±0)

- ・設問 3 の平均値は「はい」76%、「いいえ」2%である。設問 3 のそのように回答した理由 (①～⑫) の内訳は、【観察ポイントの例】よりⅠ授業技術とⅡ授業運営・授業構成に関してとⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度に関する。授業技術、授業運営・授業構成、授業の目標、達成度、理解度、満足度は良好な高い水準にある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問 4 とそのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
-------------------------	------	-------	--------

設問 4.この授業で教員は、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていると思いますか	はい 75 いいえ 4	はい 71 いいえ 5	73(-4) 5(+1)
40 授業の予習・復習を促している	21	23	22(+2)
41 授業の予習・復習を促していない	4	3	4(-1)
42 学生が時間外学習を行うための課題を提示している	35	43	39(-8)
43 学生が時間外学習を行うための課題を提示していない	2	4	3(+2)
44 学生の自主的学習に対する助言や支援をしている	13	12	13(-1)
45 学生の自主的学習に対する助言や支援をしていない	0	3	2(+3)
46 質問に対して丁寧に答えている	16	11	14(-5)
47 質問に対して丁寧に答えていない	0	0	0(±0)
48 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしている	11	16	14(+5)
49 課題やレポート提出物に対してフィードバックをしていない	2	2	2(±0)
50 授業に参加型学習を取り入れている	16	23	20(+7)
51 授業に参加型学習を取り入れていない	3	7	5(+4)
52 その他	3	0	2(-3)
肯定的平均値 (①+③+⑤+⑦+⑨+⑪+) ÷ 6	19	21	20(+2)
否定的平均値 (②+④+⑥+⑧+⑩+⑫) ÷ 6	2	3	3(+1)

・設問 4 の平均値は「はい」73%、「いいえ」5%である。設問 4 のそのように回答した理由 (①~⑫) の内訳は、【観察ポイントの例】よりⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度に関してとⅣ学習活動、学生の授業参加度に関する。授業の目標、達成度、理解度、満足度、学習活動、学生の授業参加度は良好な高い水準にある。

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) とその平均値と増減 (%)

設問 5 とそのように回答した理由 (①~⑦)	5 週目	15 週目	平均値と増減
設問 5.この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	はい 75 いいえ 0	はい 59 いいえ 7	67(-16) 4(+7)
22 授業を良くするための工夫や熱意が感じられる	57	40	49(-17)
23 授業を良くするための工夫や熱意が感じられない	5	14	10(-9)
24 アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させている	2	7	5(+5)
25 アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させ	0	2	1(+2)

ていない			
26 学生に対して授業を良くするために「皆さんには～ ～して欲しい」といった努力を求める要求をしている	29	29	29(±0)
27 学生に対して授業を良くするために「皆さんには～ ～して欲しい」といった努力を求める要求をしていな い	4	7	6(+3)
28 その他	2	3	3(+1)
肯定的平均値 (①+③+⑤) ÷ 3	29	25	27(-4)
否定的平均値 (②+④+⑥) ÷ 3	3	8	6(+5)

・設問5の平均値は「はい」83%、「いいえ」4%である。設問5のそのように回答した理由(①～⑥)の内訳は、【観察ポイントの例】よりⅢ授業の目標、達成度、理解度、満足度に関してとⅣ学習活動、学生の授業参加度に関する。授業の目標、達成度、理解度、満足度、学習活動、学生の授業参加度は良好な高い水準にある。

・設問1～5選択肢について

5週目アンケート(記述)

・和訳だけで精一杯で、内容理解の段階にはいりにくいかと。等がある。

15週目アンケート(記述)

・学生の発表が主導だったので「説明」は少なかった為。等がある。

5週目・15週目アンケートの数値(%)とその平均値と増減(%)

設問6とそのように回答した理由(①～⑦)	5週目	15週目	平均値と増減
設問6.この授業は、総合的に考えて、満足度のいくものだと思いますか	はい85 いいえ0	はい72 いいえ5	はい79(-13) いいえ3(+5)

・設問6平均値は「はい」79%、「いいえ」3%から高い満足度を表している。

15週目アンケート【学生の諸能力の獲得(授業到達目標の達成)】の数値(%)

【学生の諸能力の獲得(授業到達目標の達成)】	数値
1. あなたは「学問手法の基礎を学ぶ」を達成できたと思いますか	はい72 いいえ4
2. あなたは「情報収集方法・ゼミナール受験方法など、大学に特有で、人間文化学科が重視する勉強方法を習得する」を達成できたと思いますか	はい79 いいえ4
1. あなたは「企業経営基本が説明できる」を達成できたと思いますか	はい72 いいえ4

2. あなたは「企業経営を財務諸表を用いて分析できる」を達成できたと思いますか	はい 57 いいえ 4
肯定的平均値 (1 + 2 + 1 + 2) ÷ 4	70
否定的平均値 (1 + 2 + 1 + 2) ÷ 4	4

15週目アンケート【授業改善アンケートの効果と負担】の数値 (%)

15週目アンケート【授業改善アンケートの効果と負担】	数値
1. 授業改善のためのアンケートに回答することにより、受講生の声によって授業が改善されたと感じますか	はい 26 いいえ 10
2. 授業改善のためのアンケートに回答することを負担に感じましたか	はい 19 いいえ 50
肯定的平均値 (1 + 2) ÷ 2	23
否定的平均値 (1 + ②) ÷ 2	30

■ 5週目アンケート

設問6の代表的な回答（肯定的）

- ・興味ある分野について触れることができたから。
- ・実験の結果からわかった定義などだけでなく、実験においてどのように考え、何が問題かなど取り上げられており、興味深い内容であると思う。
- ・受講生の発表の様子をよく見て、知識や能力がどれほどか、というのをしっかりとらえていると思うから。
- ・心理学に興味のある人は心理学に触れることができ、また、心理学に興味のない人にとっても、英文を読む力をつけることができるものであったから。
- ・色々な視点から言語を学べるので。
- ・皆の文学作品に対する意見を聞く機会があるのもすごくよかったし、ある作品と他の作品を比較するのが面白かったからです。
- ・大きな教室では他の人の意見を聞く機会はなかったけれど、この授業では他の人の意見が聞くことができ、同じ作品を読んでこんなにも違う印象を受けるのだと実感できたので、大変興味深かった。
- ・授業の内容も楽しかったし、フィールド学に対する見識も広がった。
- ・新しい発見をすることができるから。
- ・現代社会で必要な内容だと思うから。等である。

代表的な回答（改善的）

- ・はいと言い切れないのは、英文を訳すことに時間をつかいてすぎて内容にあまり触れられていないから。

- ・ほとんど英訳しかしていないから。
- ・英文を日本語に訳すのにかかる時間が授業中に少し多いと感じた。
- ・確かに大学での学習を学ぶ、という意味で非常に役立つとは思いますが、誰もが和訳のみに専念しそこで満足し、文章の内容にまでふれていなかったようにも思う。等がある。

回答から、高い興味・感心を示している。しかし、一方で少数意見ではあるが、英文の和訳について否定的なものがある。

・自由記述欄

代表的な回答（肯定的）

- ・自分で外国語を翻訳し、内容を予習しておくことを求める。
- ・英語の習熟に役立つ。
- ・緊張感を持って講義に臨める。
- ・毎回英語のテキストを訳す課題が出るので、大変だと思うことも多いけど、後半に入ってから少しずつ訳すスピードがはよくなってきたり、わかる単語が増えてきたことはとても嬉しい。もっといろいろな分野に触れてみたかったので、もっと時間が長ければいいのになと思った。
- ・学生が予習することを求めるのは、良い点だと思う。
- ・先生の説明が逐一丁寧であり、分かりやすい。
- ・良かったことは多角的にものを見る目を養えたこと。
等がある。

代表的な回答（改善的）

- ・和訳することが講義の内容になってしまっている。
- ・実地調査をもっとしたかったと思った。
- ・基礎論はミニゼミなので3回生からのゼミに役立つように基礎を教えてください。
- ・板書の字が見にくかった。
- ・先生自身の考えを、ややおしつけているように感じた。
等がある。

自由記述欄からは、全体としては概ね高い水準の満足度になっている。

英語に関しての自由記述が比較的多い。

教員はカリキュラムの中で目標を明確にし、理解度を高めるときに生じる学生の疑問に対して、意見と対話をしている。また、時間外学習の奨励を行い、問題意識と改善意欲を授業内で示している。学生との信頼関係を築きながら、学生の意欲を触発する内容の濃い

授業になっている。FDの全般的な要素をこなしている。

■ 15週目アンケート

設問 1～5 選択肢について

- ・学生の発表が主導だったので「説明」は少なかったため。の改善点を求める意見がある。

設問 6 の代表的な回答（肯定的）

- ・自分の興味にある程度沿って調べられるので、満足がいつている。
- ・みんなのレジュメの発表の中で、いろんなことが知れて自分とは違う視点が見れたので楽しかった。
- ・学生が参加しやすい形での授業になっていると思う。
- ・学生が自身が興味を持った物事に対して、調査・思索・論考することをうながす様な内容であり、「学ぶ」という事の初歩的な段階を経験出来た。
- ・専門的な学問に少しだけですが触れることのできた授業だと思います。
- ・毎回授業で発表したり質疑応答をするので、自分では気づけなかったことに気づけたりできるので面白いです。
- ・文献を使い資料を探す方法を正しく学べる。
- ・色んな話が聞けて多方面に興味を持つきっかけになった。

等がある。

高い満足度を示している。

代表的な回答（改善点）

- ・課題が大変。
- ・課題が多い気がします。

等から課題量についての意見が生じているようである。

自由記述

代表的な肯定意見

- ・自分の興味ある学問がどのような内容なのかをある程度知ることができた。それによって広がった自分の興味をある程度しぼることができたのでよかったと思う。
- ・コース選択において今まで考えていなかったコースに興味を持つようになった。
- ・文学や文化といった、形・正解の見えないものにつて考えることの難しさを知ることができてよかった。
- ・文理融合型の授業で、自分たちでテーマを決めることができ、自由な雰囲気の内容だった。レジュメ作りや、調べ学習など、自分の力にとつながつたと思う。
- ・学習手段の基礎を学び、大学生として成長できた実感がもて、有意義な講義であったと

思います。等があった。

代表的な改善意見

・オムニバス形式で色々な学問が学べるとあって、初めは楽しみにしていたが、基礎の基礎というか、さわりしかできなくて結局なんだったんだらうという感じでした。

・ただ資料が配られ、それを教員が読みあげているだけの授業がほとんど。つまらない。等ある。

自由記述は、全体としては概ね高い水準の満足度になっている。

3. 5 国際社会コミュニケーション学科

設問 1 とそのように回答した理由 (①~⑦)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 1: この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか	はい 86% いいえ 0%	はい 90% いいえ 0%	88 (+4) 0
①授業で学問の最先端に触れる話をしている	13%	17%	+4
②授業で学問の最先端に触れる話をしていない	1%	4%	+3
③授業内容が学問や社会の現代的課題に込えている	44%	39%	-5
④授業内容が学問や社会の現代的課題に込えていない	0%	1%	+1
⑤授業内容が受講生の関心・興味に合っている	42%	39%	-3
⑥授業内容が受講生の関心・興味に合っていない	0%	0%	0
⑦その他	0%	0%	0

設問 1 では、肯定的な回答が増加傾向にあり、理由についても全体に肯定的な項目が増加している。

設問 2 とそのように回答した理由 (①~③)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 2. この授業で教員は、受講生の知識・能力および授業に対するニーズを確認しながら授業を行っていると思いますか	はい 85% いいえ 2%	はい 79% いいえ 1%	82 (-6) 2 (-1)
①シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示している	7%	12%	+5
②シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示していない	2%	4%	+2
③授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査(アンケートや小テストなど)をしている	3%	6%	+3

④授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査（アンケートや小テストなど）をしていない	2%	4%	+2
⑤受講生の反応を見ながら授業を行っている	52%	43%	-9
⑥受講生の反応を見ながら授業を行っていない	1%	4%	+3
⑦学生の理解度を確かめるような問い掛けをしている	33%	27%	-6
⑧学生の理解度を確かめるような問い掛けをしていない	0%	1%	+1
⑨その他	0%	0%	0

設問 2 では、若干肯定的な回答が減っているが、『はい』と答えた学生は 42% から 51% に増えている。ただ、理由の回答では、『受講生の反応を見ながら授業を行っている』、『学生の理解度を確かめるような問い掛けをしている』が減少している。

設問 3 とそのように回答した理由 (①~⑬)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 3. この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	はい 86% いいえ 2%	はい 92% いいえ 0%	89 (+6) 1(+1)
①授業の目的・目標を明確にしている	23%	20%	-3
②授業の目的・目標を明確にしていない	3%	1%	+2
③声の大きさや話し方が適切である	25%	19%	-6
④声の大きさや話し方が適切でない	0%	1%	+1
⑤説明の仕方が適切である	20%	23%	+3
⑥説明の仕方が適切でない	1%	1%	0
⑦授業を進める速度が適切である	17%	19%	+2
⑧授業を進める速度が適切でない	0%	1%	+1
⑨配布資料・視聴覚資料・教材などが適切である	7%	10%	+3
⑩配布資料・視聴覚資料・教材などが適切でない	1%	0%	-1
⑪板書が適切である	3%	5%	+2
⑫板書が適切でない	0%	0%	0
⑬その他	1%	0%	-1

設問 3 では、肯定的な回答が増加傾向にある。

設問 4 とそのように回答した理由 (①～⑬)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 4 この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	はい 76% いいえ 0%	はい 81% いいえ 0%	79 (+5) 0
①授業の予習・復習を促している	17%	10%	-7
②授業の予習・復習を促していない	3%	1%	+2
③学生が時間外学習を行うための課題を提示している	13%	18%	+5
④学生が時間外学習を行うための課題を提示していない	2%	0%	-2
⑤学生の自主的学習に対する助言や支援をしている	15%	13%	-2
⑥学生の自主的学習に対する助言や支援をしていない	0%	0%	0
⑦質問に対して丁寧に答えている	21%	24%	+3
⑧質問に対して丁寧に答えていない	0%	1%	+1
⑨課題やレポート提出物に対してフィードバックをしている	10%	19%	+9
⑩課題やレポート提出物に対してフィードバックをしていない	0%	1%	+1
⑪授業に参加型学習を取り入れている	18%	12%	-6
⑫授業に参加型学習を取り入れていない	0%	0%	0
⑬その他	0%	0%	0

設問 4 では、肯定的な回答が増加傾向にある。

設問 5 とそのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 5 この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	はい 74% いいえ 1%	はい 87% いいえ 0%	81 (+13) 1(-1)
①授業を良くするための工夫や熱意が感じられる	36%	36%	0
②授業を良くするための工夫や熱意が感じられない	3%	2%	+1
③アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させている	9%	20%	+11
④アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させていない	1%	2%	+1
⑤学生に対して授業を良くするために「皆さんには～して欲しい」といった努力を求める要求をしている	50%	40%	-10
⑥学生に対して授業を良くするための努力を求める要求をしていない	1%	0%	-1

⑦その他	0%	0%	0
------	----	----	---

設問 5 では、全体としては肯定的意見は増加している。『アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させている』が 10 ポイント増加した一方で、『学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしている』が 10 ポイント低下している。

設問 6 の総合的な満足度では肯定的な意見が若干減少してはいるが、元々 96% 非常に高かったものが、86% への減少である。

設問 7 で、授業改善について肯定的な意見は 18% と少なかったが、否定的回答も 11% であり、大多数は『どちらともいえない』と回答していた。

設問 8 の、アンケート調査が負担と回答した学生は 9% と最も少なかった。

3. 6 理学部

設問 1 とそのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 1: この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか	はい 63% いいえ 8%	はい 68% いいえ 2%	66 (+5) 5 (-6)
①授業で学問の最先端に触れる話をしている	33%	34%	+1
②授業で学問の最先端に触れる話をしていない	10%	4%	-6
③授業内容が学問や社会の現代的課題に込えている	26%	21%	-5
④授業内容が学問や社会の現代的課題に込えていない	3%	2%	-1
⑤授業内容が受講生の関心・興味に合っている	17%	34%	+17
⑥授業内容が受講生の関心・興味に合っていない	10%	3%	-7
⑦その他	1%	2%	+1

設問 1 では、『授業内容が受講生の関心・興味に合っている』が増加している。

設問 2 とそのように回答した理由 (①～③)	5 週目	15 週目	の増減 (%)
設問 2. この授業で教員は、受講生の知識・能力および授業に対するニーズを確認しながら授業を行っていると思いますか	はい 47% いいえ 18%	はい 56% いいえ 7%	52 (+9) 13 (-11)
①シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示している	23%	22%	-1
②シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示していない	5%	6%	+1
③授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関	14%	8%	-6

する調査（アンケートや小テストなど）をしている			
④授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査（アンケートや小テストなど）をしていない	6%	6%	0
⑤受講生の反応を見ながら授業を行っている	20%	28%	+8
⑥受講生の反応を見ながら授業を行っていない	12%	7%	-5
⑦学生の理解度を確かめるような問い掛けをしている	8%	14%	+6
⑧学生の理解度を確かめるような問い掛けをしていない	10%	5%	-5
⑨その他	2%	3%	+1

設問 2 では、『受講生の反応を見ながら授業を行っている』『学生の理解度を確かめるような問い掛けをしている』が増加。

設問 3 とそのように回答した理由（①～⑬）	5 週目	15 週目	平均と増減 （%）
設問 3. この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	はい 66% いいえ 4%	はい 66% いいえ 1%	66 (0) 3 (-3)
①授業の目的・目標を明確にしている	31%	28%	-3
②授業の目的・目標を明確にしていない	4%	3%	-1
③声の大きさや話し方が適切である	21%	18%	-3
④声の大きさや話し方が適切でない	3%	2%	-1
⑤説明の仕方が適切である	17%	16%	-1
⑥説明の仕方が適切でない	2%	2%	0
⑦授業を進める速度が適切である	9%	10%	+1
⑧授業を進める速度が適切でない	1%	2%	+1
⑨配布資料・視聴覚資料・教材などが適切である	7%	10%	+3
⑩配布資料・視聴覚資料・教材などが適切でない	1%	2%	+1
⑪板書が適切である	2%	5%	+3
⑫板書が適切でない	1%	1%	0
⑬その他	1%	1%	0

設問 3 では、5 週、15 週ではほぼ同様の結果であった。

設問 4 とそのように回答した理由 (①～⑬)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 4 この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	はい 40% いいえ 19%	はい 56% いいえ 8%	48 (+16) 14 (-11)
①授業の予習・復習を促している	9%	7%	-2
②授業の予習・復習を促していない	15%	6%	-9
③学生が時間外学習を行うための課題を提示している	7%	22%	-15
④学生が時間外学習を行うための課題を提示していない	7%	4%	+3
⑤学生の自主的学習に対する助言や支援をしている	17%	15%	-2
⑥学生の自主的学習に対する助言や支援をしていない	8%	3%	-5
⑦質問に対して丁寧に答えている	5%	13%	+8
⑧質問に対して丁寧に答えていない	2%	2%	0
⑨課題やレポート提出物に対してフィードバックをしている	3%	7%	+4
⑩課題やレポート提出物に対してフィードバックをしていない	4%	3%	-1
⑪授業に参加型学習を取り入れている	7%	11%	-4
⑫授業に参加型学習を取り入れていない	12%	4%	-8
⑬その他	5%	2%	-3

質問 4 では、肯定的意見は増加しており、『質問に対して丁寧に答えている』『授業に参加型学習を取り入れている』が特に増加している。

設問 5 とそのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 5 この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	はい 56% いいえ 9%	はい 54% いいえ 5%	55 (-2) 7 (-4)
①授業を良くするための工夫や熱意が感じられる	39%	36%	-3
②授業を良くするための工夫や熱意が感じられない	13%	9%	-4
③アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させている	9%	13%	+4
④アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させていない	4%	5%	-1
⑤学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしている	26%	27%	+1
⑥学生に対して授業を良くするための努力を求める要求を	8%	6%	-2

していない			
⑦その他	2%	4%	+2

設問 6 の総合的な満足度に対する肯定的な意見も 56%から 64%へ増加した。

設問 7、8 アンケートによる授業の改善については、34%とあまり高くなかったが、アンケートを負担と感じる学生は、24%と少なかった。

3. 7 農学部

設問 1 とそのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 1: この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか	はい 72% いいえ 4%		
①授業で学問の最先端に触れる話をしている	18%		
②授業で学問の最先端に触れる話をしていない	7%		
③授業内容が学問や社会の現代的課題に込えている	34%		
④授業内容が学問や社会の現代的課題に込えていない	2%		
⑤授業内容が受講生の関心・興味に合っている	32%		
⑥授業内容が受講生の関心・興味に合っていない	6%		
⑦その他	1%		

設問 2 とそのように回答した理由 (①～⑨)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 2. この授業で教員は、受講生の知識・能力および授業に対するニーズを確認しながら授業を行っていると思いますか	は 56% いいえ 9%		
①シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示している	14%		
②シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示していない	4%		
③授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査(アンケートや小テストなど)をしている	10%		
④授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査(アンケートや小テストなど)をしていない	8%		
⑤受講生の反応を見ながら授業を行っている	33%		
⑥受講生の反応を見ながら授業を行っていない	11%		

⑦学生の理解度を確かめるような問い掛けをしている	14%		
⑧学生の理解度を確かめるような問い掛けをしていない	5%		
⑨その他	1%		

設問 3 とそのように回答した理由 (①～⑬)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 3. この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	はい 65% いいえ 5%		
①授業の目的・目標を明確にしている	25%		
②授業の目的・目標を明確にしていない	5%		
③声の大きさや話し方が適切である	22%		
④声の大きさや話し方が適切でない	3%		
⑤説明の仕方が適切である	20%		
⑥説明の仕方が適切でない	2%		
⑦授業を進める速度が適切である	10%		
⑧授業を進める速度が適切でない	2%		
⑨配布資料・視聴覚資料・教材などが適切である	8%		
⑩配布資料・視聴覚資料・教材などが適切でない	0%		
⑪板書が適切である	2%		
⑫板書が適切でない	0%		
⑬その他	0%		

設問 4 とそのように回答した理由 (①～⑨)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 4 この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	はい 61% いいえ 6%		
①授業の予習・復習を促している	6%		
②授業の予習・復習を促していない	6%		
③学生が時間外学習を行うための課題を提示している	20%		
④学生が時間外学習を行うための課題を提示していない	4%		
⑤学生の自主的学習に対する助言や支援をしている	24%		
⑥学生の自主的学習に対する助言や支援をしていない	5%		
⑦質問に対して丁寧に答えている	19%		
⑧質問に対して丁寧に答えていない	0%		
⑨課題やレポート提出物に対してフィードバックをしてい	1%		

る			
⑩課題やレポート提出物に対してフィードバックをしていない	2%		
⑪授業に参加型学習を取り入れている	7%		
⑫授業に参加型学習を取り入っていない	3%		
⑬その他	1%		

設問 5 とそのように回答した理由 (①～⑦)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 5 この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	はい 61% いいえ 12%		
①授業を良くするための工夫や熱意が感じられる	31%		
②授業を良くするための工夫や熱意が感じられない	16%		
③アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させている	14%		
④アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させていない	5%		
⑤学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしている	30%		
⑥学生に対して授業を良くするための努力を求める要求をしていない	3%		
⑦その他	1%		

5 週アンケートのみの実施であった。

各質問に対して、肯定的とする回答の%および、その主な理由は、それぞれ以下のとおりであった。

質問 1 72% (授業内容が学問や社会の現代的課題に込えている 34%)

質問 2 56% (受講生の反応を見ながら授業を行っている 33%)

質問 3 65% (授業の目的・目標を明確にしている 25%、声の大きさや話し方が適切である 22%、説明の仕方が適切である 20%)

質問 4 61% (学生が時間外学習を行うための課題を提示している 20%、学生の自主的学習に対する助言や支援をしている 24%)

質問 5 61% (授業を良くするための工夫や熱意が感じられる 31%、学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしている 30%)

総合的な満足度についての肯定的な意見は、65%であった。

3. 8 医学部

例年どおり、1 学期に講義が実施され、15 週目にアンケートが実施されたが、項目は若干異なり以下の内容であった。それぞれに対する肯定的意見の%を示す。

1. 毎回の授業の目的や課題は、明確にされていますか 84%
2. 教員の声の大きさや話し方は、聞き取りやすいですか 85%
3. 教員の授業内容の説明は、分かりやすいですか 82%
4. 授業の進み方や容量は、あなたにとって適切ですか 84%
5. 配布資料・視聴覚教材・テキストなどは適切に利用されていますか 88%
6. 教員は、受講生が質問や意見を述べる機会をつくり、それらに答えていますか 25%
7. 授業に対する教員の熱意を感じますか 74%
8. あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか 44%
9. あなたは、この授業の予習や復習をしていますか 29%
10. あなたは、この授業によってこの分野への学問的興味・関心が高まっていますか 85%
11. あなたは、この授業で身につけることを期待した知識や能力を得ていますか 69%
12. 全体としてこの授業にあなたは満足していますか 81%

全体として、学生の motivation の維持にはある程度の効果があったと評価される。ただし、質問6の回答からも、学生参加型の双方向性の講義とはなっていない。また毎回のテーマはあらかじめ提示してはあるが、講義内容が『医学入門』であり、資料は毎回時間の初めに渡す handout が中心であることから、学生が予習をすることが難しい。

これらの点の改善が必要と考えられる。

医学部独自のアンケートを行った中で（選択式+自由記載）、聞いてみたいという講義項目としては、

臨床医の体験談 66%

若い医師の卒後の進路についての話 54%

論文の読み方 42%

医学の国際化 34%

レポートの書き方 32%

医学史 23%

プレゼンテーションの方法 18% などであった。

尚、質問時期が1学期末であり、レポートの書き方やプレゼンテーションの方法について

は、2 学期以降で指導が行われている。

近年、より早い時期からの専門課程の講義を希望する学生が増加する傾向にはあるか、教養課程の必要性についてのアンケートでは、絶対必要 6.5%、ある程度必要 77.9%、必要なし 15.6%の結果で、多くの学生が何らかの形で必要と回答していた。

一方で、約 90%の学生が、1 年生からの専門課程教育、あるいは専門課程入門教育を希望しているという結果であった。

3. 9 土佐さきがけプログラム

5 週目・15 週目アンケートの数値 (%) と増減

設問 1 とそのように回答した理由 (①~⑦)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 1: この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか	はい 93% いいえ 0%	はい 77% いいえ 0%	85 (-16) 0
①授業で学問の最先端に触れる話をしている	32%	33%	+1
②授業で学問の最先端に触れる話をしていない	5%	13%	+8
③授業内容が学問や社会の現代的課題に込えている	36%	27%	-9
④授業内容が学問や社会の現代的課題に込えていない	0%	0%	0
⑤授業内容が受講生の関心・興味に合っている	27%	27%	0
⑥授業内容が受講生の関心・興味に合っていない	0%	0%	0
⑦その他	0%	0%	0

設問 1 では、肯定的意見が低下傾向にある。主な理由として、『授業で学問の最先端に触れる話をしていない』がやや増加し、『授業内容が学問や社会の現代的課題に込えている』が低下傾向にある。

設問 2 とそのように回答した理由 (①~③)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 2. この授業で教員は、受講生の知識・能力および授業に対するニーズを確認しながら授業を行っていると思いますか	はい 69% いいえ 0%	はい 88% いいえ 0	79 (+19) 0
①シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示している	23%	22%	-1
②シラバスに受講に当たって求められる能力などを明示していない	4%	3%	-1
③授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関	19%	16%	-3

する調査（アンケートや小テストなど）をしている			
④授業開始時または授業期間中に学生の能力やニーズに関する調査（アンケートや小テストなど）をしていない	0%	9%	9
⑤受講生の反応を見ながら授業を行っている	23%	31%	8
⑥受講生の反応を見ながら授業を行っていない	0%	0%	0
⑦学生の理解度を確かめるような問い掛けをしている	27%	19%	-8
⑧学生の理解度を確かめるような問い掛けをしていない	4%	0%	-4
⑨その他	0%	0%	0

質問 2 では、『受講生の反応を見ながら授業を行っている』が 15 週でやや増加傾向にあり、肯定的な回答の割合が増加傾向にあった。

設問 3 とそのように回答した理由 (①~⑬)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 3. この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	はい 100% いいえ 0%	はい 82% いいえ 6%	91 (-18) 3 (-6)
①授業の目的・目標を明確にしている	24%	21%	-3
②授業の目的・目標を明確にしていない	3%	4%	+1
③声の大きさや話し方が適切である	18%	17%	-1
④声の大きさや話し方が適切でない	0%	0%	0
⑤説明の仕方が適切である	24%	19%	+5
⑥説明の仕方が適切でない	0%	0%	0
⑦授業を進める速度が適切である	15%	11%	-4
⑧授業を進める速度が適切でない	0%	2%	+2
⑨配布資料・視聴覚資料・教材などが適切である	15%	15%	0
⑩配布資料・視聴覚資料・教材などが適切でない	0%	0%	0
⑪板書が適切である	0%	9%	+9
⑫板書が適切でない	0%	0%	0
⑬その他	0%	2%	+2

設問 3 では、『説明の仕方が適切である』が減少し、『授業を進める速度が適切でない』が増加した。

設問 4 とそのように回答した理由 (①～⑬)	5 週目	15 週目	平均と増減 (%)
設問 4 この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	はい 92% いいえ 0%	はい 82% いいえ 0	87 (−10) 0
①授業の予習・復習を促している	16%	23%	+7
②授業の予習・復習を促していない	0%	5%	+5
③学生が時間外学習を行うための課題を提示している	13%	15%	+2
④学生が時間外学習を行うための課題を提示していない	0%	0%	0
⑤学生の自主的学習に対する助言や支援をしている	25%	18%	−7
⑥学生の自主的学習に対する助言や支援をしていない	3%	0%	−3
⑦質問に対して丁寧に答えている	22%	15%	−7
⑧質問に対して丁寧に答えていない	0%	0%	0
⑨課題やレポート提出物に対してフィードバックをしている	19%	10%	−9
⑩課題やレポート提出物に対してフィードバックをしていない	3%	0%	−3
⑪授業に参加型学習を取り入れている	0%	15%	+15
⑫授業に参加型学習を取り入れていない	0%	0%	0
⑬その他	0%	0%	0

設問 4 では、『授業に参加型学習を取り入れている』の増加が顕著である一方で、『学生の自主的学習に対する助言や支援をしている』『質問に対して丁寧に答えている』の割合が減少している。

設問 5 とそのように回答した理由 (①～⑤)	5 週目	15 週目	肯定的回答の増減 (%)
設問 5 この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	はい 100% いいえ 0%	はい 82% いいえ 0	91 (−18) 0
①授業を良くするための工夫や熱意が感じられる	40%	41%	−1
②授業を良くするための工夫や熱意が感じられない	0%	9%	+9
③アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させている	25%	23%	−2
④アンケートやレポートで得た意見を授業に反映させていない	0%	5%	+5
⑤学生に対して授業を良くするために「皆さんには～し	35%	23%	−12

て欲しい」といった努力を求める要求をしている			
⑥学生に対して授業を良くするための努力を求める要求をしていない	0%	0%	0
⑦その他	0%	0%	0

設問5では、『学生に対して授業を良くするために「皆さんには～～して欲しい」といった努力を求める要求をしている』の減少がめだつ。

総合的な満足度を問う質問6では、84%から82%へ若干肯定的な回答の割合は減ったものの、『はい』と答えた学生に限ると、38%から47%へ増加している。

15週の設定問7については、76%の学生が授業が改善されたと答える一方で、アンケートそのものに関しては、71%が負担と考えており、他学部と比較してかなり高率であった。

4. まとめと提言

まとめ

5・15週目アンケートを分析して、肯定的回答の割合が高い。初回授業から最終授業まで常に高い満足度となっていることが明確となった。これは、全教員が日頃から授業改善に取り組んでいる姿勢の表れであると判断する。それから、学生の諸能力の獲得（授業到達目標の達成）の肯定的数値が高い。教員の高い見識と教授が、学生の新たな意識を覚醒させ、自己点検及びFDの成果として結実させていた。

提言

学生全員の100%の満足が得られることは困難であるが、少なくとも全学において、モチベーションの高い教育を行っていると考え。しかし、その一方で不満を持つ少数の学生もいる。

来年度に向けて、各教員が授業記録を残し次年度授業の参考にして、授業内容と授業方法を確立する。学生の視点から得られる授業の問題点から、個々の学生の気持ちを正確に捉えることができるならば、更に充実した授業改善となるであろうと提言する。

引用資料

1. 『FD Handbook 2010』（授業をもっと良くできる！ 授業改善アンケート ピュアレビュー 授業参観の進め方）高知大学総合教育センター大学教育創造部門発行 2013年3月

5 人文分野分科会

人文分野分科会副分科会長 岩佐 光広（人文学部）

人文分野分科会では、平成 25 年度の自己点検・自己評価活動として、例年実施されている 5 週目・15 週目アンケートの実施とともに、もう一つ「授業参観」形式による自己点検・自己評価を実施した。授業参観は、高知大学共通教育実施機構『共通教育「授業改善アクションプラン」外部評価報告書』（2011 年 10 月刊行）などのなかでも取り上げられている自己点検・自己評価活動の一つであるが、十分に実施されているとはいえないものである。以下、本年度実施した内容を報告しつつ、授業参観形式の自己評価・自己点検活動の意義と課題について報告したい。

具体的には、平成 25 年度 2 学期開講の共通教育科目「文化人類学入門」（担当：人文学部・岩佐光広）における自己点検・自己評価活動の一環として、人文学部・武藤整司教授に授業参観を依頼した。武藤氏は、15 回の講義のうち 14 回（1 回は大学業務の関係で欠席）に参加し、各講義のあとに簡単なコメントを行ってくれた。また全講義終了後には、講義の内容、授業の評価できる点などについての詳細なレポートを作成していただいた。

以上の活動を踏まえ、授業参観形式による自己点検・自己評価活動の意義と課題について述べたい。まずその活動の意義については、やはり担当教員、受講学生とも異なる「第三者の視点」からのコメントを得られる点に大きな意義があるといえる。今回の授業参観に即していえば、授業資料の作り方や授業の進め方などについてのアドバイスを得ることができ、また新たに取組んだ試み（たとえばホームページを利用した授業時間外学習の促進）に対する好意的な評価なども聞くこともでき、自分では気づいていなかった点に気づくことができた。5 週目・15 週目アンケートを通じて受講学生からの意見も得ていたため、それらを組み合わせることで、より多角的に自己点検・自己評価を行うことができた。

このように授業参観形式の自己点検・自己評価活動には一定の意義が認められるものの、定期的かつ継続的に実施することには困難であると考えられる。最大にして基本的な問題となるのは、授業参観を引き受けてくれる教員をいかに確保するかという点である。大学業務が増加する一方のなかで、自身が担当する授業や会議などの合間を縫って他の教員の授業参観を行うことで負担が増すことは想像に難くない。そうしたなかで、自己評価のために授業参観を依頼できる教員は限られるし、依頼すること自体に抵抗を感じてしまうこともあるだろう。なお同様の困難は、上述した高知大学共通教育実施機構『共通教育「授業改善アクションプラン」外部評価報告書』の「常任委員会ヒアリング」（35 頁）のなかでも言及されている。

授業参観形式の自己点検・自己評価活動に一定の意義を認め、その活動を促進するためには、教員個人に取り組みすることを促すだけでは十分ではない。上述したように、現状においては教員個人の「努力」や「工夫」だけでは対処しきれない状況にあり、この点については全学的な制度的サポートが必要になると考える。現状を踏まえつつ、効率的かつ効果的な制度設計をいかに進めていくかは、人文分野分科会を超えた共通の課題として全学的に取り組むに値する課題と言えよう。

6 社会分野分科会

社会分野副分科会長 松本 美香（農学部）

平成 25 年度は、昨年より引き続いて、授業評価アンケート（5 週目、15 週目）の実施を推奨し、第 1 学期 7 件、第 2 学期 11 件（うち 1 件は 15 週目実施せず）の実施があった。表 1 にその集計結果を示している。共通質問項目 1～8 の回答に対してそれぞれの加重平均を算出し、5 週目と 15 週目とのアンケート回答者間の差をとると、第 1 学期に設問 3 及び 4 でマイナス値があるものの、概ねプラスへの変化となっており、各授業での改善効果が見られた。

表 1 授業評価アンケートの実施結果

最終受講者(5週目,15週目回答率)	第1学期(7件)				第2学期(11件中10件)				合計			
	Pt	5週目	15週目	変化	Pt	5週目	15週目	変化	Pt	5週目	15週目	変化
授業評価アンケート												
1. この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか	5	1,210	950		5	1,090	1,060		5	2,300	2,010	
・はい	4	440	368		4	832	816		4	1,272	1,184	
・どちらかというとはい	3	51	33		3	261	159		3	312	192	
・どちらともいえない	2	18	10		2	26	16		2	44	26	
・どちらかというといいえ	1	1	1		1	7	3		1	8	4	
・いいえ												
平均		4.538	4.555	0.017		4.158	4.279	0.122		4.316	4.385	0.069
2. この授業で教員は、受講生の知識・能力や興味・関心を確認しながら、授業を行っていると思いますか	5	895	724		5	850	970		5	1,745	1,694	
・はい	4	480	374		4	764	708		4	1,244	1,082	
・どちらかというとはい	3	180	122		3	324	255		3	504	376.8	
・どちらともいえない	2	30	32		2	96	38		2	126	69.6	
・どちらかというといいえ	1	5	3		1	15	4		1	20	7	
・いいえ												
平均		4.20	4.214	0.018		3.852	4.123	0.272		3.995	4.158	0.163
3. この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	5	1,155	875		5	1,325	1,280		5	2,480	2,155	
・はい	4	412	372		4	688	620		4	1,100	992	
・どちらかというとはい	3	99	63		3	207	156		3	306	219	
・どちらともいえない	2	20	20		2	38	26		2	58	46	
・どちらかというといいえ	1	1	0		1	8	6		1	9	6	
・いいえ												
平均		4.46	4.448	-0.015		4.251	4.332	0.081		4.339	4.376	0.037
4. この授業で教員は、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていると思いますか	5	910	640		5	945	900		5	1,855	1,540	
・はい	4	392	392		4	672	652		4	1,064	1,044	
・どちらかというとはい	3	219	153		3	378	318		3	597	471	
・どちらともいえない	2	44	32		2	76	54		2	120	86	
・どちらかというといいえ	1	4	5		1	12	6		1	16	11	
・いいえ												
平均		4.14	4.10	-0.039		3.908	4.00	0.096		4.00	4.041	0.037
5. この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	5	825	685		5	1,015	1,160		5	1,840	1,845	
・はい	4	428	432		4	784	668		4	1,212	1,100	
・どちらかというとはい	3	249	126		3	327	204		3	576	330	
・どちらともいえない	2	38	14		2	42	28		2	80	42	
・どちらかというといいえ	1	4	4		1	8	5		1	12	9	
・いいえ												
平均		4.08	4.232	0.147		4.052	4.249	0.197		4.066	4.242	0.177
6. この授業は、総合的に考えて、満足がいくものだと思いますか	5	1,110	875		5	1,170	1,190		5	2,280	2,065	
・はい	4	480	404		4	812	676		4	1,292	1,080	
・どちらかというとはい	3	81	45		3	261	174		3	342	219	
・どちらともいえない	2	10	12		2	36	8		2	46	20	
・どちらかというといいえ	1	5	2		1	8	4		1	13	6	
・いいえ												
平均		4.449	4.475	0.026		4.158	4.338	0.180		4.277	4.391	0.115
7. 授業改善のためのアンケートに回答することにより、受講生の声によって授業が改善されたと感じますか	5		575		5		780		5		1,355	
・はい	4		384		4		616		4		1,000	
・どちらかというとはい	3		186		3		393		3		579	
・どちらともいえない	2		32		2		56		2		88	
・どちらかというといいえ	1		6		1		18		1		24	
・いいえ												
平均			4.01				3.825				3.90	
8. 授業改善のためのアンケートに回答することを負担に感じましたか	5		300		5		565		5		865	
・はい	4		140		4		332		4		472	
・どちらかというとはい	3		198		3		378		3		576	
・どちらともいえない	2		94		2		108		2		202	
・どちらかというといいえ	1		87		1		110		1		197	
・いいえ												
平均			2.776				3.072				2.96	

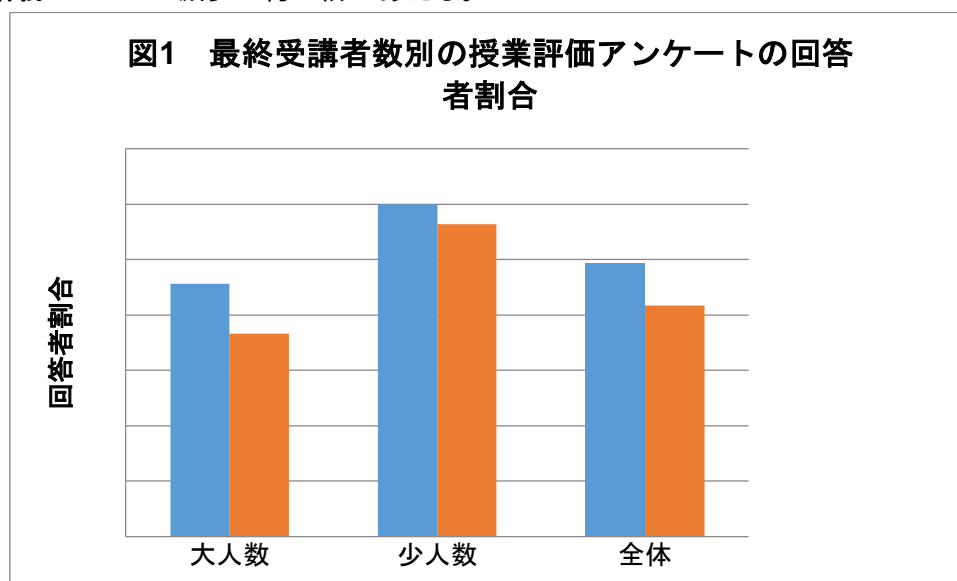
また、平成 23 年度及び平成 24 年度に指摘された「受講数の多さと教育効果（満足度）」及び「最終受講者とアンケート回答者の差（登録者と実質受講者の差）にみる意欲低下」については、表 2 で最終受講者（登録者）数 100 名未満（少人数講義）と 100 名以上（大人数講義）とで科目区分し、それぞれのアンケート結果を比較している。

表 2 最終受講者数別の授業評価アンケートの実施結果

最終受講者(5週目,15週目回答率)	少人数(10件)				大人数(7件)				合計			
	Pt	5週目	15週目	変化	Pt	5週目	15週目	変化	Pt	5週目	15週目	変化
授業評価アンケート												
1. この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか	5	635	605		5	1665	1405		5	2,300	2,010	
・どちらかというとはい	4	420	452		4	852	732		4	1272	1184	
・どちらともいえない	3	87	54		3	225	138		3	312	192	
・どちらかというといいえ	2	22	8		2	22	18		2	44	26	
・いいえ	1	2	1		1	6	3		1	8	4	
平均		4.255	4.358	0.103		4.342	4.40	0.057		4.316	4.385	0.069
2. この授業で教員は、受講生の知識・能力や興味・関心を確認しながら、授業を行っていると思いますか	5	450	520		5	1295	1174		5	1745	1694	
・どちらかというとはい	4	468	404		4	776	678.4		4	1244	1082	
・どちらともいえない	3	132	120		3	372	256.8		3	504	376.8	
・どちらかというといいえ	2	36	22		2	90	47.6		2	126	69.6	
・いいえ	1	6	2		1	14	5		1	20	7	
平均		3.97	4.14	0.169		4.005	4.167	0.162		3.995	4.158	0.163
3. この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか	5	735	685		5	1745	1470		5	2480	2155	
・どちらかというとはい	4	344	348		4	756	644		4	1100	992	
・どちらともいえない	3	87	75		3	219	144		3	306	219	
・どちらかというといいえ	2	20	14		2	38	32		2	58	46	
・いいえ	1	3	2		1	6	4		1	9	6	
平均		4.32	4.357	0.033		4.346	4.386	0.040		4.339	4.376	0.037
4. この授業で教員は、受講生の意欲的・自主的な学びを引き出すための工夫をしていると思いますか	5	560	490		5	1295	1050		5	1855	1540	
・どちらかというとはい	4	356	384		4	708	660		4	1064	1044	
・どちらともいえない	3	162	147		3	435	324		3	597	471	
・どちらかというといいえ	2	28	22		2	92	64		2	120	86	
・いいえ	1	6	4		1	10	7		1	16	11	
平均		4.04	4.06	0.015		3.987	4.03	0.045		4.00	4.041	0.037
5. この授業で教員は、授業をより良くするための試みをしていると思いますか	5	530	560		5	1310	1285		5	1840	1845	
・どちらかというとはい	4	416	412		4	796	688		4	1212	1100	
・どちらともいえない	3	153	108		3	423	222		3	576	330	
・どちらかというといいえ	2	20	14		2	60	28		2	80	42	
・いいえ	1	4	2		1	8	7		1	12	9	
平均		4.08	4.215	0.132		4.058	4.256	0.198		4.066	4.242	0.177
6. この授業は、総合的に考えて、満足がいくものだと思いますか	5	655	620		5	1625	1445		5	2280	2065	
・どちらかというとはい	4	412	424		4	880	656		4	1292	1080	
・どちらともいえない	3	108	66		3	234	153		3	342	219	
・どちらかというといいえ	2	18	4		2	28	16		2	46	20	
・いいえ	1	3	1		1	10	5		1	13	6	
平均		4.241	4.373	0.131		4.292	4.40	0.108		4.277	4.391	0.115
7. 授業改善のためのアンケートに回答することにより、受講生の声によって授業が改善されたと感じますか	5		400		5		955		5		1355	
・どちらかというとはい	4		380		4		620		4		1000	
・どちらともいえない	3		204		3		375		3		579	
・どちらかというといいえ	2		34		2		54		2		88	
・いいえ	1		8		1		16		1		24	
平均			3.828				3.93				3.90	
8. 授業改善のためのアンケートに回答することを負担に感じましたか	5		265		5		600		5		865	
・どちらかというとはい	4		212		4		260		4		472	
・どちらともいえない	3		213		3		363		3		576	
・どちらかというといいえ	2		52		2		150		2		202	
・いいえ	1		65		1		132		1		197	
平均			3.011				2.934				2.96	

アンケートの結果からは、5 週目と 15 週目ともに各項目での加重平均値に余り差は見られない。5 週目と 15 週目との加重平均値の変化でも、少人数講義と大人数講義とに大きな差は見られず、初期値の高低による差の影響程度である。指摘されていた「受講数の多さと教育効果（満足度）」についても、項目 6 の結果からは差は見られない。

ただし、平成 24 年度に指摘された「最終受講者とアンケート回答者の差（登録者と実質受講者の差）にみる意欲低下」については、図 1 に示したように、少人数講義と大人数講義とで明らかな差が見られた。大人数講義では最終受講者(登録者)数に占めるアンケート回答者数自体が 5 週目の時点で 46%と少人数講義の 60%を大きく下回るほか、5 週目と 15 週目との回答者割合に 9%の減少が見られた。これは、少人数講義での 4%の減少の約 2 倍にあたる。



この点については、表 3 に示すように、大人数講義か否かではなく、アンケートの調査手法が出席者への配布による紙媒体アンケートと、学習支援システムを利用したアンケートとでは回答率が大きく異なっていることに原因がある。学習支援システム利用の場合の回答者数は 30%程度であり、紙媒体直接配布での 60%程度と比較して 1/2 であり、大人数か否かは問題ではなく、アンケートの実施形態が問題であることが分かる。アンケートの有効的な活用のためには、回答方法についての改善が求められる。

表 3 アンケート手法別の回答者数

	講義数	最終受講者数	5週目回答者数	15週目回答者数	5週目回答者比率	15週目回答者比率
学習支援システム利用	7	945	291	202	31%	21%
うち大人数講義	4	841	255	180	30%	21%
直接配布	10	1012	674	614	67%	61%
うち大人数講義	3	618	411	355	67%	57%
合計	17	1957	965	816	49%	42%
うち大人数講義	7	1459	666	535	46%	37%

以上のことから、授業評価アンケートの取り組みにより、一定の効果が現れていることが見て取れたが、他方でアンケート参加者数に見る受講生の意欲継続やアンケートの実施方法に課題が見られた。前者については、今後とも継続して魅力的な講義づくりへの努力をしていくことが必要である。後者については、集計コストや結果開示までの期間など運営上の利点とも絡むが、アンケート実施の効果を発揮させる意味からも回収率の向上についても検討すべきである。(ただ、次年度からは大教室においても無線 LAN の設置など設備が整ってきたことから、今回指摘したアンケート手法での差は小さくなるものと思われる。)

7 生命・医療分科会

生命・医療分科会副分科会長 高橋 美美（医学部）

1. 平成 25 年度「健康」

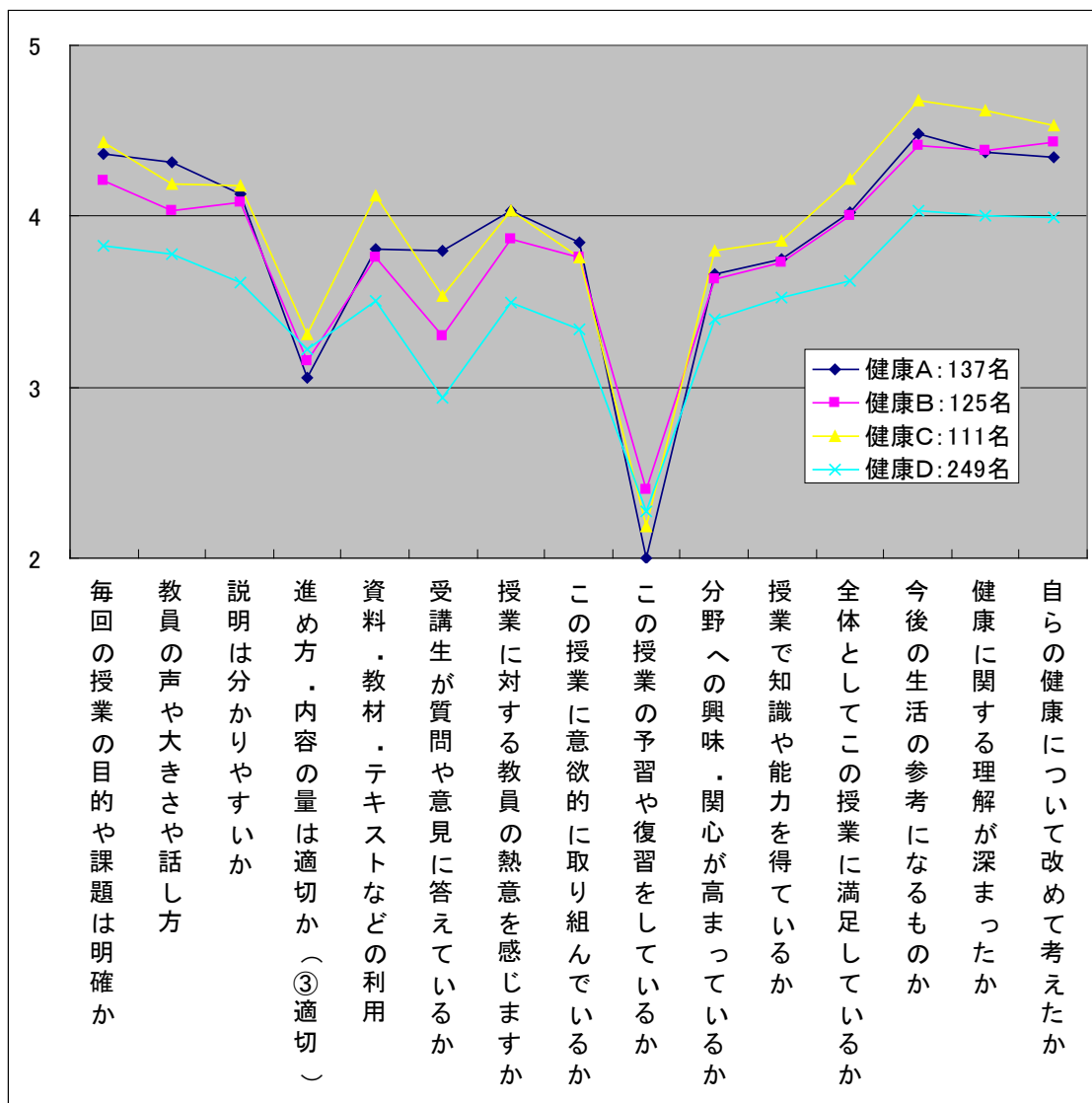


図 1 平成 25 年度「健康」4 クラスの授業アンケート結果

今年度 1 学期に行われた「健康」A から D を対象として学生による授業評価アンケートを実施し、4 クラスの各質問項目の平均値を図 1 に示した。回答者数は A が 137 名、B が 125 名、C が 111 名、D が 249 名であり、昨年度の 137 名、156 名、134 名、216 名と比べてやや減少している。時間割の組み合わせの関係からか、一昨年から D クラスの履修者が増加しており、今年度は C クラスの倍以上の受講生数となっている。

図を見て明らかのように、ほぼすべての質問項目で、学生の評価が各クラスの受講生数と反比例しており、大規模クラスの解消が満足度を高める最も重要な要素だと考えられる。

また、図のように質問項目に対する回答は各クラスとも、ほぼ同様の傾向を示しているが、「資料・教材・テキストなどの利用」、「質問や意見を述べる機会を作り、それに答えているか」の項目でややばらつきがあった。さらに、各クラスともほぼ同じ教員が授業を行っているにも関わらず、「説明は分かりやすいか」との質問に対するDクラスの回答が、他のクラスに比べて大きく落ち込んでいるのは、受講生数が多いと学生の学力低下を引き起こしかねないことを示唆している。

なお、本授業はオムニバス形式のため、この形式のアンケートで評価された内容が自分の担当授業の問題なのか、他の教員の問題なのかを特定できないが、結果を真摯に受け止めて授業改善の参考としてほしい。

2. 経年変化

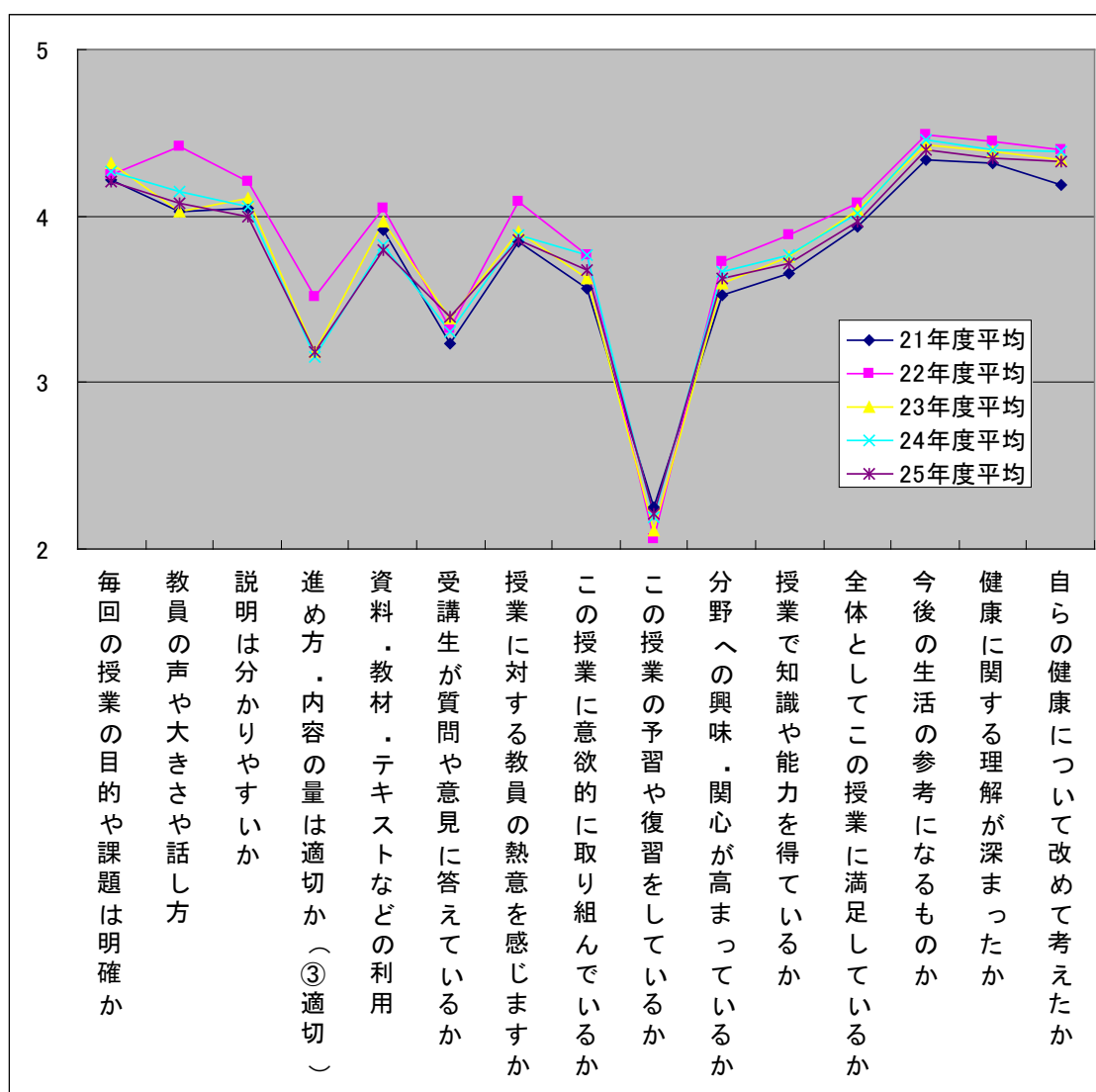


図 2 平成 21～25 年度「健康」4 クラスの授業アンケート平均値の変化
 年度ごとに A～D クラスの平均値の推移を見てみると、ほぼ同様の傾向であり、大きな

変化は認められない。各項目とも平成 21 年度が最も低く、翌年高くなり、その後、落ち着いている。オムニバス形式の授業であることから、学生に対して予復習を求めることは困難であるが、様々な専門領域の教員から多面的に学ぶことを評価する声も多くある。

平成 25 年度の授業評価アンケート自由記述欄での目立った意見を以下に、例示しておく。

- 資料を配布して下さる先生はありがたかったです。資料が配布されない授業では、スライドを早く動かして一瞬しか見られなかったことがありました。その時は「大事な所をメモしてすべて写そうとするな」といわれましたが、早すぎて文字が認識できないんだけど、と困りました。ある程度の速さでスライドは動かして下さい。(健康 A)
- 自分自身の健康に対して、どういう風に改善すべき、注意すべき点は何かなどを考えさせられる講義であり、とても役立った。(健康 A)
- この授業では改めて健康であるとはどういうことかを考えることができるもので良かった。さまざまなことを学ぶこともできたので良かった。特に、多く先生から学ぶことによって人や内容が変わったり、授業形式が変わるので、常に興味を持って新鮮な気持ちで授業を受けられた。(健康 A)
- とても興味がある回とあまり興味がない回があった。また分かりやすい先生もいたが、分かりづらく、声も聞きとりづらい先生の時もあった。(健康 B)
- 先生によってやり方が違って、進行のペースが良い先生もいれば、早すぎてノートを写しきれない先生もいたので、少し困った。(健康 B)
- 健康について、専門的なことから一般的なことまで知ることができました。今後の生活にとり入れていきたいと思います。(健康 B)
- 自分自身の健康を考える授業だと感じた。生活習慣病などが注目されているなかで、こういった講義がひらかれているということはとてもよいことだと考える。学んだことを無駄にしないようにしたい。(健康 C)
- 大学生になり、一人暮らしをするにあたって健康について学びたいと思いこの講義を受講しました。日々の暮らしで気をつけなければならないことや、新しい情報を得ることができとても勉強になりました。この講義を取ってよかったです。(健康 C)
- 一口に健康でいようと思っても、日頃規則正しく普通に生活していれば、健康でいられることがよく分かりました。最近、テスト勉強やレポート作成で夜更かしがちなので、終わったらまたもとの正しい生活を心がけようと思っています。ありがとうございました。(健康 C)
- オムニバス形式の授業であったため初めはどういった姿勢でこの授業を受ければ良いのか迷う時があった。しかし途中で、先生からこういった姿勢で受ける授業であると提示されたため分かることができた。睡眠についての授業が印象的で実生活でも活用したい。お世話になりました。(健康 D)
- 運動・スポーツの健康効果をもっと知りたかった。日常生活の健康(タバコ、酒、性について)についてはよく理解できた。人が多すぎてきつい。(健康 D)
- 授業ごとに先生が変わるのは、不思議な感じがしました。人が多いのと、できるだけ同じ人がいいなと思いました。(健康 D)

(以上原文のまま)

1.1 スポーツ・健康分科会

スポーツ・健康分科会副分科会長 野田 智洋（医学部）

1. スポーツ科学講義

平成 25 年度は、岡豊キャンパスで行われた講義において、1 学期に 5 週目アンケート、アクションプラン、15 週目アンケートによるプラン実施の効果検証を、2 学期は通常の授業評価アンケートを実施した。しかし、これについては、実施対象者が特定されるため報告書への記載は見送ることとする。また、朝倉キャンパスで 2 学期に行われたスポーツ科学講義 A から D では授業評価アンケートを実施できなかった。

2. スポーツ科学実技

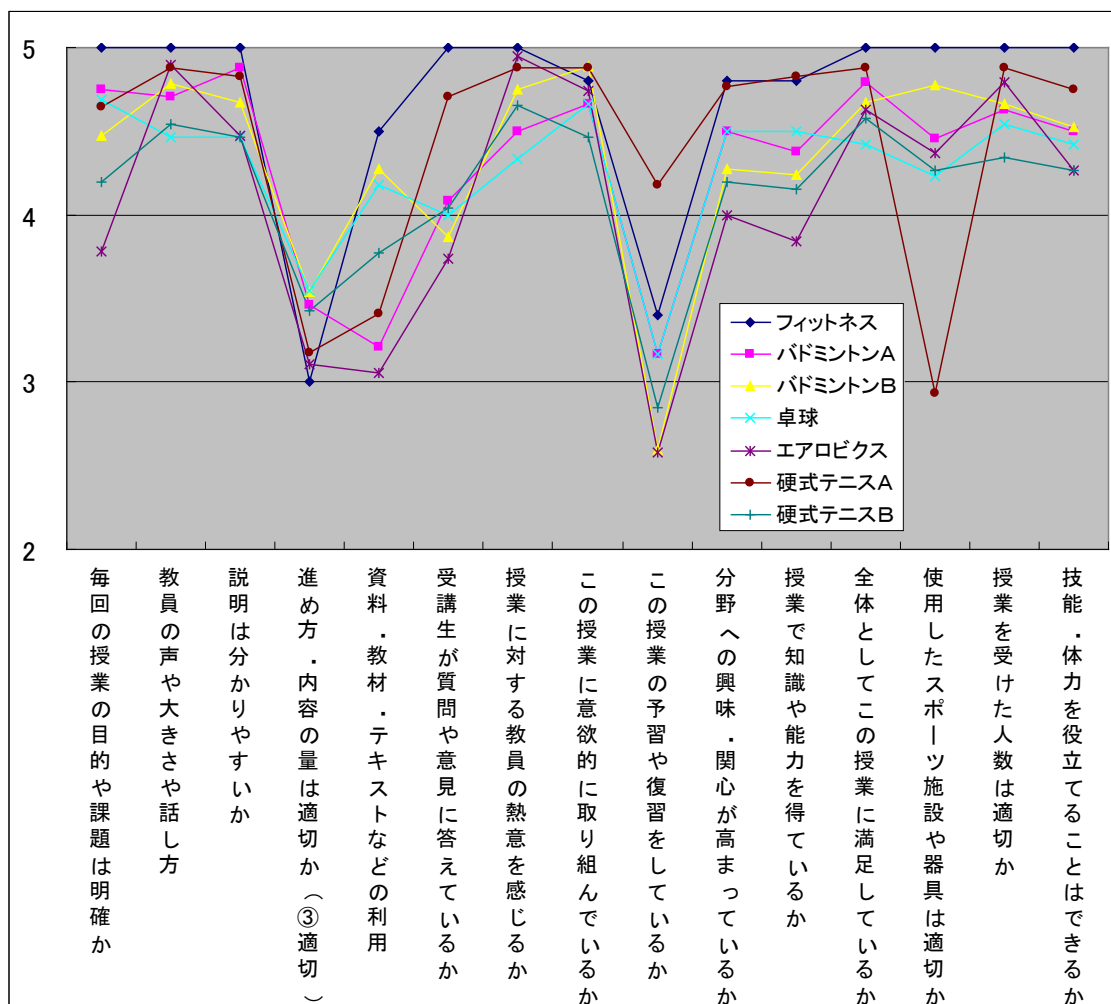


図 1 平成 25 年度 1 学期授業評価アンケート集計結果

今年度は 1 学期のみ、すべての授業で授業評価アンケートを実施した。種目は、フィッ

トネス、バドミントンA、バドミントンB、卓球、エアロビクス、硬式テニスA、硬式テニスBである。

対象となった 7 科目の学生満足度（設問 13）「全体としてこの授業にあなたは満足していますか」の評価は、卓球が 4.42 とやや低いものの、2 科目あるバドミントンが 4.79 と 4.68、エアロビクスが 4.63、硬式テニスが 4.88 と 4.58 であり、総じて高く評価されている。しかし、図 1 のように、（設問 6）配付資料や視聴覚教材の利用が適切かどうか、（設問 10）この授業の予復習をしているかどうか、に関しては低い評価がなされている。これら 2 問については、いずれの種目でもほぼ同様の傾向が認められ、授業方法に問題があるというよりは、スポーツ実技という科目特性に附帯する要因であると考えられる。

なお、フィットネスに関しては、学生満足度が 5.00 であるが、受講生が 5 名と少数のため、参考として記載することにとどめたい。

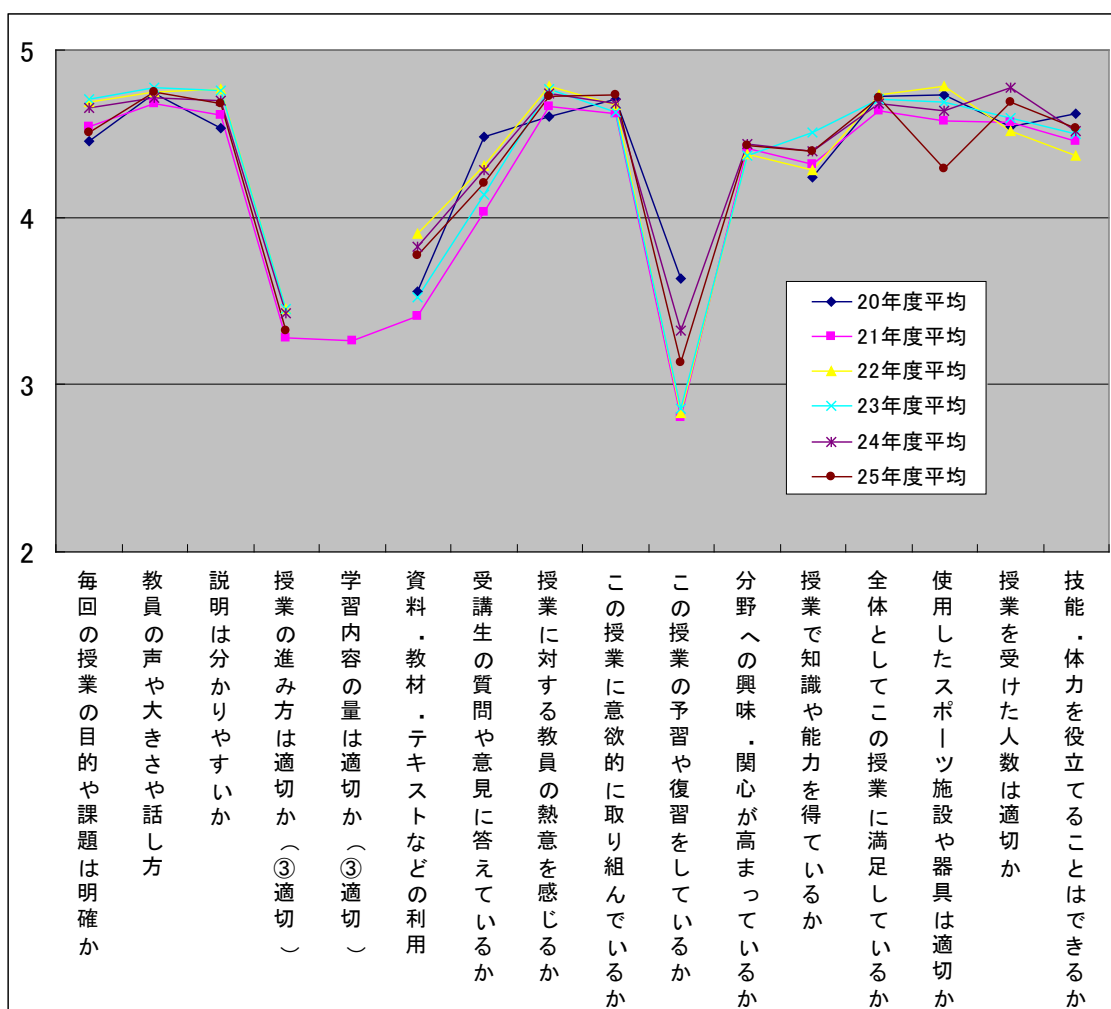


図 2 平成 20 年度から 25 年度の学期末授業評価アンケート集計結果

図 2 は、平成 20 年度の 2 学期に開講された 4 種目と、21、22 年度 15 種目、ならびに 23、24、25 年度 1 学期 7 種目の授業評価アンケート平均値を比較したものである。なお、21 年度はいくつか質問項目が変更されており、20 年度のデータがない項目がある。

図のように過去 6 年間の傾向は大きく変わっていない。設問 10 の予復習に関する質問項目は、19、20 年度は「教員が予復習するよう指導しているか」との内容なのに対して 21 年度は「学生自身が予復習をしているか」であるため、平均値が厳しくなったものと考えられる。23 年度は「授業で知識や能力を得ているか」との質問に対する回答が 4.51 と過去最高を記録したが、24 年度は残念ながら 4.40 に低下した。25 年度も横ばいである。

現在のところ、授業に対する教員の熱意、学生の意欲ともに高い評価を維持しながら推移しており、特別な支援や対策を講じる必要はないと考えられる。しかしながら、実技を選択する学生の減少に歯止めがかかっておらず、各学部学科の必修科目の時間割を調べるなどして、実技科目の時間割を履修しやすい曜日に変更するなどの対策が必要である。

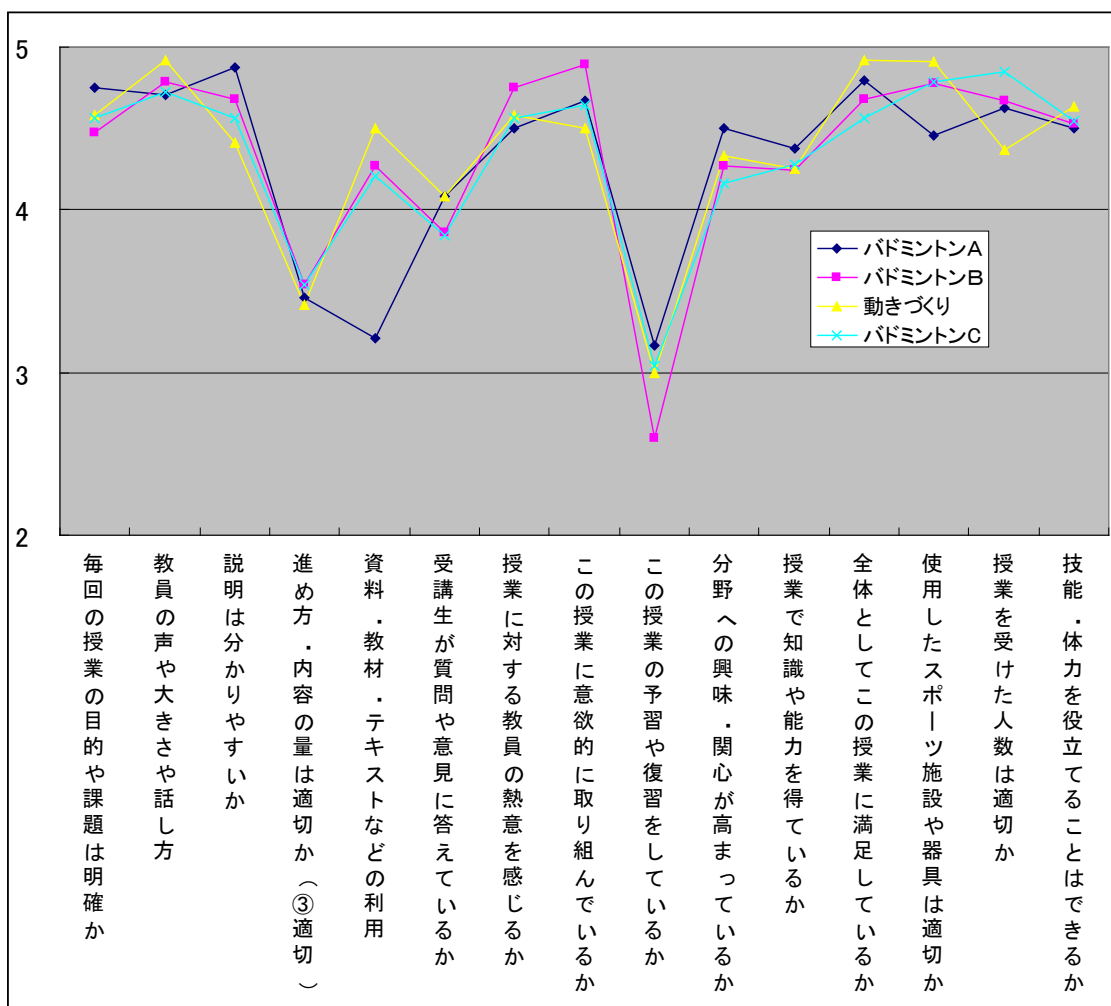


図 3 平成 25 年度 2 学期授業評価アンケート集計結果と同一種目の比較

図 3 は、岡豊キャンパス開講のスポーツ科学実技で実施した授業評価アンケートの結果である。バドミントン C に関しては朝倉開講の 2 クラスとほぼ同様の傾向を示しており、学生の満足度も 4.56 と良好な評価であった。動きづくりは、非常に高い学生満足度を示しているが、試験期間に学外で実施した影響から回答数が 12 しかないため、参考程度に記載しておく。

また、スポーツ・健康部会では、スポーツ科学実技に関して昨年度までと同様、次のような独自の設問を設定した。

① 「授業で使用したスポーツ施設や用具は適切ですか」

学習意欲を喚起するためには重要な要素である。25年度は4.29となり、昨年の4.64に比べて低くなっている。これは、硬式テニスA2.94と、極端に低い点数であったことが原因であり、朝倉キャンパステニスコートの改修が望まれる。自由記載欄にも「テニスコートが一部破れていてあぶない」との意見があった。それ以外の種目に関して全体の傾向は変わらない（23年度：4.69, 22年度：4.78, 21年度：4.58, 20年度：4.73）。

② 「一緒に授業を受けた人数は適切ですか」

授業の成果を上げるためには適正人数がある。多すぎると練習の回数や機会が制限され、技術の向上にとってはマイナスの要因にもなる。平均すると数字の上では今年度も4.69と高い評価を得ている（24年度：4.77, 23年度：4.60, 22年度：4.51, 21年度：4.57, 20年度：4.54, ）。

③ 「獲得した知識や技能、体力を今後の生活に役立てることができますか」

これについては4.53と、昨年の4.51と同様の傾向だが（23年度：4.50, 22年度：4.37, 21年度：4.45, 20年度：4.62, ）、さらに生涯にわたっての運動実践や体力づくりなどの必要性を理解させるように工夫したい。

自由記述欄での個別意見も、おおむね上記の好評価が反映されている。目立った意見を以下に、例示しておく。

- この授業を通して、自分の健康管理、体調管理によりいっそう気を使うようになりました。内側からきれいになろう!という意欲が湧き、楽しくトレーニングすることができました。家でも習ったトレーニングの一部を継続して行っています!音楽に合わせて、みんなで笑いながら楽しく行うフィットネスの授業は本当に毎回わくわくしていました。地域の方ともお話することができ、1つのチームのような感じでした!これからも習ったトレーニングを継続していきたいです。先生、ありがとうございました!!（フィットネス）
- 1週間の中で体を動かすよい機会になりました。体を動かしながら体の説明もしていただき、イメージがしやすく大人になっても覚えておきたいなと思いました。後半の方は本格的に夏になり、暑く、バテてしまったときもあったけど、最後まで楽しく授業をうけることができました。半年間ありがとうございました。（フィットネス）
- 毎授業、楽しく充実した活動が送れるように先生が工夫してくれているのが分かるため、受講生もいきいきと授業に取り組んでいるように感じます。（バドミントンA）
- いろんな学年や学部の人と関わることが出来て良かった。バドミントンが好きになりました。（バドミントンA）
- ラケットのグリップとガットがいたんできているので直してほしいです。でも多くの人とかかわれて楽しかったです。（バドミントンA）
- 周りに強い人ばかりいて、大変だった。グループができて、グループで仲良くなれてよかった。楽しくバドミントンが学べて良かったです。（バドミントンB）
- ふだんあまり身体を動かさないのので、身体を動かす事の大切さと楽しさを感じました。

- 中には、上手くできる人、できない人、やる気のある人・ない人など様々だから、それを上手く、まとめるのが難しいことだと思いました。(バドミントンB)
 - 暑かったですがとても楽しかったです。グループとも協力して取り組めた点がとてもよかったです。あまり上手くできなかったが、自分なりに一生懸命取り組めたと思う(バドミントンB)
 - 卓球初心者だったので、持ち方から打ち方まで全く理解していなかったが、今回の授業を通じて多くのことを学ぶことができた。(卓球)
 - 試合をもっとガチでしたかった。(卓球)
 - すごく楽しく授業を受けることができました。ありがとうございます。(卓球)
 - 家でストレッチをするようになった。エアロビを通して運動する機会が増えた。(エアロビクス)
 - 続けているうちに体の柔軟さが増しました。あととても楽しく行えたからよかったです。(エアロビクス)
 - 楽しかったー エアロビがどんなものか知れて良かったー (エアロビクス)
 - 3コートあるのに2つしか使えない。(硬式テニスA)
 - とても楽しくできた。友達ができた。(硬式テニスA)
 - 楽しかった。テニスが上手になった。(硬式テニスA)
 - コートが荒れている。修理してもらいたい。(硬式テニスA)
 - 外だったので、とても暑かったけれど、色んな人と話せたり、普段できないスポーツが出来たので、楽しかったです。(硬式テニスB)
 - 練習のときはつらかったけど、最後らへん試合のときは楽しかったです。(硬式テニスB)
 - テニスが楽しいと思えました。初心者ですが、上手になりました。(硬式テニスB)
- (以上、原文のまま)

1 2 日本語・日本事情分科会

日本語・日本事情副分科会長 佐野 由紀子（人文学部）

（自己点検・自己評価部会に関する報告）

2月に実施。意見交換会を開いた。講義担当者の変更などがあったため、特に「日本事情」科目について1学期2学期の授業を振り返り、授業内容・改善点等を検討した。

IV FD 部会

1 FD 部会の活動報告

FD 部長 立川 明（総合教育センター）

25 年度活動の概略

共通教育における FD 活動は分科会が主体的に行っている。詳細は各分科会報告を参照していただきたい。本年は昨年を引き続き共通教育授業担当者向け FD に関するアンケート調査を実施した。また 3 月に共通教育授業担当者向けに FD 研修を実施した。

アンケートの実施について

本年は 3 ヶ年計画に基づき、FD 研修の効果を検証するため、メールにて授業担当者向けアンケートを実施した。また、昨年に引き続きニーズ調査を行った。

ニーズ調査については、回答者数 25 と昨年より少なくなった。テーマ別にまとめると、授業の雰囲気作りと回答した方が最も多く、ついで、スタディースキルに関する事と参加型授業づくりについてが同数、ついで教育効果について、IT 活用について、学生支援に関する内容についての順であった。最近では高機能自閉症など、支援の必要な学生が増加しているが、それを実感している授業担当者は少数のようであった。

上記の内容には、例えば「Clica の利用方法について」のような新規の内容も含まれるが、この他に新しい研修を希望するかという質問に対して、以下の様な希望があった。

- ・新入生は高校で何を学習してきたか。
- ・高校ではどのような授業が実践されているのか。
- ・大学生の学習意欲はどういう状況にあるのか。また、何を身に付けたいと考えているのか。
- ・大学の授業における技術と内容の関連について。
- ・新入生の国語力をどう評価すべきか。

これらの内容については、是非とも授業の最初に受講生とのコミュニケーションによって情報を収集していただきたい。さらに以下の様な記述もあった。

- ・良い授業をみせてほしい

「良い授業」が何を差しているかにもよるが、授業参観を受け入れている授業は幾つもあるので、是非情報を収集して参観していただきたい。なお、大学教育創造部門の教員が担当している授業は TBL 型と PBL 型があり、すべて OJT 教員の受け入れをしており、参観も常に受け入れている。これらの情報は毎年度はじめに情報を公開している。

FD 研修の効果検証に関するアンケートの回答者は 57 名、このうち 3 年以内に FD 研修に参加した方は 25 名であった。高知大で行う FD 研修の大部分は年度末までに次の年度のスケジュールを決めて公開している。

参加しなかった理由として、目新しいものが無い、日程が合わない、予定していたが別の公務が入ったなどがあった。希望する研修が高知大で行われていない場合、是非ニーズ調査アンケートに記入していただきたい。

参加された 25 名の回答については、ポジティブなアクションプランを作成している方が多数であった。実際に取り組みに繋がり、効果を上げることを期待する。また、ご希望があれば個別のアフターケアもできるので、問い合わせいただきたい。

FD 研修の実施

本年は、以下の研修を行った。

日時：3 月 5 日、場所：朝倉キャンパス 310、内容：Clica 利用方法について、イメージマップ、地域課題を授業に取り入れる。

Clica はスマホ（または PC）を端末として実現する PRS（パーソナルレスポンスシステム）で、教員はインターネット接続できる PC からオンライン学習支援システムでコースを開講することで、すぐに利用でき、しかもクリッカーのような高価なシステムや事前にパワーポイントに組み込む準備などがいらぬのが特徴である。研修では、実際にスマホやタブレット端末でログインし、回答をしてもらった。スマホしかもって来ていなかった方は、オンライン学習支援システムでコースを作る部分が一部正常に動作しなかったため、次回までの改善課題となった。

イメージマップはマインドマップを元にしており、アイデアを発散させたいとき使える手法である。これを書くときに時間を短めに、ノルマを多めに設定してグループで書かせることによって、ブレインストーミング的な使い方も可能になり、アイデアを発散させるときにはこの方が効果的である。研修では、田中省三氏が作成した大好き Map を使い、アイスブレイキングとして使い、アイスブレイキングについても同時に研修内容に組み込んだ。

地域課題を授業に取り入れる研修では、授業テーマ、授業の目標と関連づけて地域課題を組み込んで授業をデザインし、参加者によって相互にブラッシュアップを行った。今回の参加者は、既に経験があったりしてかなり実現可能性の高そう

なものができあがった。

FD 研修の改善について、ふりかえりの実施

FD 研修は通常参加者に対してアンケート調査を実施するが、3ヶ年計画でFD研修の効果検証について利用できる資料が無かったため、本年は効果検証アンケートを実施した。何を調べれば効果が検証できるかという点が非常に難しかったところであるが、研修が効果的であった場合はポジティブなアクションプランができ、実際に授業に導入するという行動変容がみられると仮定し、アンケートを作成した。

本年から、研修はできるだけワークショップ形式で行い、ワークショップ型研修では必ずふりかえりを行って、この中からアクションプランや感想からFD研修効果を抽出しようと考え、アンケートに変えてふりかえりを実施する事にした。

FD 効果検証アンケート（メールで実施）

~~~~~

2011-2012年度「共通教育」授業担当者各位  
（オムニバス授業の担当教員も含む）

#### 共通教育実施機構会議FD部会

共通教育の授業実施では、平素よりご協力賜りありがとうございます。

さて、共通教育実施機構会議FD部会では、このたび「教育力向上三カ年計画」に係るFD効果検証アンケートを実施することとなりました。

本アンケートは、第Ⅲ期教育力向上三カ年計画の最終年度の振り返りとして、FD部会の活動における成果・効果を検証するものです。

大変お手数ではありますが、下記アンケートフォームに直接ご入力いただき、本メール宛て（学務課共通教育係）に6/10（月）までにご回答いただきますようお願い申し上げます。

---（以下アンケートフォーム）-----

担当授業科目の分科会名を選び、括弧内に“○”を御記入ください（複数回答可）。

( ) 大学基礎論, ( ) 課題探求実践セミナー, ( ) 学問基礎論, ( ) 人文分野, ( ) 社会分野, ( ) 生命・医療分野, ( ) 自然分野, ( ) 外国語, ( ) キャリア形成支援科, ( ) スポーツ健康, ( ) 日本語・日本事情

以下2011～2012年度のFD研修についてご回答ください。

1. この間に参加したFD研修がありますか？以下の選択肢からお選びいただき、括弧内に“○”を御記入（複数選択可）の上、記述欄に御記入ください。

- 1 ( ) 参加していない  
理由をお書きください。

\* 参加していない皆さんはこれ以後の回答は不要です。ご協力ありがとうございました。

- 2 ( ) 検討会を伴う授業参観  
3 ( ) ピア・レビュー  
4 ( ) シラバス改善に関する研修  
5 ( ) グループワークに関する研修  
6 ( ) プレゼンテーションに関する研修  
7 ( ) 成績評価に関する研修  
8 ( ) ファシリテーションに関する研修  
9 ( ) 初年次科目担当者研修  
10 ( ) その他の研修

研修のタイトルが分かる場合お書きください。

タイトルが分からない場合内容を簡単にお書きください。

2. 設問1にご回答いただきました研修の際にご自身が立てられたアクションプラン、またはすぐに取り入れてみようとお感じになったことがらを具体的に箇条書きでお書きください。

3. 研修の後、実際に取り組まれたことは何ですか？実際に取り組まれた事柄、その効果について具体的に、箇条書きでご回答ください。

ご協力ありがとうございました。

**共通教育 FD 研修ニーズ調査**

~~~~~

共通教育実施機構 研修メニューのニーズ調査 (2013)

共通教育実施機構の活動にいつもご協力ありがとうございます。共通教育実施機構は、授業担当教員の授業改善を支援すべく、研修ニーズの調査を行うことになりました。授業でお困りのことはございませんか？実施を希望する研修と開催時期に関する以下の調査にご協力ください。

ご担当科目の分野：

以下の研修（例）の中に、ご関心のある研修がある場合は回答欄に「○」を御記入ください。以下の例以外に関心のある研修がある場合は裏面（2 頁目）の記入欄に具体的に御記入ください。

	回答欄
授業計画について	
分かり易い 15 回の授業デザイン、各回の授業の組み立てかた	
時間外学習を促すシラバスの書き方	
成績評価の方法（目標の設定と評価）	
楽チンでぶれない、ルーブリック評価シートの作成と成績評価	
教育効果について	
「記憶」のメカニズムと効果的学習方法	
大人数講義を魅力的にするテクニック	
教育効果を高める協同学習の基本	
スタディースキルについて	
「レポートの書き方」の教え方	
「プレゼンテーションの方法」の教え方	
「日本語技法」の教え方	
「情報整理の方法」の教え方	
授業の雰囲気作りについて	
教室の雰囲気を変えるクラスルームコントロール術	
一瞬で雰囲気を変える！ 学生を眠らせない講義法のコツ	
動機を高める第 1 回目の授業作り	
講義のための信頼される話し方入門	
学生が参加する授業づくりについて	

効果的なグループワークの技法	
講義を少しだけ参加型にする手法	
Clica 使い方講習・一瞬で大人数授業の雰囲気を変える方法	
インプット型授業の効果を高め、進度を落とさずに協同学習を行う手法、チーム基盤型学習 (TBL)	
初年次科目のためのグループワークの技法	
グループワークのためのファシリテーション入門	
IT 活用について	
見やすい PowerPoint 資料の作り方	
プレゼンテーションのコツ	
時間外学習を支援するためのオンライン学習支援システム, Moodle, 授業収録装置の使い方	
学生の支援について	
学生の自律を促す学生支援の実践とコツ	
発達障がいのある学生に対応した授業方法入門編～すべての学生に優しい授業～	
ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ	
表面 (1 頁目) 以外で関心のある研修等 (具体的にお書きください)	

開催時期についてお尋ねします。研修を希望する時期をお書きください。		
授業期間中の開催をご希望される場合	1 学期	2 学期
何曜日の何限をご希望されますか? (第一)		
何曜日の何限をご希望されますか? (第二)		
何曜日の何限をご希望されますか? (第三)		
授業期間外の開催をご希望される場合		
ご希望の開催時期や時間帯を御記入下さい。(第一)		
ご希望の開催時期や時間帯を御記入下さい。(第二)		
ご希望の開催時期や時間帯を御記入下さい。(第三)		

3 課題探求実践セミナー分科会

課題探求実践セミナー分科会長 俣野 秀典（総合教育センター）

課題探求実践セミナー副分科会長 田中 壮太（農学部）

本年度も FD 関連のイベントへの参加はあまり多くないが、担当者それぞれが自身の授業で「授業改善アクションプラン」や「スチューデント・フィードバック」に取り組んでおり、特に授業コンサルテーションについては、実施件数 9 件のうち 6 件が課題探求実践セミナー担当者であることから、課題探求実践セミナー担当教員は比較的積極的に FD 活動を実施していることがうかがえた。

実施を予定していた以下の 3 項目については、1. 授業参観およびスチューデント・フィードバックの形で実施、3. 学内ファシリテーション研修への参加が確認された。

1. 相互授業参観等の実施。
2. 授業担当者報告会・意見交換会。
3. 学内ファシリテーション研修への参加。

課題探求実践セミナーは、教員が教え込む授業ではなくグループワーク型の授業であることから、OJT-FD 教員の参加および受け入れが最も有効な FD 活動の一つであると考えられる。よって来年度は、自由探求学習などチームビルディングに力を入れている授業への受け入れ、特に初回から 3 回目あたりに受け入れることで、学生の変容とファシリテーターとしての教員の役割を体感・体得できるように取り組んでいきたい。また、毎年 3 月に開催されている FD セミナー「初年次科目のためのグループワークの技法」および「グループワークのためのファシリテーション入門」への参加呼びかけを行いたい。

平成 25 年度の FD 活動のうち、課題探求実践セミナー担当者が参加・実施した代表的なものは以下のとおりであった。

1. 全学向けの FD フォーラム／プログラム（学部開催を除く）への参加

8 月 20～23 日	SPOD フォーラム	25・26 年度担当者	
	4 名		
1 月 25 日	全学 FD フォーラム	25・26 年度担当者	6 名
		26 年度担当者	1 名
3 月 27 日	グループワークのためのファシリテーション入門	26 年度 OJT 予定教員	1 名

2. 授業改善アクションプラン（5 週目アンケート、授業参観）の実施授業

前期 二つの授業で実施

3. スチューデント・フィードバックの実施

後期 六つの授業で実施

5 人文分野分科会

人文分野副分科会長 原崎 道彦 (教育学部)

FD 部会での審議と活動計画書をもとに、副分科会長から、授業担当教員に対して、今年度の人文分野独自のFD のテーマとして「授業および試験における不正行為対応の現状と課題」を提案し、了承された。

今年度の「国立大学教養教育実施組織会議 国立大学教養教育実施組織事務協議会」(6月、熊本大学)の資料をもとに、副分科会長が、全国の国立大学における不正行為対応等の現状にかんするデータのとりまとめをおこなった。

1月22日にFDを開催した。FDでは、最初に、副分科会長が作成した資料をもとに、不正行為対応にかんする全国状況を概観した。2つのことが確認された。

- 試験時における不正行為だけでなく、レポート盗作や代理出席なども処罰の対象としている大学が多数存在すること。
- 処罰としては、ほとんどすべての大学が、当該学期のすべての授業の単位不認定をおこなっているほか、休学処分を科している大学も多数存在していること。

全国状況の概観のあと、不正行為対応にかんする意見交換をおこなった。意見交換は、おもに、不正行為という現象の背景にあるものをめぐっておこなわれ、授業へのモチベーションの低下が指摘された。授業をとおして(あるいは授業をきっかけとして)ものごとを知り、考えてゆこうとするモチベーションが低下し、授業への出席が、たんに単位をそろえるための手段となっているという現実である。「取締りの強化や厳罰化は不正行為への根本的な対応とはなりえない。知ること・考えることへのモチベーションを高める授業をおこなうことが、不正行為をなくすための基本である」ことを共通認識として確認してFDを終えた。

7 生命・医療分科会

生命・医療副分科会長 矢野 宏光（生命・医療副分科会長）

平成 25 年度の生命・医療分科会 FD 活動は、当初の計画に則り、それを以下のように遂行・評価しましたのでご報告します。

1-1 目的：授業改善

目標：他者評価による授業改善

対象：教職員全体

計画（実施内容）：授業参観（健康や体育系授業参観を企画し、評価と改善を行う）

1-2 評価

1・2 学期開講の健康・体育系の実技と講義を教員が相互に授業参観し、授業内容を評価した。その後、1ヶ月に1回のペースで4回の評価会を開催し（11月10日、12月9日、1月27日、2月10日）、授業の改善に向けた意見交換を実施した。

2-1 目的：授業内容改善

目標：有効な授業運営方法の開発

対象：健康・体育系教員

計画（実施内容）：検討会の実施（個々の授業運営に関する方法論を検討する）

2-2 評価

1・2 学期開講の健康・体育系の実技と講義について、授業担当者が授業運営における課題点を挙げ、その課題に対して教員間で問題解決に向けた検討を行った。検討会は合計3回実施した（12月16日、2月24日、3月10日）。

検討課題の中心は、①多数の受講者に対する効果的な授業の方法（教授法・講義内容・教材開発等）、②より円滑な授業運営（出席確認等）について検討した。

1.1 スポーツ・健康分科会

スポーツ・健康分科会副分科会長 常行 泰子（教育学部）

FD 部会での審議及び活動計画書をもとに、教育学部スポーツ・健康分科会独自の FD 企画を検討した結果、以下の企画が実現した。

●共通教育授業「フィットネス」履修者に対する授業後のフォローアップ教室開催

共通教育授業の単位を修得した後も、「身体を動かしたい」と希望した学生が数名いた。特に、4回生はほぼすべての単位を修得し、将来に備えて健康管理をする必要性が非常に高いと考えている。よって、オープンクラスである授業や公開講座、科研事業における健康運動教室において、単位とは関係なく学生が数名参加いたしました。教材の運搬なども積極的に行い、また、地域住民の方々とも交流をはかるなど、単に身体を動かすだけでなく、主体的かつ積極的に運動に取り組む姿勢が育まれたことが推察されます。



●共通教育授業「フィットネス」履修者に対する振り返りシートの作成

単位修得や全学的に実施しているアンケートとは別に、教員が独自に作成した3項目からなる振り返りシートの記入を依頼した。A4版1枚からなる調査票には、①授業の感想、②今まで受けた体育の授業と異なる点や新たに身についた知識・技能があれば記入、③今後の健康づくりや運動実施に対して考えていること、の3項目が設定され、学生が任意で記入する形式をとった。主な記載事項は下記のとおりである。

- ① 「毎日課題に追われている状態だったので、この時間がいい汗をかいてストレスを発散することができました」「心が Happy になれる授業だったと思いました」「アルバイトで積み積もったストレスがたった1限で発散しました」他
- ② 「この授業のおかげで体育が好きになりました」「健康についての知識が増えました」「1kgの脂肪が7200kcalなど、この授業で習った知識はほぼ全て新しいものでした」他
- ③ 「バランスボールを買ったので、家でも乗るようにしています」「自分のペースで健康づくりのための運動をしていきたいと思います」他

●共通教育授業「スポーツ科学講義A」履修者に対する質問紙調査

単位修得や全学的に実施しているアンケートとは別に、教員が独自に作成した30項目からなるA4版1枚の質問紙調査を実施した。質問項目は、現在の運動・スポーツ実施における行動変容ステージ、運動セルフ・エフィカシー、運動に際しての人的支援、運動に対する態度、過去の運動・スポーツ実施における楽しさ経験、平日と休日の自由時間、勉強時間、アルバイトの時間である。191票回収した。紙面の都合上、本調査の内容は別途研究論文等を通じて詳細に報告する予定である。

1 2 日本語・日本事情分科会

日本語・日本事情分科会副分科会長
林 翠芳（国際・地域連携センター）

1. 活動の概要

日本語・日本事情科目は、第1学期に「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本事情Ⅰ」、「日本事情Ⅱ」、「日本事情Ⅲ」、第2学期に「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本事情Ⅳ」、「日本事情Ⅴ」、「日本事情Ⅵ」が開講されている。

日本語・日本事情分科会では、2006年度～2008年度にわたって分科会独自の形式で授業評価アンケートを全科目の受講学生を対象に実施した。それにより、各授業の自己点検評価活動が行われるとともに、共通教育日本語・日本事情科目のあり方を考えていく基礎資料とすることができた。

それを踏まえて、2009年度以降は、日本語・日本事情分科会では「学期末授業評価アンケート」は行わず、「第Ⅱ期 教育力向上3カ年計画」に基づく「5・15週目アンケート」に関する自己点検評価活動を個人ベースで実施するとともに、2012年度は日本語・日本事情科目の特性である少人数制授業に焦点を合わせ、自己点検評価部会活動と連動させた「授業ピアレビュー」を中心とする活動を行った。「授業ピアレビュー」活動の詳細に関しては、2012年度日本語・日本事情分科会自己点検評価部会活動報告を参照されたい。

2013年度は主にFD講習会の参加を中心に活動を行った。参加した講習会等は下記2と3である。

2. 全学FD講習会

「少グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～」
日時：2013年9月5日（木）

3. 全学FDフォーラム

「課題探究実践セミナーの新展開」～地域・コンピテンシー・学生の成長～

日時：2014年1月29日（水）

以上

V 広報部会

1 広報部会のまとめ

広報部会長 玉木 尚之 (教育学部)

1. 本年度広報部会の構成

部会長：玉木尚之 (教育学部)

緒方賢一 (人文学部) 野角孝一 (教育学部) 石川慎吾 (理学部)

山脇京子 (医学部) 原 忠 (農学部)

2. 本年度部会の活動方針

広報誌「パイプライン」の発行 (年 2 回)、電子化した「パイプライン」の読まれ方に関する調で調査方法の検討を行う。

3. 本年度部会の活動報告

3-1) 概要

臨時 1 回を含め、6 回の部会をメール会議で開催した。

電子化した広報誌「パイプライン」の読まれ方について、Google アナリティクスによってアクセス数を確認し、分析検討した。

「パイプライン」第 41 号を 6 月に、第 42 号を平成 26 年 2 月に発行 (掲示) した。また、第 43 号の編集作業を行った。

3-2) 部会議事と関連会議事項

・ 第 1 回部会 (メール会議) 平成 25 年 5 月 22 日 (水) ~ 5 月 31 日 (金)

1. 昨年度の活動と課題の確認
2. 平成 25 年度活動計画について

※ 7 月 23 日 第 5 回常任委員会・7 月 26 日 第 2 回共通教育実施機構会議で報告。

・ 第 2 回部会 (メール会議) 平成 25 年 9 月 17 日 (火) ~ 9 月 25 日 (水)

1. 「パイプライン」42号の発行 (1月発行) について

※ 10 月 24 日 第 7 回常任委員会・10 月 29 日 第 3 回共通教育実施機構会議で報告。

・ 臨時部会 (メール会議) 平成 26 年 1 月 16 日

1. 「パイプライン」42号の記事追加について

・ 第 3 回部会 (メール会議) 平成 26 年 2 月 10 日 (月) ~ 2 月 13 日 (木)

1. 「パイプライン」第 43 号の発行について

※ 3 月 13 日 第 11 回常任委員会・3 月 19 日 第 6 回共通教育実施機構会議で報告。

・ 第 4 回部会 (メール会議) 平成 26 年 2 月 27 日 (木) ~ 3 月 5 日 (水)

1. 医学部記事担当のローテーション軽減について
2. 「パイプライン」発行業務について
3. 「パイプライン」の読まれ方の調査について

※2・3について、3月13日第11回常任委員会・3月19日第6回共通教育実施機構会議で報告。

度・第5回部会（メール会議）平成26年3月8日（土）～3月13日（木）

1. 本年度活動報告書について

3-3)本年度の審議内容の概要

3-3-1)「パイプライン」発行業務の自己点検・評価について

「パイプライン」の読まれ方を、Google アナリティクスによるアクセス数の調査で実施した。第41・42号の発行直後に2～300の訪問があったので、メールマガジンの効果でそこそこ読まれたことがわかり、電子化による改善がある程度実現されたと判断した。

3-3-2)「パイプライン」の編集・発行について

- ・前年度に編集を終えていた第41号を6月にHPに掲載した。
- ・第42号を平成26年2月にHPに掲載した。
 - ・特集は分科会で、ローテーションに従って〔外国語 日本語・日本事情〕であった。
次年度以降：〔キャリア支援 スポーツ・健康〕→〔人文 自然〕→〔大学基礎論 課題探求実践セミナー 学問基礎論〕→〔社会 生命・医療〕（ただし、教養の頁等とのバランスを考慮して変更する可能性があることが了承されている）。
 - ・教養の頁は、ローテーションで理学部であった。担当者が少ないのでローテーションに配慮してほしいという医学部からの要請を了承した。
次年度以降：教→農→人→理→医となる
- ・FD 部会報告
- ・学生委員会の頁
 - 原稿料は、学生委員会活動に対する謝金という形で支出する。内容は学生の創意工夫に任せるが、共通教育に関する内容としてふさわしいか再検討の必要がある。
- ・事務からのお知らせ：COC 事業の「地域関連科目」の紹介
- ・第43号の編集を行った（発行は次年度5～6月）。
 - ・特集は、共通教育科目のローテーションで「共通専門科目」であった。
 - ・自己点検・自己評価部会報告

4. 次年度（以降）の課題

- ・「パイプライン」編集・発行の時期や編集作業のあり方の検討（継続）。
 - ・42号については編集作業に時間がかかり、発行が予定より遅れた。43号は、部会長が開始時期を失念して作業に入るのが大幅に遅れ、学生記者の確保に難儀した。作業の日程をきちんと確認し、早めに開始し、記事の回収も遅延しないよう気をつける必要がある。
また、編集については異動時期を考慮すること、発行時期については直後が重要であることから、試験期間を避けるなどの拝領が重要であることが指摘された。
- ・読まれ方調査を毎年継続していく必要がある。

VI カリキュラム等開発部会

1 カリキュラム等開発部会のまとめ

カリキュラム等開発部会長 石筒 覚(人文学部)

(1) 環境アクションプロデューサープログラムの実施

「社会協働実践」(教養科目・社会分野)を実施し、2名がプログラムを修了した。

(2) 課題探求型授業の実施、授業改善および開発

中山間地域におけるサービスラーニングと振り返りを行う「協働実践自己分析」(教養科目・社会分野)、スポーツ健康分野でサービスラーニングを行う「サービスラーニング演習」(教養科目・社会分野)を実施した。また、「課題探求実践セミナー(国際協力入門)」では、次年度において、地域における体験型の協力実習を取り入れる内容を検討し、地域との調整を行った。

(3) ジェネリックスキルテスト (PROG) の実施

課題探求実践セミナーを受講登録した学生を対象(農学部は未登録の学生も含む)に、ジェネリックスキルテスト (PROG) を、4月17日、24日(朝倉キャンパス)、4月19日、23日(岡豊キャンパス)で実施した。受験者数は763名であった。内訳は下記の通り。

所属	人数
人文学部	67
教育学部	160
理学部	186
医学部	169
農学部	164
T S P	17
計	763

また、5月22日・23日に解説セミナーを実施した。次年度においても同様の規模で実施するとともに、昨年度受けた学生が3年生になるため、その学生に対しても受験を呼びかけ、結果を比較する予定である。

Ⅶ 学生委員会

1 学生委員会のまとめ

共通教育学生委員会委員

共通教育学生員会は3回生・4回生のメンバーで構成されており、共通教育の授業をはじめ、高知大生の学生生活を過ごしやすく良いものにするために活動を行っています。

25年度の活動としてはまず、高知大生が現在の共通教育の授業や普段の学生生活、また学校の設備について不満を持っていないか、それについての改善点はないかアンケート調査を行いました。このアンケート調査には、共通教育学生委員会の支援教員である立川先生の授業の受講者や、校内にいる学生に対して行ったため学部、学年に偏りなく幅広い学生の意見を聞くことができましたと思います。アンケート調査の結果、共通教育の授業では、先生の声が聞こえづらいことやパワーポイントが見づらいというような意見がありました。また、自転車をきちんと自転車置き場に置いていない学生が多いことや、授業終了後の教室にゴミが落ちていることなど、学生のマナーに対する意見が多かったように感じました。他には、学校生活の不満点として、学部内の交流はあるが他学部との交流が少ないので、他学部との交流する場をもっと増やしてほしいという意見もありました。このアンケートをうけ、共通教育学生員会では、自転車マナーに関しては学期の始まりごとに声掛けをすることや自転車マナーに対する看板をたてるという案を出しました。また、他学部間の交流には高知大学の学生が行っている学生団体の方にそういった場の提供をして貰うのはどうだろうかという案も出ました。これについては、まだ案を出している状態なので今後、このアンケートを活かした活動ができたらいいなと思っています。

次に行ったのが、LAN環境で使用するネットワーク型学習システムの「ALC NetAcademy2」についての宣伝です。高知大生なら無料で学習できるのですが、学生の認知度が低く利用している学生が少ないのが現状です。これを多くの学生に知ってもらうために学内で宣伝するため、食堂の机におけるように三角POPの作成を行いました。

最後に共通教育学生員会が毎年参加しているSPODフォーラムへの参加です。SPODフォーラムとは四国の大学生と全国の教員が集まり、今後より良い大学にしていくための話し合いや講義、交流を行う場です。その中の「キャンパス元気プロジェクトきゃんぱす*こらぼれーしょん」に参加しました。この企画はこれからの学生生活を考える中で話し合ってみたいことに関してグループ内でテーマを決め、ディスカッションを行う企画でした。毎年参加しているSPODフォーラムでは多くの他大学の学生や教員と接することができ、様々な意見を交わすことで自分自身の大学生活にもそれを活かすことができると考えています。そういったことからSPODフォーラムへの参加は共通教育学生委員会としても自分自身としても良い刺激となっていると思います。

25年度はこのような活動を行ってきました。アンケート調査に関しては実行に移すことができているや、3・4回生しかいないため1年生の勧誘をすることが今後の課題であると思います。